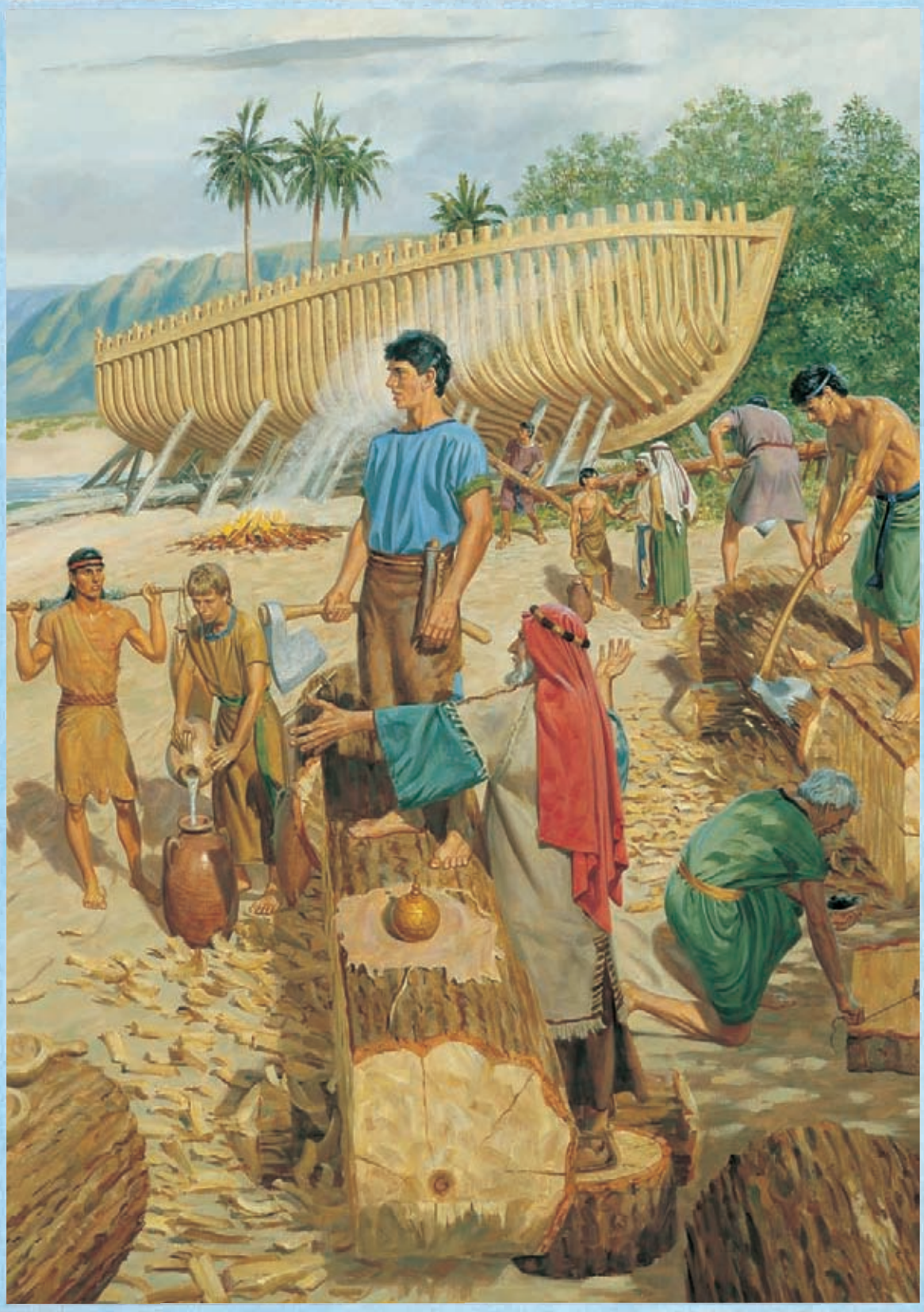
モルモン書ものがたり



モルモン書
ものがたり

末日聖徒イエス・キリスト教会発行

©1978, 1985, 1997, Intellectual Reserve, Inc.
版権所有
印刷：日本
英語版承認 1996年8月
翻訳承認 1996年8月
原題：Book of Mormon Stories
Japanese
35666 300

目　次

しょう　　だいめい

はじめに……1
1 モルモン書のしゅつげん……2
2 リーハイのけいこく……5
3 エルサレムを出て行くリーハイ……6
4 しんちゅうのはん……8
5 あれ野のたび……13
6 リーハイのゆめ……18
7 船のけんせつ……21
8 海をわたる……23
9 やくそくの地での新しいくらし……25
10 ヤコブとシーレム……27
11 エノス……30
12 ベニヤミン王……32
13 ゼニフ……36
14 アビナダイとノア王……38
15 教えをとき，バプテスマをほどこすアルマ……43
16 リムハイのたみのだっしゅつ……45
17 のがれるアルマのたみ……47
18 むすこアルマのくいあらため……49
19 せんきょうしになったモーサヤのむすこたち……53
20 アルマとニーホル……54
21 アムリサイ人……56
22 アモナイハでどうするアルマ……58
23 いだいなしもべアンモン……64
24 アンモン，ラモーナイ王の父に会う……69
25 ラモーナイ王の父にふくいんをのべつたえるアロン……71
26 アンモンのたみ……73
27 コリホル……75
28 ゾーラム人とラミアンプトム……78
29 しんこうと神のことばについて教えるアルマ……81
30 むすこたちをいましめるアルマ……82
31 しれいかんモロナイ，ゼラヘムナをうちまかす……85
32 モロナイとじゆうのはた……89
33 王せいとうとじゆうとう……91

34 ヒラマンと2,000人のわかいへいしたち……93
35 しれいかんモロナイとパホーラン……95
36 ハゴス……98
37 ろうやに入れられたニーファイとリーハイ……99
38 大さばきつかさ，ころされる……103
39 ニーファイ，大きな力をさずかる……108
40 レーマン人サムエル，イエス・キリストについて話す……111
41 キリストのたんじょうのしるし……114
42 キリストのしるし……117
43 ニーファイ人にみすがたをあらわされたイエス・キリスト……120
44 イエス，子どもたちをしゅくふくされる……124
45 イエス・キリスト，せいさんとおいのりについて教えられる……126
46 イエス・キリスト，ニーファイ人たちを教え，ともにいのられる……128
47 でしたちをしゅくふくされるイエス・キリスト……131
48 へいわなアメリカ……136
49 モルモンとその教え……138
50 バベルをはなれるヤレドのたみ……143
51 やくそくの地へむかうヤレドのたみ……145
52 ヤレドのたみのめつぼう……149
53 モロナイとその教え……154
54 モルモン書のやくそく……156
ことばのせつめい……157
人のせつめい……163
ばしょのせつめい……165
モルモン書のとうじょうじんぶつ……166
さくいん……168

はじめに

どくしゃのみなさんへ

このモルモン書ものがたりはあなたのためにとくべつに作られた本です。この中にのっている話は，天のお父さまからあたえられたしんせいなしょもつをもとにして書かれています。むかしアメリカたいりくにすんでいた人びとについて書かれた本当の話であることをいつもおぼえて，読むようにしましょう。

この本に書かれているものがたりを読むと，モルモン書からも読んでみたくなるでしょう。それぞれの絵の下を見ると，そのものがたりがモルモン書のどこに出ているかが分かります。お父さんや，お母さん，先生やお友だちから教えてもらってもよいでしょう。

分からないことばが出てきたら，この本の後ろにある「ことばのせつめい」を見てください。モルモン書に出てくる人びとやばしょもこの本の後ろでせつめいされています。

両親と教師の皆さんへ

本書は，皆さんが聖文について教えるときに役立てることができます。モルモン書についての証を述べ，あなたが教えている子供たちも自分自身の証を得たいと望むように導いてください。モルモン書から子供たちの好きな物語を読んで聞かせると，子供たちのモルモン書に対する理解が深まることでしょう。

モルモン書のしゅつげん

だい1しょう

ジョセフ・スミスが14才の時，いろいろな教会が，自分の教会こそ正しい教会だと言いはっていました。そのためジョセフは，どの教会に入ったらよいのか，分かりませんでした。（ジョセフ・スミス—れきし1：5—10）

ある日，ジョセフは，聖書のヤコブの手紙だい1しょう5せつを読んでいました。「あなたがたのうち，ちえにふそくしているものがあれば，神にねがいなさい。」どの教会が正しいのか知りたいと思ったジョセフは，神にたずねようとけっしんしました。（ジョセフ・スミス—れきし1：11—13）

ジョセフは，ある春の日，いのろうと家の近くにある森の中へ入って行きました。（ジョセフ・スミス—れきし1：14）

ジョセフがひざまずいて，おいのりをはじめると，サタンがやめさせようとしました。ジョセフはけんめいに，天父にたすけをもとめました。（ジョセフ・スミス—れきし1：15—16）

ジョセフは，光のはしらの中に天父とイエス・キリストを見ました。天父はイエスをさして，「これはわたしのあいする子である。かれに聞きなさい」とおっしゃいました。（ジョセフ・スミス—れきし1：16—17）

ジョセフは，どの教会に入ればよいのかを，たずねました。すると，イエスはどの教会にも入ってはならない，「なぜなら，すべてまちがっているからである」とお答えになりました。（ジョセフ・スミス—れきし1：18—19）

ジョセフが，自分の見聞きしたことを人びとに話すと，いろいろな教会のしどうしゃたちは，ジョセフをつめたくあしらい，くるしめました。（ジョセフ・スミス—れきし1：21—22）

3年がすぎたある夜，ジョセフは自分のつみのゆるしをもとめていのり，何をすべきかたずねました。（ジョセフ・スミス—れきし1：29）

すると，モロナイという名のてんしがおとずれて，きんばんに書かれている，きろくについてつげました。ジョセフはそのきろくをえいごにほんやくすることになっていると言いました。（ジョセフ・スミス—れきし1：33—35）

モロナイが天にもどってから，ジョセフは，つげられたことについて思いめぐらしました。モロナイはその夜，さらに2回あらわれ，つぎの朝もおとずれました。（ジョセフ・スミス—れきし1：44—47）

つぎの日，ジョセフはじげんで見たクモラのおかのちょうじょうへ行きました。そこには大きな岩があり，ジョセフは，その岩をぼうでもち上げました。（ジョセフ・スミス—れきし1：50—52）

岩の下には石でできたはこがありました。ジョセフはこのはこの中を見ると，きんばんがありました。（ジョセフ・スミス—れきし1：51—52）

その時モロナイがあらわれ，4年間毎年同じ日にここへもどって来るいがいは，きんばんを手にしてはいけないとつげました。ジョセフが1年ごとにそこへ行くたびに，モロナイはジョセフにしじをあたえました。（ジョセフ・スミス—れきし1：53—54）

4年たってついにジョセフはきんばんを手にするのをゆるされました。そこで，ウリムとトンミムによって，いちぶをほんやくしました。（ジョセフ・スミス—れきし1：59，62）

後になって，ひっきしゃとよばれる人が，ジョセフをたすけました。ジョセフがきんばんに書かれていることをえいごでのべ，それをひっきしゃが書きとりました。（ジョセフ・スミス—れきし1：67）

ジョセフはほんやくしたものをいんさつじょに持って行きました。それが本になったのです。（『教会れきし』〔えいぶん〕，1：71）

その本はモルモン書とよばれています。昔，アメリカたいりくにすんでいた人びとについて書かれています。神のおん子イエス・キリストについてのもう一つのあかしです。（モルモン書じょぶん）

リーハイのけいこく

だい2しょう

キリストがお生まれになる600年前，エルサレムのほとんどの人びとは，わるいことをしていました。神はよげんしゃをつかわして，くいあらためるようにめいじられましたが，人びとはあらためようとはしませんでした。（1ニーファイ1：4）

リーハイはよげんしゃでした。リーハイは人びとがくいあらためるようにいのりました。いのっていると，火のはしらがあらわれ，神がリーハイに多くのことを語り，お見せになりました。（1ニーファイ1：5−6）

リーハイは家に帰り，じげんを見ました。神が大ぜいのてんしにとりかこまれているのを見たのです。てんしたちは，神をほめたたえて歌っていました。（1ニーファイ1：7−8）

そのじげんの中で，リーハイは1さつの本をあたえられました。その本には，しょうらいおこることが書かれていました。リーハイは，人びとのわるい行いのためにエルサレムがほろぼされることを知りました。（1ニーファイ1：11−13）

リーハイは人びとに，エルサレムがほろぼされることを知らせました。また，イエスが来られることについても話しました。ところが，人びとはリーハイにはらを立て，ころそうとしました。しかし，主はリーハイをおまもりになりました。（1ニーファイ1：18−20）

エルサレムを出て行くリーハイ

だい3しょう

主はリーハイの行いをおよろこびになり，ある夜，ゆめの中で，リーハイに話しかけられました。主はリーハイに，かぞくをつれてエルサレムから出て行きなさい，とおっしゃったのです。リーハイは，主がめいじられたとおりにしました。（1ニーファイ2：1－3）

リーハイのかぞくは，家や金ぎんをエルサレムにのこし，食べものとてんまくだけをもって，あれ野へ出て行きました。（1ニーファイ2：4）

リーハイのつまの名前は，サライアといいました。二人には，レーマン，レムエル，サム，ニーファイという4人のむすこがいました。（1ニーファイ2：5）

3日後に，リーハイのかぞくは，川のほとりの谷にてんまくをはりました。（1ニーファイ2：6）

そこでリーハイは，石で一つのさいだんをきずき，神にささげものをささげて，かぞくがほろぼされずにすんだことを神にかんしゃしました。（1ニーファイ2：7）

リーハイはその川をレーマンと名づけ，谷をレムエルと名づけました。リーハイは，むすこたちがこの川や谷のようにたえまなく神のもとにながれこみ，神のいましめをしっかりとまもるようにねがったのです。（1ニーファイ2：8－10，14）

レーマンとレムエルは，ざいさんをおいてエルサレムを出て行くなんて，お父さんは何ておろかなのだろうと思っていました。エルサレムがほろびることを，まったくしんじていませんでした。（1ニーファイ2：11，13）

しかし，ニーファイはリーハイが見たことをもっと知りたいと思っていました。そして，お父さんがエルサレムを出たのは，正しいことなのかどうか分かるようにおいのりしました。（1ニーファイ2：16）

すると，イエス・キリストがニーファイをおとずれ，リーハイの言うことは正しいとおっしゃいました。ニーファイはお父さんのことばをしんじ，レーマンやレムエルのようにさからいませんでした。（1ニーファイ2：16）

ニーファイはにいさんたちに，イエスから知らされたことを話しました。サムはしんじました。でも，レーマンやレムエルはしんじようとしませんでした。（1ニーファイ2：17－18）

主はニーファイに，「あなたはしんこうがあるのでしゅくふくされます。あなたは兄たちのしどうしゃになるでしょう」とおっしゃいました。（1ニーファイ2：19－22）

しんちゅうのはん

だい4しょう

リーハイはニーファイに言いました。「主は，あなたたちがエルサレムに帰るようにのぞんでおられる。ラバンという人のところから，しんちゅうのはんをもって来るのだ。」（1ニーファイ3：2–4）

しんちゅうのはんは，大切なきろくでした。リーハイのせんぞのことや，神がよげんしゃにお話しになったことが書かれていたのです。（1ニーファイ3：3，20）

レーマンとレムエルは，気がすすまなかったので，しんちゅうのはんを手に入れるのはとてもむりだと言いました。二人は主をしんじていなかったのです。（1ニーファイ3：5）

しかし，ニーファイは主にしたがいたいと思いました。ニーファイは，主のたすけによって，ラバンからしんちゅうのはんを手に入れることができると知っていました。（1ニーファイ3：7）

レーマン，レムエル，サム，ニーファイの4人の兄弟は，しんちゅうのはんを手に入れるためにエルサレムへ引きかえしました。（1ニーファイ3：9）

レーマンはラバンの家に行って，しんちゅうのはんをもらいたいとラバンに言いました。（1ニーファイ3：11－12）

ところが，ラバンはおこって，レーマンにしんちゅうのはんをわたそうとはしませんでした。ラバンはレーマンをころそうと思いました。しかし，レーマンはにげて帰って来ました。（1ニーファイ3：13－14）

レーマンはおこったことをすべて兄弟に話しました。こわくなったレーマンは，あきらめて，あれ野にいるお父さんのところへ帰ろうと言いました。（1ニーファイ3：14）

しかし，ニーファイは言いました。「しんちゅうのはんを手に入れるまでは帰らない。にいさんたち，もっと主をしんじれば，しんちゅうのはんは手に入るんだ。」（1ニーファイ3：15－16）

ニーファイたちは，エルサレムのなつかしい自分たちの家へ行って，しんちゅうのはんとこうかんするために家にあった金ぎんをあつめました。（1ニーファイ3：22）

ニーファイたちはそれをラバンに見せて，しんちゅうのはんとこうかんしようと言いました。ラバンは，ニーファイたちがもって来たたからものが，ほしくてたまりませんでしたが，しんちゅうのはんを手ばなそうとはしませんでした。（1ニーファイ3：24－25）

ラバンがめしつかいに，リーハイのむすこたちをころすようにめいじたので，ニーファイたちはにげ出して，ほらあなにかくれました。ニーファイたちのたからものは，ラバンのものになってしまいました。（1ニーファイ3：25−27）

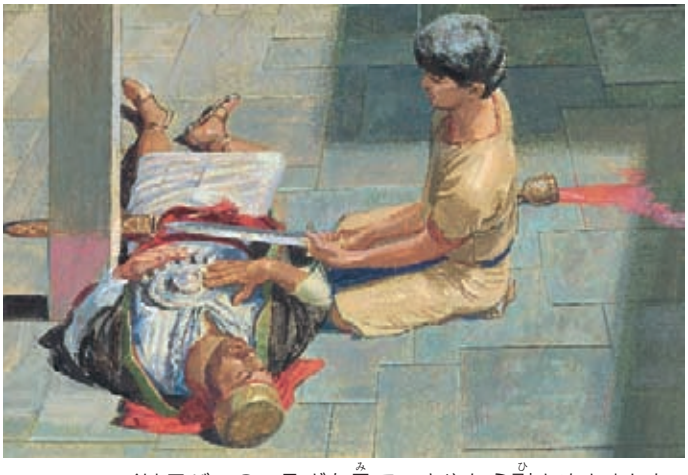
レーマンとレムエルは，ニーファイにはらを立て，ニーファイとサムをぼうでたたきました。（1ニーファイ3：28）

すると，みつかいがレーマンとレムエルにあらわれて言いました。「やめなさい。主は，しんちゅうのはんを手に入れることができるようにたすけてくださる。ニーファイはおまえたちのしどうしゃになる人なのだ。」（1ニーファイ3：29）

ニーファイはにいさんたちに言いました。「主をしんじるんだ。そうすれば，ラバンも，ラバンのめしつかいもこわくはない。」ニーファイはにいさんたちをゆうきづけて，またエルサレムへ引きかえしました。（1ニーファイ 4：1−4）

その夜，にいさんたちがじょうへきの外にみをかくしてから，ニーファイはエルサレムの町の中へしのびこんで，ラバンの家の方へ歩いて行きました。（1ニーファイ4：5）

ニーファイがラバンの家に近づいて行くと，さけによった一人の男がたおれているのが見えました。それはラバンでした。（1ニーファイ4：6−8）



ニーファイはラバンのつるぎを見て，さやから引きぬきました。その時，せいれいがラバンをころすようにささやかれましたが，ニーファイは気がすすみませんでした。（1ニーファイ4：9－10）

すると，せいれいがもういちど，しんちゅうのはんを手に入れるためにラバンをころすようにささやかれました。リーハイのかぞくには，ふくいんを学ぶためにしんちゅうのはんがひつようだったのです。（1ニーファイ4：12，16－17）

ニーファイはせいれいの声にしたがって，ラバンをころしました。それからラバンのきものをみにつけ，よろいをまといました。（1ニーファイ4：18－19）

そして，ラバンの家に行ったところ，ラバンのめしつかいであるゾーラムに会ってしまいました。そこで，ニーファイはラバンの声をまねました。（1ニーファイ4：20）

ニーファイはゾーラムに，しんちゅうのはんをもって来るようにめいじました。ゾーラムはニーファイをラバンだとすっかり思いこんでいたので，しんちゅうのはんをもって来ました。ニーファイはゾーラムに後について来いと言いました。（1ニーファイ4：21，24－25）

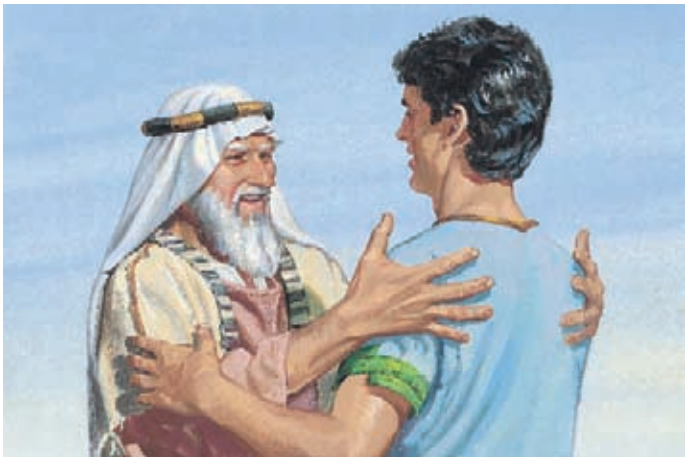
ニーファイがやって来るのを見て，レーマンとレムエルとサムは，ニーファイをラバンだと思い，にげ出しました。そこで，ニーファイはにいさんたちをよびとめました。（1ニーファイ4：28－29）

するとこんどは，ニーファイがラバンではないことが分かって，ゾーラムがにげ出そうとしました。ニーファイはゾーラムをつかまえて，自分たちといっしょにあれ野を行くなら，いのちはたすけてやろうと言いました。（1ニーファイ4：30－33）

ゾーラムは，いっしょにあれ野へ行くと言いました。ニーファイたちはゾーラムをつれ，しんちゅうのはんをもって，リーハイとサライアのところへ帰って行きました。（1ニーファイ4：35，38）

ニーファイたちは，しんちゅうのはんをリーハイにわたしました。リーハイとサライアは，むすこたちのぶじを知ってよろこび，神にかんしゃしました。（1ニーファイ5：1，9）

リーハイがしんちゅうのはんを読んでみると，その中には，アダムとエバの話や，せかいがつくられた話，多くのよげんしゃたちのことばがのっていました。（1ニーファイ5：10－11，13）



リーハイとニーファイは，主にしたがって，しんちゅうのはんを手に入れたので，とてもしあわせでした。（1ニーファイ5：20－21）

リーハイのかぞくは，しんちゅうのはんをたびにもって行きました。しんちゅうのはんにのせられた神のいましめを，しそんに教えるためです。（1ニーファイ5：21－22）

あれ野のたび

だい5しょう

主はリーハイのむすこたちがつまをむかえ，生まれてくる子どもにふくいんを教えるようにのぞまれました。主はリーハイに，むすこたちをエルサレムにおくりかえして，イシマエルのかぞくをつれて来るようにめいじられました。（1ニーファイ7：1−2）

ニーファイたちは，またエルサレムへもどって行って，主がのぞんでおられることをイシマエルに話しました。すると，イシマエルはリーハイのむすこたちをしんじ，かぞくぜんいんでリーハイのむすこたちについて行きました。（1ニーファイ7：3−5）

ところが，あれ野をたびするとちゅうで，レーマンとレムエルとイシマエルのかぞくの何人かが，はらを立てました。にいさんたちはエルサレムへ帰りたかったのです。（1ニーファイ7：6−7）

ニーファイはレーマンとレムエルに，主が今までにされたことを思い出すように，そしてもっとしんこうをもつように言いました。にいさんたちはニーファイにはらを立てましたが，にいさんたちはエルサレムへは帰りませんでした。（1ニーファイ7：8−13，16，21）

その後，ニーファイとその兄たちとゾーラムは，イシマエルのむすめたちとけっこんしました。（1ニーファイ16：7）

主はリーハイに，たびをつづけるようにおっしゃいました。つぎの朝，リーハイがてんまくの外へ出てみると，しんちゅうでできた，丸いたまがありました。そのたまは，リアホナといって，あれ野をリーハイたちが行くほうこうをさしていました。（1ニーファイ16：9－10）

リーハイたちは，食べものとたねをあつめ，てんまくをもって出かけて行きました。そして，リアホナがさすほうこうにしたがって，何日も何日もあれ野をたびしました。（1ニーファイ16：11－16）

たびの間，ニーファイとにいさんたちは，食べものをさがしました。弓と矢と，石と石なげきで，えものをとることができました。（1ニーファイ16：14－15）

ところが，ニーファイのはがねでできたゆみがおれ，にいさんたちの弓もだんりょくがなくなりました。えものがとれなくなったので，みんな，おなかがすいてたまりません。そして，レーマンとレムエルは，ニーファイにはらを立てました。（1ニーファイ16：18－21）

ニーファイは木の弓を作り，どこへ行ってかりをすればよいか，お父さんにたずねました。リーハイはリアホナを通じてみちびきをうけました。ニーファイは，そのみちびきにしたがって，えものを見つけました。（1ニーファイ16：23，26，30－31）

リアホナは，リーハイのかぞくがちゅうじつで，きんべんで，じゅうじゅんな時だけうごきました。（1ニーファイ16：28－29）

ニーファイは，見つけたえものをもっててんまくに帰りました。みんなは，食べものが手に入ったので大よろこびでした。そして，はらを立てたことをこうかいし，うけているしゅくふくを神にかんしゃしました。（1ニーファイ16：32）

あれ野のたびは，楽ではありませんでした。つかれるし，それにうえたり，のどがかわいたりすることもあったからです。イシマエルがしんだ時，イシマエルのむすめたちは，なげきかなしんで，リーハイにふへいを言いました。（1ニーファイ16：34−35）

レーマンとレムエルも，もんくを言い，主がニーファイに話しかけられたことをしんじませんでした。二人はリーハイとニーファイをころして，エルサレムへ帰りたいと思いました。（1ニーファイ16：37−38）

しかし，主の声が聞こえて，レーマンとレムエルは，リーハイとニーファイにはらを立てないようにと言われました。二人はくいあらためました。（1ニーファイ16：39）

リーハイとそのかぞくは，つらいたびをつづけましたが，神はみんなをたすけ，強くしてくださいました。子どもも生まれました。リーハイとサライアは，さらに二人のむすこをもうけ，ヤコブとヨセフと名づけました。（1ニーファイ17：1−3；18：7）

8年間もあれ野をたびしたすえ，リーハイのかぞくは海べにたどりつきました。そこは，くだものがみのり，野みつがとれるところで，バウンティフルと名づけました。（1ニーファイ17：4−6）

リーハイのかぞくのたび

1 リーハイのかぞく，エルサレムをさる。

2 リーハイのかぞく，船をつくる。

4 リーハイのかぞく，アメリカたいりくにつく。

3 リーハイのかぞく，海(うみ)をわたる。

リーハイのゆめ

だい6しょう

リーハイはかぞくに，自分が見た大切なゆめの話をしました。リーハイはそのゆめを見て，ニーファイとサムのことはうれしく思いましたが，レーマンとレムエルのことを思うとかなしくなりました。（1ニーファイ8：2−4）

ゆめの中でリーハイは，白いころもをきた男の人を見ました。その人が，リーハイに，後について来るように言いました。くらくて，さびしいあれ野の方にすすんで行くその男の人について行きました。（1ニーファイ8：5−7）

くらやみの中を長い間たびをしてから，リーハイはたすけをもとめていのりました。（1ニーファイ8：8）

すると，白いみがなっている1本の木が見えてきました。このあまくて白いみは，それを食べる人をしあわせにしてくれるものでした。（1ニーファイ8：9−10）

リーハイは，そのみを食べてよろこびにみたされたので，かぞくにも食べてほしいと思いました。そうすれば，かぞくもまた，しあわせになれると分かっていたからです。（1ニーファイ8：11−12）

リーハイは，木のそばに川がながれているのを見ました。川のみなもとの方に，サライアとサムとニーファイがいるのが見えました。（1ニーファイ8：13−14）

そこでリーハイは3人に，木のみを食べに来るように大声でよびました。サライアとサムとニーファイはやって来て，そのみを食べましたが，レーマンとレムエルは，リーハイのところへ来ようとはしませんでした。（1ニーファイ8：15−18）

リーハイはまた，てつのぼうと，木のところへ通じているほそくてせまい道を見ました。（1ニーファイ8：19−20）

たくさんの人が，その道を目ざして歩いていました。ところが，あんこくのきりがおこったために，てつのぼうをはなして，道にまよった人もいました。（1ニーファイ8：21−23）

しかし，てつのぼうをしっかりつかみ，くらやみの中を通って木にたどりつくことができた人もいました。その人たちは，木のみを食べました。（1ニーファイ8：24）

川のむこうがわの大きなたてものに入った人びとは，木のみを食べた人をあざけりました。そこで木のみを食べた人の中には，はずかしく思って木からはなれてしまった人もいました。（1ニーファイ8：26−28）

ほかにもリーハイは多くの人を見ました。てつのぼうにつかまり，くらやみをぬけて，木のみを食べた人たちもいましたが，大きなたてものの方にすすんだり，川におぼれたり，道にまよったりした人たちもいました。レーマンとレムエルは，木のみを食べようとしませんでした。しんぱいになったリーハイは，二人が神のいましめをまもるようにさとしました。（1ニーファイ8：30－38）

船のけんせつ

だい7しょう

リーハイのかぞくが海のそばで何日もすごしていると，主はニーファイに語られました。主は，やくそくの地へ行くために，ニーファイに船をつくるように言われました。（1ニーファイ17：7–8）

ニーファイは，船のつくり方を知りませんでした。でも主は，そのほうほうをしめすと言われたのです。そして，ひつようなどうぐをつくるためのあらがねのありかをニーファイに教えられました。（1ニーファイ17：9–10）

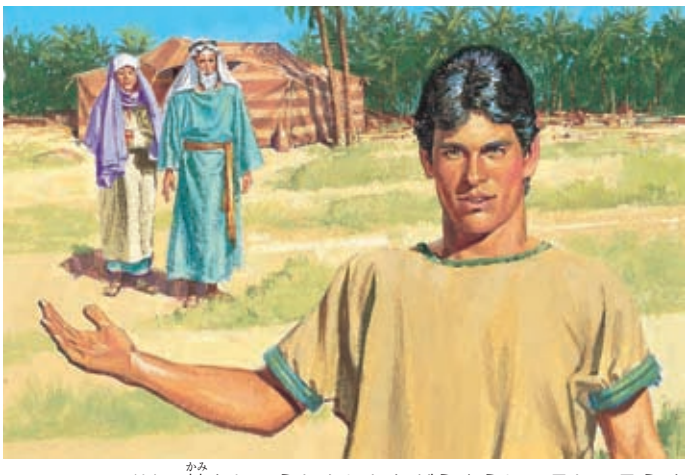
レーマンとレムエルは，船をつくりはじめたニーファイをあざわらいました。主が，ニーファイに船のつくり方をしめされたことなど，しんじようともしなかったのです。レーマンとレムエルは，手つだいをするのをいやがりました。（1ニーファイ17：17–18）

ニーファイは，レーマンとレムエルに，くいあらためて，神にさからわないように言いました。ニーファイは，にいさんたちにてんしを見たことを思い出させ，神はすべてのことをなす力をもっておられると言いました。（1ニーファイ17： 45–46）

レーマンとレムエルは，ニーファイにはらを立て，海にほうりなげようとしました。（1ニーファイ17：48）

にいさんたちが近よって来た時，ニーファイは自分にさわってはいけないと言いました。ニーファイは神の力にみたされていたからです。レーマンとレムエルは何日もこわくてたまりませんでした。（1ニーファイ17：48，52）

それから主はニーファイに，レーマンとレムエルにさわるように言われました。ニーファイがさわると，主はレーマンとレムエルを，ふるえさせられました。レーマンとレムエルは，神の力がニーファイとともにあることを知ったのです。（1ニーファイ17：53−55）



ニーファイは，神とりょうしんにしたがうように，そしてそうするならば，しゅくふくがあたえられるだろうと，レーマンとレムエルに言いました。（1ニーファイ17：55）

レーマンとレムエルは，くいあらためて，船をつくるためにニーファイをたすけました。（1ニーファイ18：1）

ニーファイは，たすけをもとめていのるために，なんども山に入って行きました。主はそのたびに，ニーファイに船のつくり方を教えられました。（1ニーファイ18：3）

ニーファイとにいさんたちが，船をつくり上げてみると，それは本当にすばらしい船でした。みんなは主がたすけてくださったことにかんしゃしました。（1ニーファイ18：4）

海をわたる

だい8しょう

主はリーハイに，かぞくをつれて，船にのるようにおっしゃいました。リーハイたちは，くだものや肉，はちみつ，やくそくの地でまくたねを船につみました。（1ニーファイ18：5−6）

強い風をうけて，船は，やくそくの地へとむかいました。（1ニーファイ18：8）

レーマンやレムエルたちが，わるい行いをするようになりました。ニーファイがやめるように言うと，二人はおこってニーファイをなわでしばってしまいました。（1ニーファイ18：9−11）

すると，そのわるい行いのためにリアホナがうごかなくなり，船をどちらへすすめたらよいか，分からなくなってしまいました。その上，大あらしがおこり，船は3日間，もと来た方へふきかえされました。（1ニーファイ18：12−13）

リーハイがニーファイのなわをとくように言いましたが，レーマンとレムエルは聞きません。リーハイとサライアは，かなしみのあまり，びょうきになってしまいました。（1ニーファイ18：17）

ニーファイのつまや子どもたちも，レーマンとレムエルに，ニーファイのなわをといてくれるようにないてたのみました。しかし，二人は耳をかしませんでした。（1ニーファイ18：19）

4日目に，あらしは，ますますひどくなりました。船は，今にもしずみそうです。（1ニーファイ18：14－15）

レーマンとレムエルは，ようやく神があらしをおこされたことに気づきました。そして，海にしずんでしまうのではないかとおそれました。（1ニーファイ18：15）

やっとレーマンとレムエルは，くいあらためて，ニーファイのなわをときました。ニーファイの手首と足首はひどくはれ上がり，いたみましたが，ニーファイは一つもふへいを言いません。（1ニーファイ18：15－16）

ニーファイはリアホナを手にとると，リアホナはまたうごきはじめました。ニーファイがおいのりをすると，風がなぎ，海もおだやかになりました。（1ニーファイ18：21）

ニーファイは船のかじをとって，ふたたび，やくそくの地へむかってすすんで行きました。（1ニーファイ18：22）

やくそくの地での新しいくらし

だい9しょう

リーハイのかぞくをのせた船は，海をこえ，ついにやくそくの地につきました。リーハイのかぞくは，てんまくをはりました。（1ニーファイ18：23）

やがて土をたがやし，もって来たたねをまきました。（1ニーファイ18：24）

また，あちこちをめぐり歩いて，いろいろなどうぶつがいるのを見つけました。金やぎん，どうも見つけました。
（1ニーファイ18：25）

神はニーファイに，きろくをつけるためのきんばんをつくるように言われました。ニーファイは，かぞくのこと，たびをした時のこと，そして神のことばを書きました。（1ニーファイ19：1，3）

年おいたリーハイは，しぬ前にむすこたちに話をし，神のいましめをまもるように言いました。そして，まごたちをしゅくふくしました。（2ニーファイ1：14，16；4：3−11）

リーハイがしぬと，レーマンとレムエルは，ニーファイにはらを立て，ニーファイをころそうとしました。二人は，弟ニーファイにさしずされたくなかったのです。(2ニーファイ4：13；5：2−3)

主はニーファイに，正しい人びとをつれて，あれ野へにげるように言われました。そこでニーファイと，ニーファイにしたがう人びとは，何日もあれ野をたびし，ついにニーファイと名づけた地にたどりつきました。(2ニーファイ5：5−8)

ニーファイにしたがう人びとは，神にしたがい，よくはたらき，しゅくふくをうけました。木ときんぞくをつかってけんちくするほうほうをニーファイから教わり，りっぱなしんでんをたてました。(2ニーファイ5：10−11，15−16)

レーマンとレムエルにしたがった人びとは，レーマン人とよばれ，ひふが黒くなりました。わるい行いをしたので，神がのろいを下されたのです。(2ニーファイ5：14，21)

レーマン人は，なまけものとなって，はたらこうとしませんでした。(2ニーファイ5：24)

ニーファイにしたがった人びとは，自分たちをニーファイ人とよびました。レーマン人はニーファイ人をにくみ，ほろぼそうとしました。(モルモン書ヤコブ1：14)

ヤコブとシーレム

だい10しょう

ニーファイはしぬ前に，きろくをのせたはんを弟のヤコブにたくしました。ヤコブは正しい人でした。（モルモン書ヤコブ1：1−2，8）

ニーファイはヤコブに，イエス・キリストをしんじる人びとのためになることを書くように言いました。（モルモン書ヤコブ1：4−6）

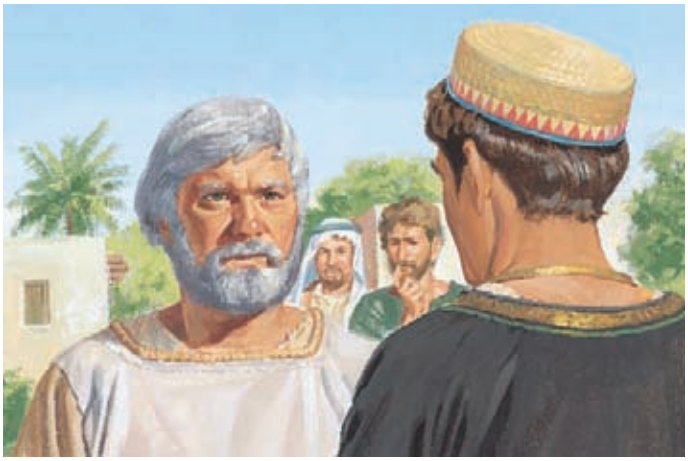
そして教会のさいしとなり，ニーファイのたみに神のことばを教える力をヤコブにさずけました。（モルモン書ヤコブ1：18）

ニーファイがしんで，ニーファイ人の中にはわるい人が多くなりました。ヤコブは，人びとの行いがわるいことを教え，くいあらためるように言いました。（モルモン書ヤコブ1：15−17）

さて，シーレムというあくにんがニーファイ人の中に来て，イエス・キリストをしんじてはいけないと言いました。（モルモン書ヤコブ7：1−2）

シーレムは，「イエスなんかいない」と人びとに教えました。多くの人がシーレムをしんじました。（モルモン書ヤコブ7：2－3）

ヤコブは人びとに，キリストをしんじるようにと教えました。しかしシーレムは，ヤコブを言いこめようとして，「キリストはいない」と話しました。（モルモン書ヤコブ7：6）



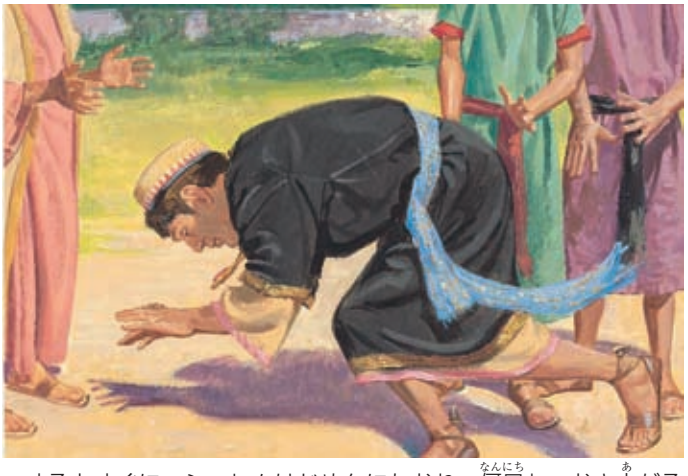
しかし，ヤコブのイエス・キリストへのしんこうはぐらつきませんでした。ヤコブはすでにてんしを見，主の声を聞いて，イエスが来られることを知っていたのです。（モルモン書ヤコブ7：5）

せいれいがヤコブとともにいてくださったので，ヤコブはシーレムに，イエス・キリストのあかしをのべました。（モルモン書ヤコブ7：8－12）

シーレムは，「それならしるしを見せてもらいたい」と言いました。神がいらっしゃることを，ヤコブにしょうめいさせ，きせきを見ようとしたのです。（モルモン書ヤコブ7：13）

しかし，ヤコブは神にしるしをもとめようとはしませんでした。ヤコブはシーレムにこう言いました。「あなたはすでにわたしが教えたことが正しいと知っています。」（モルモン書ヤコブ7：14）

「神がもしあなたをうちやぶろうと思われたならば，それが神の力です」とヤコブはシーレムに言いました。（モルモン書ヤコブ7：14）



するとすぐに，シーレムはじめんにたおれ，何日も，おき上がることができませんでした。（モルモン書ヤコブ7：15）

体が弱ったシーレムは，自分のしが近いことをさとり，人びとをよびあつめました。（モルモン書ヤコブ7：16）

シーレムは自分がうそを言ったことをこくはくし，人びとにイエス・キリストをしんじるように言いました。（モルモン書ヤコブ7：17−19）

このように言って，シーレムはしにました。人びとは神の力にうたれて，じめんにたおれました。（モルモン書ヤコブ7：20−21）

人びとはくいあらためるようになり，せいぶんを読み，あいをもってへいわにくらすようになりました。これは，ヤコブにはうれしいことでした。神がいのりを聞きとどけてくださったからです。（モルモン書ヤコブ7：22−23）

エノス

だい11しょう

エノスはヤコブのむすこです。お父さんのヤコブがしんだ後，エノスはきんばんのきろくしゃになりました。（モルモン書ヤコブ7：27）

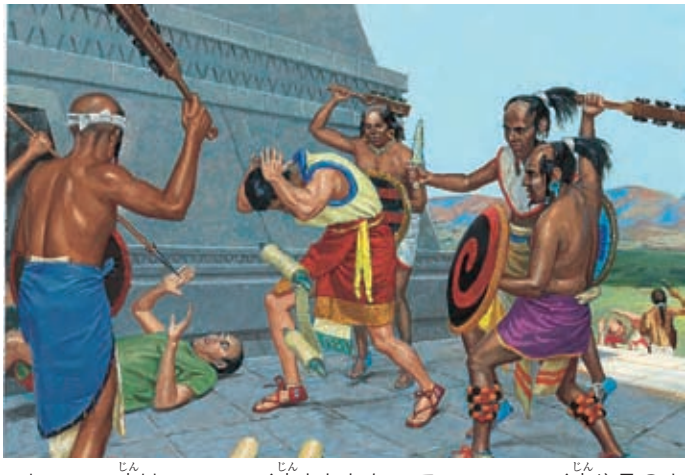
ある日，エノスは森へかりに行きました。お父さんが教えてくれたことを考えているうちに，エノスは自分のつみをゆるしてほしいと思いました。（エノス1：1−4）

そこでエノスはひざまずき，神にいのりました。一日中いのり，夜になってもまだいのっていました。（エノス1：4）

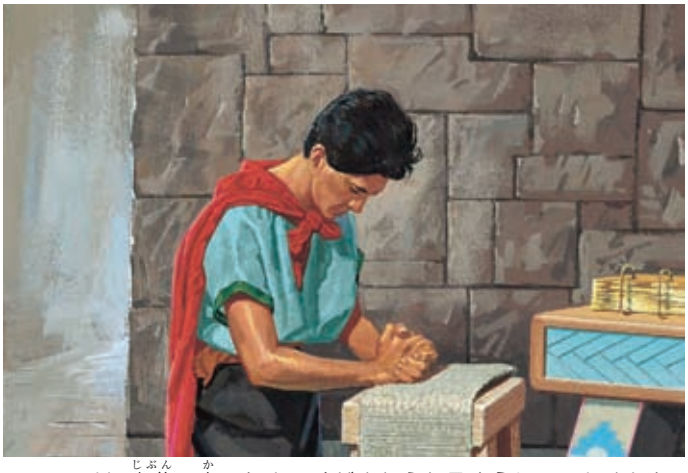
すると神はエノスに，「イエス・キリストをしんじるしんこうにより，あなたのつみはゆるされた」と言われました。（エノス1：5，8）

エノスは，主にニーファイ人みんなをしゅくふくしてほしいと思いました。エノスがいのると，主はこう言われました。「人びとがいましめをまもるなら，しゅくふくをさずけよう。」（エノス1：9−10）

エノスは，レーマン人もしゅくふくされることをねがいました。エノスが強いしんこうをもっていのったので，主はそのねがいを聞きとどけようと言われました。（エノス1：11－12）



レーマン人はニーファイ人とたたかって，ニーファイ人やそのきろくをほろぼそうとしましたが，エノスはレーマン人が正しいたみになるようにいのりました。（エノス1：13－14）



エノスは，自分の書いたきろくがまもられるようにいのりました。主は，いつかそのきろくにある教えがレーマン人にもさずけられるとやくそくされました。（エノス１：16）

エノスは，ニーファイ人に教えをときました。ニーファイのたみに神をしんじて，いましめをまもってほしいと思ったからです。（エノス1：10，19）

ニーファイのたみは，レーマン人にふくいんを教えようとしましたが，レーマン人は耳をかそうとしません。レーマン人はニーファイ人をにくんでいました。（エノス1：20）

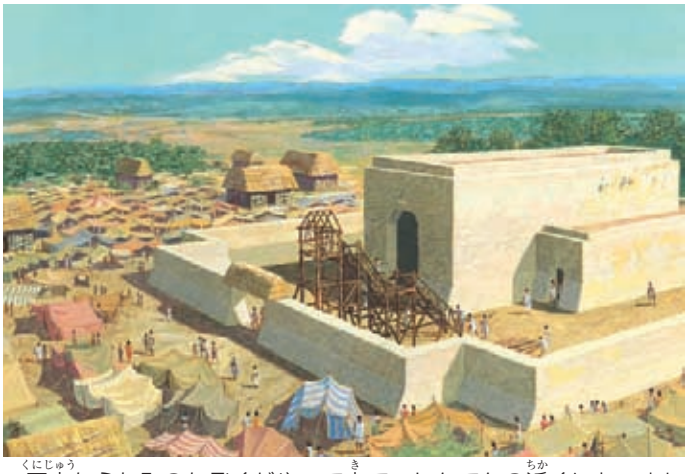
エノスは生きている間，イエスのことやふくいんについて，人びとに教えました。しょうがい神につかえ，神をあいしました。（エノス1：26－27）

ベニヤミン王

だい12しょう

ベニヤミン王は，ニーファイ人の正しい王でした。ベニヤミン王は，正しい人たちのたすけをえて，国中にへいわをもたらしました。（モルモンのことば1：17－18）

ベニヤミン王は年をとると，ゼラヘムラのたみに話をしたいと思いました。おういをむすこのモーサヤにゆずることを話しておきたいと思ったのです。（モーサヤ1：9－10）



国中からたみのかぞくがやって来て，しんでんの近くにあつまりました。たみは，入り口をしんでんの方にむけててんまくをはりました。（モーサヤ2：1，5－6）

ベニヤミン王は，たみによく聞こえるようにとうの上に立ちました。（モーサヤ2：7）

そして，次のように話しました。「わたしはひたすら自分の力で自分をささえ，あなたがたのためにつとめてきた。神につかえるには，たがいにたすけ合うことである。」（モーサヤ2：14，17）

「神のいましめをまもるように。ちゅうじつにいましめをまもるものはこうふくになり，いつか神とともにすめるのである」とベニヤミン王は言いました。（モーサヤ2：41）

「イエス・キリストは，やがてこの地上にお生まれになる。その母の名はマリヤという。」（モーサヤ3：5，8）

さらに王はこう言いました。「イエスはきせきを行われる。びょうにんをいやし，しんだものを生きかえらせ，目のふじゆうな人を見えるように，耳の聞こえない人を聞こえるようにされるであろう。」（モーサヤ3：5）

「イエスはぜんじんるいのつみのためにくるしみをうけ，しなれるのでくいあらためてイエスをしんじるものは，つみをゆるされる。」（モーサヤ3：7，11－12）

「あくにんたちはイエスをむちうって，じゅうじかにかける」と王はニーファイ人に言いました。（モーサヤ3：9）

「しかし，3日後にイエスはよみがえられる。」（モーサヤ3：10）

ベニヤミン王の話を聞いて，ニーファイのたみは地にひれふしました。たみは自分たちのつみをかなしみ，くいあらためたいと思いました。（モーサヤ4：1－2）

たみはイエス・キリストをしんじて，つみがゆるされるようにといのりました。（モーサヤ4：2）

すると，せいれいが人びとの心にくだられました。たみは神がそのつみをゆるしてくださり，自分たちをあいしてくださっていることを知って，心がやすらかになり，よろこびにみたされました。（モーサヤ4：3）

「神をしんじなさい。」ベニヤミン王は話をつづけました。神がばんぶつをおつくりになったことと，ぜんちぜんのうのお方であられることを，たみに分かってほしいと思ったのです。（モーサヤ4：9）

「へりくだって，毎日いのらなくてはならない。」ベニヤミン王はたみがつねに神をおぼえ，ちゅうじつであることをのぞんでいたのです。（モーサヤ4：10－11）

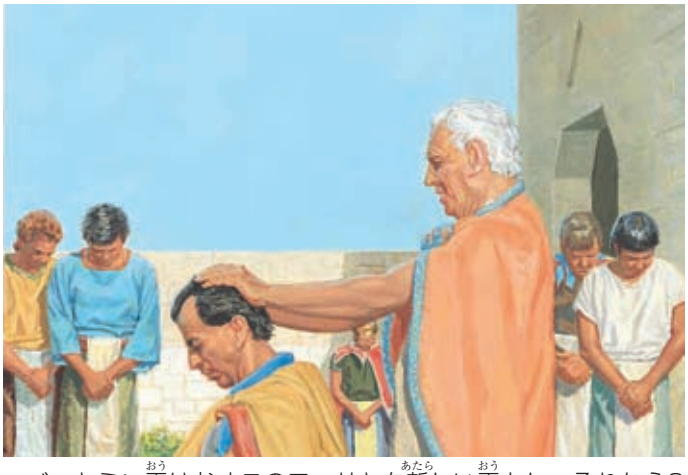
ベニヤミン王は親たちに，子どもたちがけんかをしたり，言いあらそいをしたりしないようにと話しました。（モーサヤ4：14）

子どもたちには，じゅうじゅんであって，たがいにあいし，たすけ合うことを教えるように言いました。（モーサヤ4：15）

また，自分の思いと，ことばと，行いに気をつけるようにとも教えました。「しょうがい，ちゅうじつに神のいましめをまもらなければならない。」（モーサヤ4：30）

ベニヤミン王がいじょうのことばをしんじるかと，たみに聞くとたみは言いました。「わたしたちは王のことばをしんじています。わたしたちはせいれいによってかわりました。もうわるいことはしたくありません。」（モーサヤ5：1−2）

そして，神のいましめをまもることをやくそくしました。ベニヤミン王はたいへんよろこびました。（モーサヤ5：5−6）



ベニヤミン王はむすこのモーサヤを新しい王とし，それから3年後になくなりました。（モーサヤ6：3，5）

父のベニヤミン王と同じように，モーサヤも正しい王でした。モーサヤはよくはたらき，たみのためにつとめました。（モーサヤ6：6−7）

ゼニフ

だい13しょう

ゼニフとニーファイ人の一行は，ゼラヘムラの地をさり，せんぞがすんでいたニーファイの地を目ざしてたび立ちました。（オムナイ1：27；モーサヤ9：1）

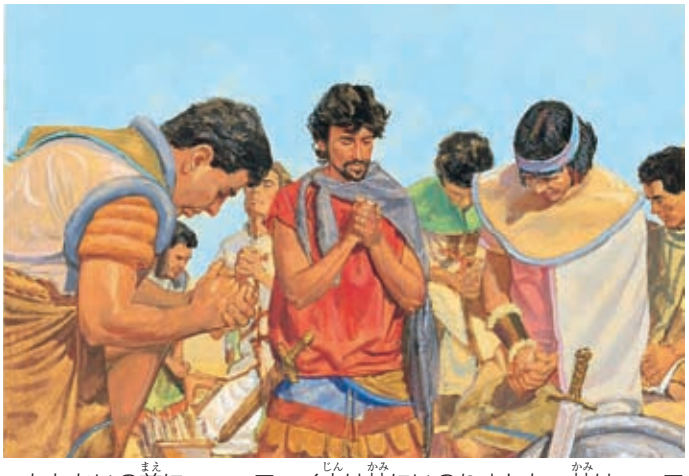
そこにはレーマン人がすんでいました。ゼニフはなかまの4人をつれて町へ入り，レーマン王にこの地にすんでもよいか聞きました。（モーサヤ9：1，5）

わるがしこいレーマン王は，二つの町をゆずってもよいと言いました。本当は，ゼニフの一行をすまわせて，どれいにしようとたくらんだのです。（モーサヤ9：6，10，12）

ゼニフのたみは家をたて，町のまわりにじょうへきをきづきました。たねをまき，こくもつやくだものもさいばいしました。かちくもかいました。（モーサヤ9：8−9，12）

レーマン王は，「ニーファイ人がしだいに力をつけてきている」とたみに言いました。やがてレーマン人がニーファイ人をおそってころし，かちくやさくもつをうばいはじめました。（モーサヤ9：11，13−14）

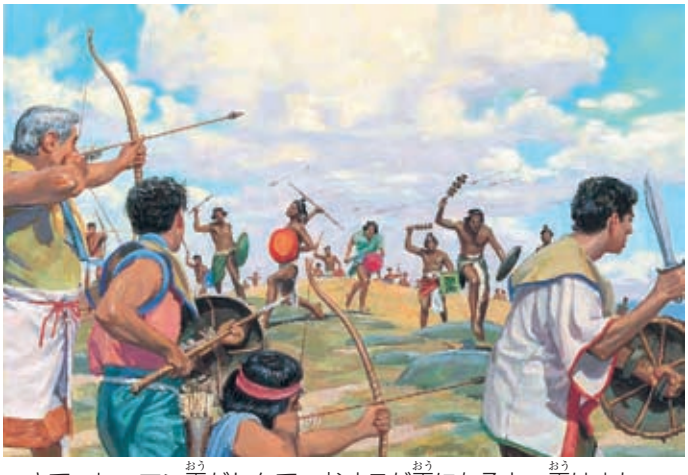
ニーファイ人たちは町へにげました。ゼニフはたみに，弓，矢，つるぎ，ぼう，石なげきでぶそうさせ，レーマン人とたたかうためにいっしょにしゅつじんしました。（モーサヤ9：15－16）



たたかいの前に，ニーファイ人は神にいのりました。神はニーファイ人にとくべつな力をあたえられたので，ニーファイ人は多くのレーマン人をうって，おいはらいました。（モーサヤ9：17－18）

たたかいがおわると，ゼニフは町のまわりに見はりをおきました。たみとかちくのむれをレーマン人からまもりたいと思ったのです。（モーサヤ10：2）

こうしてニーファイ人は，何年も，へいわにくらしました。男の人はこくもつを作り，女の人は糸をつむいでぬのをおりました。（モーサヤ10：4－5）



さて，レーマン王がしんで，むすこが王になると，王はまたニーファイ人とたたかうためにぐんをおくって来ました。（モーサヤ10：6，8－9）

ふたたびニーファイ人は主の力をうけて，たくさんのレーマン人をころしました。のこったレーマン人はにげて行きました。（モーサヤ10：10，19－20）

アビナダイとノア王

だい14しょう

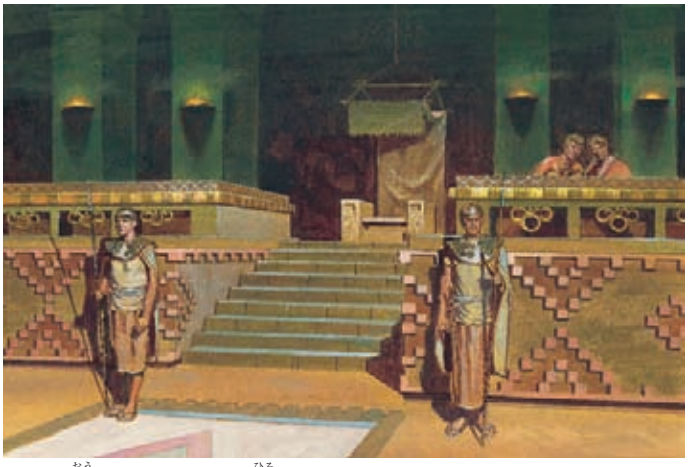
ゼニフはニーファイ人の正しい王でしたが，年をとったので，むすこのノアに王のくらいをゆずりました。（モーサヤ11：1）

ノアは父のようによい王ではなく，わるい王でした。神のいましめをまもりませんでした。（モーサヤ11：2）

ノアはたみから金やぎんをとり立てました。たみはまた，こくもつやかちくもさし出さなければなりませんでした。（モーサヤ11：3）

ノア王はなまけもので，ひつようなものはすべてたみからとり立てればよいと考えたのです。（モーサヤ11：4）

王は父ゼニフがえらんだよいさいしたちをやめさせて，あくじを教えるわるいさいしたちを立てました。（モーサヤ11：5−7）



ノア王はおうざのある広いきゅうでんや，りっぱなたてものをたくさんたて，うつくしい木や金ぎんでかざりました。（モーサヤ11：8−11）

王はたみからとり上げたざいかに心をうばわれ，さいしたちとともにさけをのんだり，わるいことをしたりしてくらしました。（モーサヤ11：14−15）

神はノア王のたみのもとへ，アビナダイというよげんしゃをつかわされました。アビナダイは，もしくいあらためなければ，たみはレーマン人のどれいにされるとけいこくしました。（モーサヤ11：20−22）

ノア王はアビナダイのことばを聞いておこり，「アビナダイをころすから，かれをつれて来い」と人をやりました。（モーサヤ11：27−28）

王の前につれて来られたアビナダイは，王とさいしたちからたくさんのしつもんをあびせられました。かれらは何とかしてアビナダイにまちがったことを言わせようとしたのです。（モーサヤ12：18−19）

アビナダイはいさましく答えました。神がたすけてくださることを知っていたからです。さいしたちはアビナダイの答えにおどろきました。（モーサヤ12：19）

王はおこって，さいしたちにアビナダイをころしてしまえとめいじました。アビナダイが言いました。「わたしにさわるな。わたしに手をかけるなら，神があなたたちをほろぼされるであろう。」（モーサヤ13：1−3）

アビナダイはしめいをはたせるように，せいれいにまもられていました。アビナダイの顔が，まばゆくかがやいています。さいしたちは，こわくてアビナダイに手が出せません。（モーサヤ13：3，5）

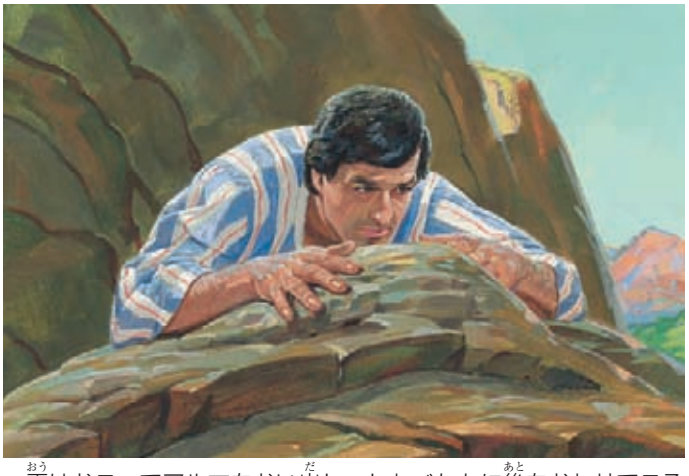
神から力をうけて，アビナダイはたみに，王やさいしたちのあくじについて話し，神のいましめをよんで聞かせました。（モーサヤ13：6−7，11−24）

イエス・キリストがこうたんされ，キリストによって人びとがくいあらため，ふっかつし，神とともにすむことができることも話しました。（モーサヤ13：33−35；15：21−23）

「あなたたちは自分のつみをくいあらためて，イエス・キリストをしんじなければならない。そうしなければすくわれないであろう。」（モーサヤ16：13）

一人のさいしをのぞいてぜんいんが，アビナダイの言うことをしんじませんでした。ノア王がアビナダイをころせとめいじたので，アビナダイはとらえられ，ろうやに入れられてしまいました。（モーサヤ17：1，5）

アビナダイのことばをしんじたさいしは，アルマという人でした。アルマはノア王に，アビナダイをゆるしてくれるようにたのみました。（モーサヤ17：2）



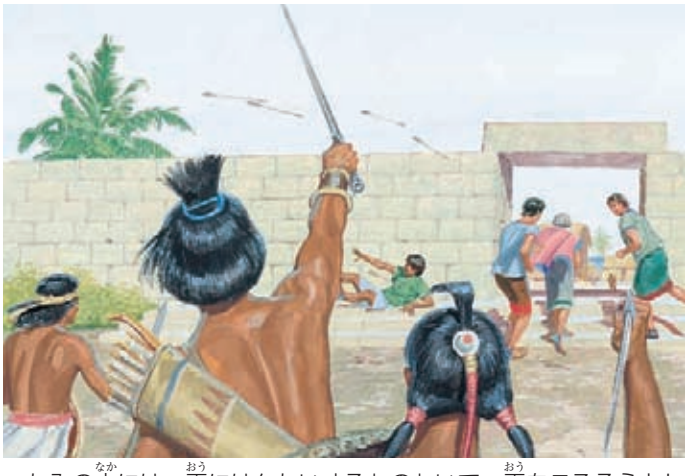
王はおこってアルマをおい出し，しもべたちに後をおわせてころそうとしました。アルマはにげてすがたをかくしたので，しもべたちはアルマを見うしないました。（モーサヤ17：3−4）

3日たって，ノア王はアビナダイを自分の前につれ出させ，こう言いました。「自分が言ったことを，わたしとわたしのたみの前でとりけせ。」（モーサヤ17：6，8）

「言ったことをのこらずとりけさないなら，おまえをころしてやる。」（モーサヤ17：8）

アビナダイは自分がしんじつを語ったことを知っていたので，神が自分をおつかわしになり，話すようにおめいじになったことをとりけすよりは，よろこんでしのうと思いました。（モーサヤ17：9−10）

アビナダイをころすめいれいが王から出ました。さいしたちはアビナダイをとらえて，むちでうち，火あぶりにします。アビナダイはしぬ前に，ノア王もまたやきころされるであろうと言いました。（モーサヤ17：13−15）



たみの中には，王にはんたいするものもいて，王をころそうとしました。レーマン人のぐんもノア王とそのなかまとたたかおうとおそって来ました。（モーサヤ19：2－7）

ノア王となかまはにげました。レーマン人がおいついてなかまをころしはじめると，王は男たちにつまや子どもをすててレーマン人からにげよとめいじたのです。（モーサヤ19：9－11）

しかし，男たちの多くは，かぞくをすててにげようとはせず，レーマン人のとりこになりました。（モーサヤ19：12，15）

ノア王といっしょににげたもののほとんどが，つまや子どもをおきざりにしたことをこうかいしました。かぞくやなかまのもとに帰って，まもってあげたいと思ったのです。（モーサヤ19：19）

ノア王はそれが気に入らず，帰ってはならないと言いました。（モーサヤ19：20）

おこったかれらは，ノア王をやきころして，かぞくのもとに帰りました。アビナダイのことばはじょうじゅしたのです。（モーサヤ19：20，24）

教えをとき，バプテスマをほどこすアルマ

だい15しょう

アルマはノア王のしもべたちからのがれて，何日もかくれていましたが，その間にアビナダイが言ったことをきろくしました。（モーサヤ17：3−4）

アルマは自分のつみをくいあらため，ひそかにアビナダイの言ったことを教えながら，ニーファイ人のところへ行きました。人びとにイエス・キリストをしんじ，くいあらためるように話したのです。（モーサヤ18：1，7）

昼間，アルマはモルモンのいずみのそばの木のしげみにみをかくしていました。（モーサヤ18：5）

アルマの教えをしんじた人びとが，バプテスマをうけにモルモンのいずみにやって来ました。アルマがバプテスマをほどこし，イエスの教会に入ったものは204人でした。（モーサヤ18：8−10，16−17）

アルマはさいしをせいにんして，くいあらためとイエス・キリストをしんじるしんこうを教えるように言いました。また，あらそわず，いっちしなければならないと言いました。（モーサヤ18：18，20−21）

アルマにしたがう人びとは，たがいにあいし，たすけ合いました。また，もっているものを分かち合いました。あがないぬし，イエス・キリストを知ってとてもよろこびました。（モーサヤ18：29－30）

ところが，ノア王のしもべたちは，アルマが人びとに教えをといているのをひそかに見はっていました。ノア王は，アルマがニーファイ人をはんこうさせようとしていると言って，ころすためにぐんたいをおくりました。（モーサヤ18：32－33）

しかし，神がアルマにノア王のぐんたいが近づいていることをお知らせになったので，たみはかぞくをつれ，かちくやそのほかのものをあつめて，あれ野へにげました。（モーサヤ18：34；23：1）

神は，アルマたちがぐんたいからのがれられるように力をおかしになりました。ノア王のぐんたいは，かれらをさがしても，見つけることができませんでした。（モーサヤ19：1；23：2）

あれ野の中を8日の間たびをしたところ，アルマのたみは，きよらかな水のあるうつくしい土地にたどりつきました。たみはさくもつをうえ，家をたてました。（モーサヤ23：3－5）

たみはアルマに王になってほしいと思いましたが，アルマは言いました。「神はそれをのぞんではおられない。あなたたちにじゆうでいてほしいと思っておられる。」（モーサヤ23：6－7，13）

リムハイのたみのだっしゅつ

だい16しょう

ノア王たちがにげると，レーマン人はのこったニーファイ人をつかまえて，よその地へつれて行きました。そこで土地をあたえて，おもいぜいきんをおさめさせました。（モーサヤ19：15）

ニーファイ人はリムハイを新しく王にしました。リムハイはノア王のむすこでしたが，父親のようにあくを行わず，正しい人でした。（モーサヤ19：17，26）

リムハイ王はレーマン人となかなおりしようとしました。しかし，レーマン人はニーファイ人を見はり，ひどくいじめました。（モーサヤ19：27−28；21：3）

ある日リムハイ王はじょうへきの外によそものを見かけたので，とらえてろうやへ入れました。ところが，かれらはゼラヘムラから来たニーファイ人でした。（モーサヤ21：23−24）

しきかんはアンモンという人でした。リムハイ王はアンモンに会うとよろこんで，たみをレーマン人からすくい出してくれるように言いました。（モーサヤ7：13−15）

リムハイ王はたみをあつめて言いました。「われらはあくじをはたらいたため，とらわれのみとなっている。」（モーサヤ7：17，20）

「しかし，あなたたちがくいあらため，神をしんじて，いましめをまもるならば，神はおまえたちをすくい出してくださる。」（モーサヤ7：19，33）

ニーファイ人は，町を見はっているレーマン人たちが，夜いつもさけによっていることを知りました。（モーサヤ22：6）

その夜には，リムハイ王はいつもより多くのぶどうしゅを見はりのへいにおくりました。（モーサヤ22：10）

リムハイ王とそのたみは，よっぱらった見はりのへいたちのそばをひそかに通りぬけ，にげて行きました。（モーサヤ22：11）

リムハイ王とそのたみは，あれ野を通ってゼラヘムラの地まで，アンモンにみちびかれました。そこでよろこんでむかえられました。（モーサヤ22：13－14）

のがれるアルマのたみ

だい17しょう

ある日アルマのたみがはたけではたらいていると，レーマン人のいちぐんが国のさかいにあらわれました。（モーサヤ23：25）

ニーファイ人たちはおびえて，町の中へにげこみました。アルマが，神を心に思ってたのめば，神はたすけてくださると話したので，たみはたすけをもとめていのりました。（モーサヤ23：26－28）

すると，主はレーマン人の心をやわらげてくださり，たみはころされずにすみました。このレーマン人たちは，リムハイ王のたみをさがそうとして，あれ野をさまよっていたのです。（モーサヤ23：29－30）

レーマン人は，ニーファイの地へ行く道を教えてくれるなら，めいわくはかけないとアルマにやくそくしました。そこでアルマは道を教えました。（モーサヤ23：36）

ところがレーマン人はやくそくをまもらず，それどころかまわりに見はりのへいをおき，アルマとそのたみにじゆうをあたえませんでした。（モーサヤ23：37）

レーマン人の王は，アミュロンをアルマのたみの王にしました。アミュロンはニーファイ人でしたが，ノア王のわるいさいしです。（モーサヤ23：39；24：8－9）

アミュロンは，アルマのたみにたいへんつらいしごとをさせました。たみは，たすけをねがいもとめました。ところがアミュロンは，いのりをささげる人をころすようにめいじたのです。たみはしかたなく，心の中でいのりました。（モーサヤ24：10－12）

神はたみのねがいを聞きとどけられ，たみを強くされました。それでたみはつらいしごとも楽にこなせるようになり，よろこんでたえることができました。（モーサヤ24：14－15）

神はたみがちゅうじつであるのをよろこばれ，レーマン人からすくい出すとアルマに言われました。（モーサヤ24：16－17）

たみは夜の間にしょくりょうとかちくをあつめました。つぎの朝，神がレーマン人をねむらせておられる間に，アルマとそのたみは町をはなれました。（モーサヤ24：18－20）

12日間あれ野をたびしてから，たみはゼラヘムラの地につきました。モーサヤ王とそのたみはよろこんでかれらをむかえました。（モーサヤ24：25）

むすこアルマの くいあらため

だい18しょう

モーサヤ王は，アルマをゼラヘムラの教会のしどうしゃににんじました。そこでアルマは，ニーファイ人を教えるのをたすけてくれる人びとをえらびました。（モーサヤ25：19；26：8）

アルマとモーサヤ王には，しんぱいごとがありました。それは，主をしんじない人たちが教会いんをくるしめていたことでした。（モーサヤ27：1）

アルマには，同じ名前のむすこがいました。むすこのアルマは，お父さんの教えをしんじないばかりか，とてもつみぶかい人間になっていました。（モーサヤ27：8）

むすこのアルマとモーサヤ王の4人のむすこは，教会をはくがいしました。かれらは人びとがこのむことを言い，教会からはなれさせようとしたり，わるいことをさせようとしたりしました。（モーサヤ27：8）

アルマはむすこがしんりを知って，くいあらためてくれるようにといのりました。（モーサヤ27：14）

むすこのアルマとモーサヤ王のむすこたちは，教会をほろぼそうと，歩き回っていました。（モーサヤ27：10）

そんなある日のことです。てんしがかれらにあらわれ，じめんがゆれるような大きな声で話しかけました。（モーサヤ27：11）

5人のわかものは，ひどくおどろいて，じめんにたおれてしまいました。はじめは，てんしの言ったことが分かりませんでした。（モーサヤ27：12）

てんしは教会いんのいのりにこたえ，やって来たのです。そして，アルマに言いました。「なぜ教会をはくがいするのか。」（モーサヤ27：13－14）

てんしが，「にどと教会をほろぼそうとしてはならない」と言うと，じめんがゆれました。（モーサヤ27：15－16）

アルマとモーサヤのむすこたちは，またじめんにたおれてしまいました。5人は，てんしを見たのです。そして，神の力がじめんをゆりうごかしたのを知ったのです。（モーサヤ27：18）

むすこのアルマは，おどろきのあまりものを言うことができなくなりました。また，力が弱くなって手をうごかすこともできなくなってしまいました。（モーサヤ27：19）

モーサヤの4人のむすこは，アルマをお父さんのところまではこんで行き，自分たちにおこったことをすっかり話して聞かせました。（モーサヤ27：19—20）

お父さんのアルマは，大いによろこびました。神がいのりを聞きとどけてくださったと分かったからです。（モーサヤ27：20）

お父さんのアルマは，おおぜいの人をよびあつめて，主が自分とモーサヤのむすこたちになされたことを見せました。（モーサヤ27：21）

そして，アルマは教会のしどうしゃたちとともに，だんじきしていのり，むすこのアルマが元気になるようにと神にねがいしました。（モーサヤ27：22）

2日2ばんして，むすこのアルマは力をとりもどし，また話ができるようになりました。（モーサヤ27：23）

むすこのアルマはこう話しました。「わたしはつみをくいあらためました。そして，神はわたしをゆるしてくださいました。」（モーサヤ27：24）

また，人はみな正しいものにならなければ，神の国に入ることはできないことや，つみのために大いにくるしんだことを話しました。（モーサヤ27：25−26，29）

くいあらためてから，むすこのアルマはしあわせでした。神のゆるしをえたからです。アルマは，自分が神からあいされていることも知りました。（モーサヤ27：28）

むすこのアルマとモーサヤ王のむすこたちは，ぜんこくを回ってしんりを教えはじめ，自分が見たり聞いたりしたことをみんなに話しました。（モーサヤ27：32）

かれらは自分たちがおかしたまちがいを正すために，人びとにせいぶんについてせつめいし，イエス・キリストについて教えました。（モーサヤ27：35）

むすこのアルマとモーサヤのむすこたちがふくいんをつたえる時，神はしゅくふくしてくださり，多くの人がその話を聞き，しんじました。（モーサヤ27：36）

せんきょうしになった モーサヤのむすこたち

だい19しょう

アンモン，アロン，オムナー，ヒムナイは，モーサヤのむすこです。この4人がアルマのむすこといっしょにいた時，てんしがあらわれました。（モーサヤ27： 11，34）

モーサヤのむすこたちは，自分のつみをくい，めいわくをかけたことをこうかいしました。4人はふくいんがしんじつだと知って，ほかの人にも教えたいと思いました。（モーサヤ27：35－36）

かれらはだれ一人，王のくらいをつごうとしませんでした。それよりも，せんきょうしになって，レーマン人とふくいんのめぐみを分かち合いたいと思いました。（モーサヤ28：1，10；29：3）

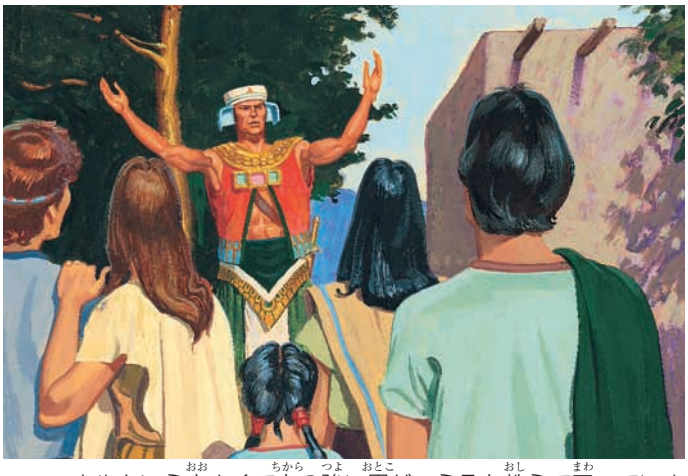
そこでモーサヤ王は，むすこたちをでんどうに行かせるべきかどうか，おいのりしました。すると，神はおっしゃいました。「行かせなさい。わたしがかれらをまもります。多くのレーマン人があなたのむすこたちのことばをしんじるでしょう。」（モーサヤ28：6－7）

モーサヤのむすこたちは，よいせんきょうしになれるようにだんじきして，いのりました。それからレーマン人へのでんどうにたび立ちました。（モーサヤ28：9；アルマ17：9）

アルマとニーホル

だい20しょう

モーサヤ王がなくなる前，ニーファイ人は自分たちをおさめるさばきつかさをえらびました。むすこのアルマはさいしょの大さばきつかさにえらばれました。アルマは教会のしどうしゃでもありました。（モーサヤ29：41－42）



ニーホルという大きくて力の強い男が，うそを教えて回っていました。ぜんにんであろうがあくにんであろうが，みんなすくわれるというのです。多くの人びとはニーホルをしんじました。（アルマ1：2－5）

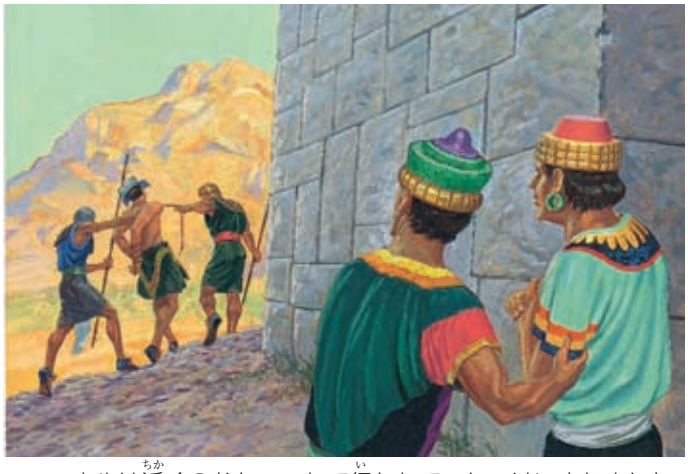
ニーホルは神の教会にはんした教えをといていましたが，ギデオンという正しい人がそれをやめさせようとしました。ニーホルはギデオンと言いあらそいました。しかし，ギデオンは神のことばで語りました。（アルマ1：7－8）

ニーホルはおこって，つるぎでギデオンを切りころしました。（アルマ1：9）

ニーホルは，さいばんをうけるためにアルマの前につれて来られました。ニーホルは，はずかしげもなくべんかいしました。（アルマ1：10－11）

しかしアルマは言いました。「あなたにはつみがある。たみにあくを広め，ギデオンをころした。」（アルマ1：12－13）

「ギデオンをころしたばつをうけなければならない。よってこくほうにより，あなたをしけいにする。」（アルマ1：14）



ニーホルは近くのおかへつれて行かれて，しょけいされました。ニーホルはしぬ前に自分が教えたことはすべてまちがっていると言いました。しかしそれでも，多くの人びとは，ニーホルが広めたその教えからはなれませんでした。（アルマ1：15－16）

かれらはとみをほしがって，神のいましめをまもろうとせず，教会いんをからかったり，教会いんと言いあらそったりしました。（アルマ1：16，19－20，22）

それでも正しい人びとは，いましめをまもりつづけ，ニーホルをしんじる人たちにくるしめられても，ふへいを言いませんでした。（アルマ1：25）

教会いんはもっているものをまずしい人びとと分かち合い，びょうにんのめんどうを見ました。このようにして神のいましめをまもった人たちは，しゅくふくをうけました。（アルマ1：27，31）

アムリサイ人

だい21しょう

アムリサイはたいへんずるがしこい男で，ニーファイ人の王になりたがっていました。おおぜいの人がアムリサイにみかたしました。（アルマ2：1−2）

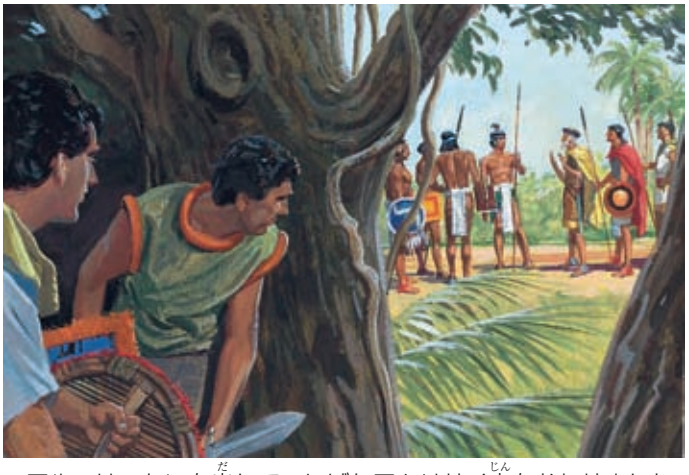
正しいニーファイ人はアムリサイに王になってほしくありませんでした。アムリサイは神の教会をほろぼそうとしているのを知っていたからです。（アルマ2：3−4）

アムリサイを王にするかどうかきめるために，人びとはあつまりました。ところが，たいはんの人がアムリサイにはんたいのとうひょうをしたので，アムリサイは王になれませんでした。（アルマ2：5−7）

おこったアムリサイとみかたのものたちは，ニーファイ人からはなれて，アムリサイを王に立てました。そして，自分たちをアムリサイ人とよびました。アムリサイはみかたのものに，ニーファイ人とたたかえとめいじました。（アルマ2：8−11）

そこで正しいニーファイ人は，弓，矢，つるぎなどでぶそうしました。（アルマ2：12）

アムリサイ人がせめて来ました。しかし，アルマにひきいられたニーファイ人は，主の力をえて，多くのアムリサイ人をころしました。生きのこったアムリサイ人は，にげて行きました。（アルマ2：15－19）



アルマはつかいを出して，にげたアムリサイ人をおわせました。つかいはこうほうこくしました。「アムリサイ人はすでにレーマン人のたいぐんとれんごうして，ゼラヘムラ近くのニーファイ人をおそおうとしています。」（アルマ2：21，24－25）

ニーファイ人はいのりました。神により強められたニーファイ人は，多くのレーマン人とアムリサイ人をころしました。（アルマ2：28）

アルマとアムリサイは，ちょくせつたいけつしました。アルマは「わたしのいのちをたすけてください」といのったので，神から力をえて強くなり，アムリサイをころしました。（アルマ2：29－31）

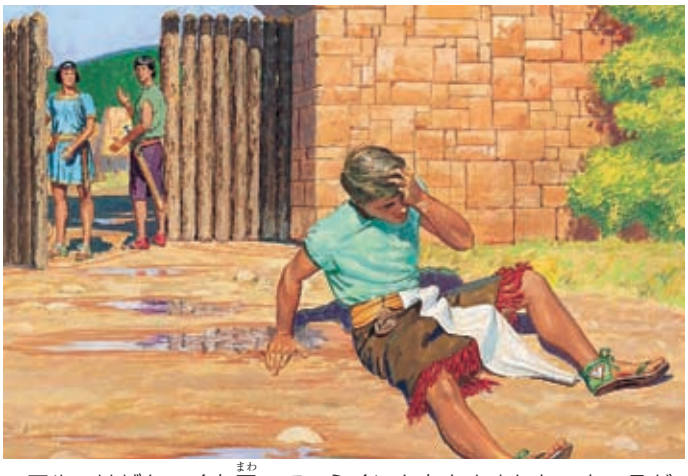
ニーファイ人は，レーマン人とアムリサイ人をあれ野へついげきしました。きずをおったものの多くはあれ野でしに，どうぶつのえじきになりました。（アルマ2：36－38）

アムリサイ人はレーマン人のように赤いしるしをぬったので，主が言われたとおりになりました。こうしてアムリサイ人は，ふくいんのめぐみからはなれたのです。（アルマ3：4，14，18－19）

アモナイハで でんどうするアルマ

だい22しょう

アルマはニーファイ人のざいあくを見かね，ぜん時間をでんどうについやすけっしんをしました。大さばきつかさにはニーファイハをえらびました。（アルマ4：7，18－19）



アルマはぜんこくを回って，ふくいんをときました。ところが，アモナイハの町の人びとは，アルマのことばに耳をかそうともせず，アルマを町からおい出したのです。（アルマ5：1；8：8－9，11，13）

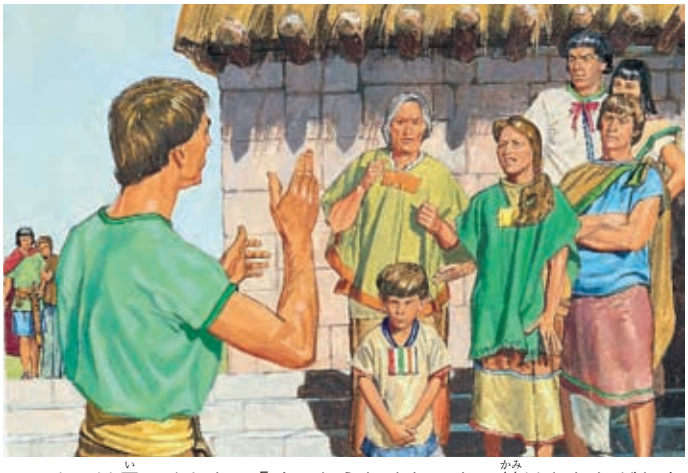
アルマは，アモナイハのたみがおかしたざいあくのために，なげきかなしみました。しかたなくアルマは，ほかの町へむかいました。（アルマ8：13－14）

するとてんしがあらわれて，アルマをなぐさめました。そして，こう言いました。「もういちどアモナイハにもどって，くいあらためをときなさい。」アルマは，いそいで引きかえしました。（アルマ8：15－16，18）

アルマはおなかがすいていたので，町へ入って行くと，一人の男に，何か食べものをくれませんかと言いました。すると，その人は言いました。「あなたは神のよげんしゃです。てんしがそうつげたのです。」（アルマ8：19－20）

この人はアミュレクといい，アルマを自分の家へつれて行って，食べものを出しました。アルマは，アミュレクの家にしばらくたいざいし，アミュレク一家がしてくれたことを神にかんしゃして，かれらをしゅくふくしました。（アルマ8：21－22，27）

アルマがアモナイハの人びとを教えるのにめされていることを話すと，アミュレクはアルマとともに出て行って，人びとにくいあらためるように言いました。二人にはせいれいのたすけがありました。（アルマ8：24－25，30）



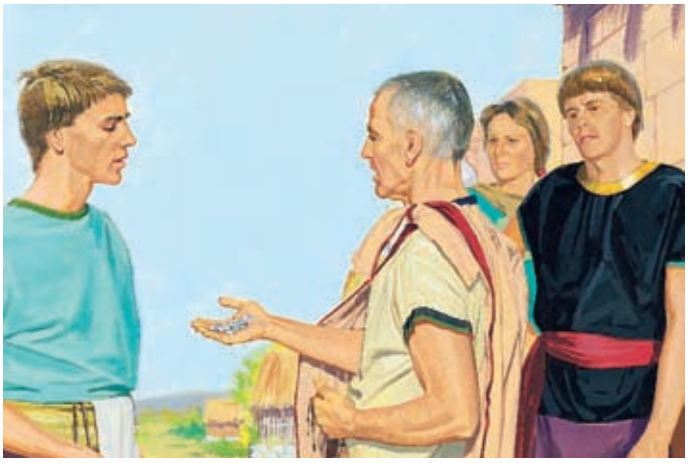
アルマは言いました。「くいあらためないと，神はあなたがたをほろぼされるであろう。また，イエス・キリストが来られ，ご自分をしんじ，くいあらためるものをすくわれるであろう。」（アルマ9：12，26－27）

アルマがこのように話したところ，人びとはおこって，アルマをろうやに入れようとしました。しかし，主がアルマをおまもりになりました。（アルマ9：31－33）

アミュレクも教えをときはじめました。かれは，よそもののアルマとちがって，多くの人に知られていました。そして，自分がてんしのおとずれをうけたことを話しました。（アルマ9：34；10：4，7）

「アルマは神のよげんしゃである。アルマの話したことはしんじつである。」アミュレクのあかしを聞いて，人びとはおどろきました。（アルマ10：9－10，12）

しかし，ある人びとは，とくに，ゼーズロムという名のあくにんが，それを聞いてはらを立てました。アミュレクにしつもんをしてわなにかけようとしました。アミュレクはそのたくらみを見ぬいていました。（アルマ10：13−17，31）



ゼーズロムはすべてのよいことにはんたいしようとしていました。そうどうを引きおこして，それをかいけつするために人びとからほうしゅうをうけていました。（アルマ11：20−21）

ゼーズロムはアミュレクをわなにかけることができませんでした。そこで，ゼーズロムは神がいないと言ったら，お金をやろうと言います。アミュレクは神が生きておられることを知っていました。ゼーズロムもまた，それを知っていたのですが，神よりもお金をあいしていました。（アルマ11：22，24，27）

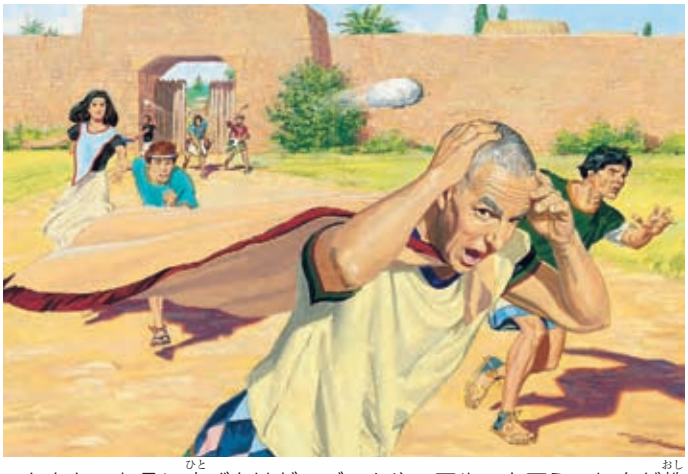
アミュレクは，ゼーズロムにイエスやふっかつ，えいえんのいのちについて話しました。それを聞いて，町の人びとはおどろき，ゼーズロムもおそろしくなって，ふるえ出しました。（アルマ11：40−46）

自分のたくらみを見やぶられ，アルマとアミュレクが神の力をうけていることが分かったゼーズロムは，アルマの教えるふくいんにじっと耳をかたむけました。（アルマ12：1，7−9）

多くの人びとが，アルマとアミュレクのことばをしんじ，くいあらためて，せいぶんをべんきょうするようになりました。（アルマ14：1）

しかし，ほとんどの人は，アルマとアミュレクをころそうと思いました。二人をしばり上げて，大さばきつかさの前へ引っぱって行ったのです。（アルマ14：2−4）

ゼーズロムは，自分のわるい行いや人びとをそそのかしたことにりょうしんがとがめられて，二人のなわをほどいてくれるようにたのみました。（アルマ14：6−7）



しかし，わるい人びとはゼーズロムや，アルマとアミュレクが教えたことをしんじた人びとを町からおい出し，石をなげつけたのです。（アルマ14：7）

さらにわるい人びとは，神のことばをしんじる女の人や子どもを火の中になげ入れ，またせいてんもやいてしまいました。（アルマ14：8）

アルマとアミュレクは，そのようすをむりやり見せられたので，アミュレクは神の力をつかって，その人たちをすくい出したいと思いました。（アルマ14：9−10）

ところが，アルマはアミュレクに言いました。「手を出してはなりません。この人たちは神のみもとへ行くのです。あくにんたちはこらしめをうけます。」（アルマ14：11）

大さばきつかさは，アルマとアミュレクの顔を何どもうち，あざけりました。二人が火で焼かれている女の人や子どもたちをたすけなかったからです。そして，二人をろうやに入れさせました。（アルマ14：14−17）

わるい人びとがつぎつぎと，ろうやにやって来ては，二人をののしりました。そのうえ，食べものも水もあたえようとしなかったのです。（アルマ14：18−22）

大さばきつかさは言いました。「おまえたちに神の力があるなら，このなわをほどいてみろ。そうしたらしんじてやろう。」そして，また二人をうちました。（アルマ14：24）

アルマとアミュレクは，立ち上がりました。そして，アルマが「わたしたちのキリストをしんじるしんこうにおうじて力をおあたえください」と神にいのりました。（アルマ14：25−26）

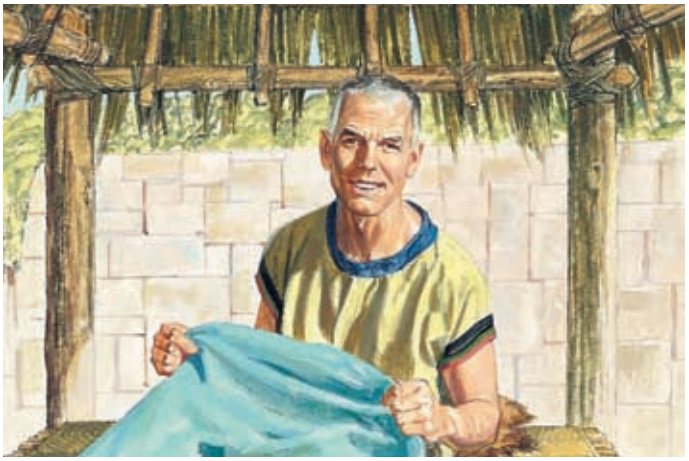
すると，たちまち二人は神の力にみたされ，自分たちをしばっていたなわをたち切りました。わるい人びとは，おそれてにげ出しましたが，じめんにたおれてしまいました。（アルマ14：25−27）

じめんがゆれ，ろうやのかべはわるい人びとの上にくずれおちました。主がアルマとアミュレクをおまもりになったのです。二人はぶじでした。（アルマ14：27−28）

アモナイハの人びとはこのできごとを見にやって来ました。アルマとアミュレクがくずれたろうやから出て来たのを見ると，人びとはこわがって，にげて行ってしまいました。（アルマ14：28－29）

主はアルマとアミュレクにシドムの地へ行くようにめいじられました。そこで，二人は正しい人びとに会います。そこにはゼーズロムもいて，びょうきになっていました。（アルマ15：1－3）

ゼーズロムは，アルマとアミュレクに会ってよろこびました。自分のせいで，二人がころされたと思ったからです。ゼーズロムは二人に，自分をいやしてくれるようにたのみました。（アルマ15：4－5）



ゼーズロムはイエス・キリストをしんじ，もうくいあらためていました。そこでアルマがおいのりすると，ゼーズロムはたちまちいやされました。（アルマ15：10－11）

ゼーズロムはバプテスマをうけて，ふくいんを広めはじめました。多くの人びともバプテスマをうけました。（アルマ15：12，14）

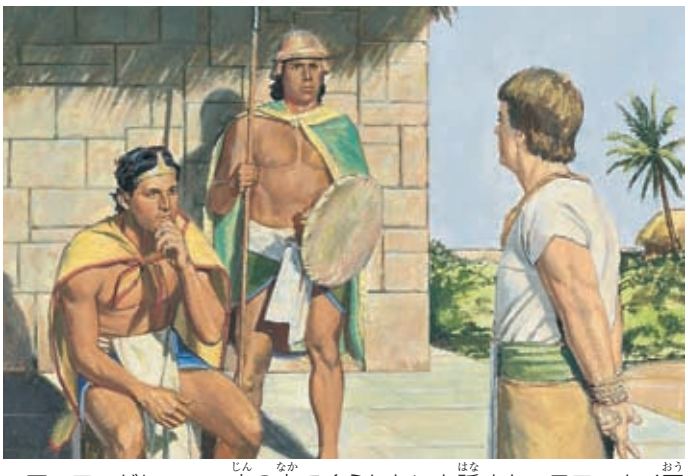
アモナイハにとどまっていたわるい人びとは，アルマがよげんしていたように，レーマン人に一人のこらずほろぼされてしまいました。（アルマ10：23；16：2，9）

いだいなしもべアンモン

だい23しょう

モーサヤの4人のむすこは，ゼラヘムラを出て，レーマン人にふくいんを教えに行きました。行き先は，それぞれちがっていました。（アルマ17：12−13）

アンモンはイシマエルの地へ行きました。イシマエルにつくとすぐ，レーマン人はアンモンをしばって，ラモーナイ王の前につれて行きました。（アルマ17：20−21）



アンモンがレーマン人の中でくらしたいと話すと，ラモーナイ王はたいへんよろこんで，アンモンのなわをといてくれました。（アルマ17：22−24）

アンモンは「王のしもべになります」と言いました。やがてアンモンは，王のかちくのむれの番をするためにつかわされました。（アルマ17：25）

ある日，アンモンたちは，かちくのむれを水のあるところにつれて行きました。すると，レーマン人のどろぼうがやって来て，かちくのむれをおいちらして，ぬすもうとしました。（アルマ17：26−27，18：7）

なかまのしもべたちはおそれました。前にもこのわるいレーマン人たちにかちくをうばわれて，ラモーナイ王にころされたしもべがいたからです。（アルマ17：28）

アンモンは思いました。「今こそ神の力を見せ，レーマン人の心をとらえよう。そうすれば，レーマン人もわたしの言うことを聞くようになるだろう。」（アルマ17：29）

アンモンはほかのしもべに言いました。「むれをみな元どおりにあつめたら，ころされずにすむにちがいない。」（アルマ17：31）

アンモンたちはいそいでかちくのむれをさがし，また水ぎわにあつめました。（アルマ17：32）

ところが，またあのレーマン人たちがやって来たので，アンモンはなかまに言いました。「わたしがかれらとたたかっている間みんなはかちくを見はっていてくれ。」（アルマ17：33）

レーマン人のどろぼうたちは，アンモンをおそれませんでした。アンモンをかんたんにころせると思ったのです。（アルマ17：35）

しかし，アンモンには神の力がやどっていました。アンモンは石をなげて，何人かをころしました。そのためどろぼうたちは，ひどくおこりました。（アルマ17：35−36）

アンモンをうちころそうと，ぼうをふり上げてかかって来たものたちはみな，アンモンにうでを切りおとされました。どろぼうたちはふるえ上がって，にげて行きました。（アルマ17：36−38）

なかまのしもべたちは，切りおとされたどろぼうたちのうでをラモーナイ王の前へもって行き，アンモンの強さとかれのしたことを話しました。（アルマ17：39；18：1）

それを聞いて，アンモンのいだいな力に王はたいそうおどろきました。王はアンモンに会いたいと思う一方，おそれるきもちもありました。アンモンのことをたいれいではないかと思ったからです。（アルマ18：2−4，11）

アンモンが王のもとへ行くと，ラモーナイ王は何と言ってよいか分からず，1時間，何も言いませんでした。（アルマ18：14）

せいれいのたすけによって，アンモンは王の考えていることが分かりました。アンモンは自分がたいれいではなく，ただの人間であると話しました。（アルマ18：16−19）

すると王は言いました。「何の力によっておまえはどろぼうたちをうちまかしたのか。なぜわたしの考えていることが分かったのか。それを教えてくれるなら，何でもほしいものをやる。」（アルマ18：20－21）

アンモンが「わたしののぞみは，王がわたしのことばをしんじてくださることだけです」と言うと，王は「よし，おまえの言うことをみなしんじよう」と言いました。（アルマ18：22－23）

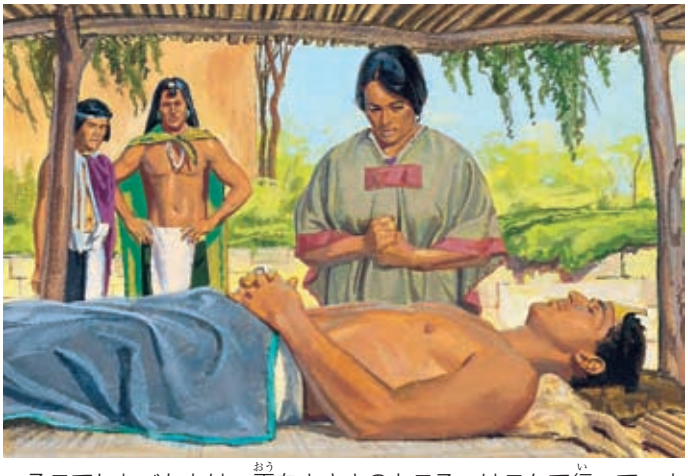
アンモンが，王は神をしんじますかとたずねると，王はたいれいはしんじると答えました。（アルマ18：24－27）

そこでアンモンは，たいれいは神であること，神は地上にあるすべてのものをおつくりになったこと，わたしたちの思いを知っておられることを話しました。（アルマ18：28－32）

「人は，神のかたちにかたどってつくられました。わたしは，王やたみにふくいんを教えるために，神によってめされているのです。」（アルマ18：34－35）

アンモンはせいぶんをつかって，ちきゅうのそうぞうやアダム，イエス・キリストについてラモーナイ王に教えました。（アルマ18：36，39）

ラモーナイ王はアンモンのことばをしんじ，つみのゆるしをもとめていのりはじめました。そして，しんだように地にたおれてしまいました。（アルマ18：40−42）



そこでしもべたちは，王をきさきのところへはこんで行って，よこたえました。ところが，2日たってもおきないので，みんなは王がしんだものと思い，はかにほうむろうとしました。（アルマ18：43；19：1）

しかし，きさきは王がしんだとはしんじられませんでした。アンモンのいだいな力を聞いたきさきは，アンモンにたすけをもとめました。（アルマ19：2−5）

アンモンは，神の力がラモーナイ王に下ったことを知っていたので，王はしんだのではなく，明日になればおき上がると言いました。（アルマ19：6−8）

きさきはひとばん中，王のそばについていました。つぎの日，王はおき上がって，イエス・キリストを見たと言いました。王もきさきも，せいれいにみたされました。（アルマ19：11−13）

ラモーナイ王はたみに，神とイエス・キリストについて教えました。王のことばをしんじた人びとは，つみをくいあらため，バプテスマをうけました。（アルマ19：31，35）

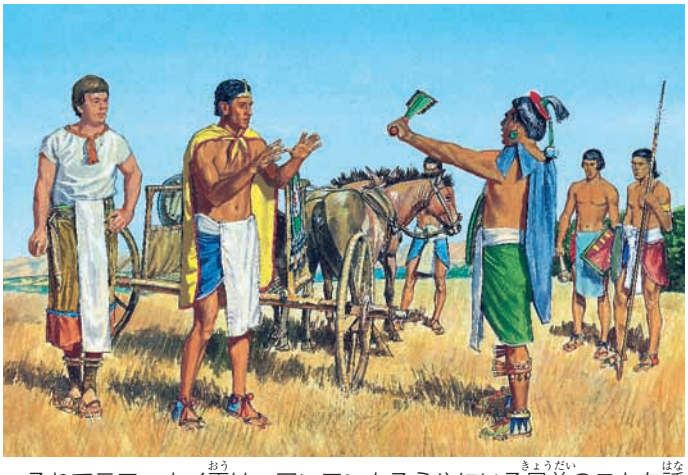
アンモン，ラモーナイ王の父に会う

だい24しょう

ラモーナイ王は，アンモンを自分の父に引き合わせたいと思いました。しかし，主はアンモンに言われました。「行ってはいけません。ラモーナイの父は，あなたをころそうとするでしょう。」（アルマ20：1－2）

「かわりにミドーナイの地へ行きなさい。兄弟のアロンはそこでろうやに入れられています」と主はアンモンにおっしゃいました。ラモーナイ王は，アンモンといっしょに行くことにしました。（アルマ20：2－4）

たびのとちゅうで，二人は，ラモーナイの父であるぜんこくの王に出会いました。「おまえはうそつきのニーファイ人とどこへ行くのだ。」父王は，ラモーナイに聞きました。（アルマ20：8，10）



それでラモーナイ王は，アンモンとろうやにいる兄弟のことを話しました。すると，父王はおこってラモーナイに，言いました。「アンモンをころせ，ミドーナイの地へ行ってはならない。」（アルマ20：11－14）

しかしラモーナイは言いました。「わたしはけっしてアンモンをころしません。二人でアロンをたすけに行きます。」父王はこれを聞いてますますはらを立て，刀をぬいて，ラモーナイ王をころそうとしました。（アルマ20：15－16）

アンモンはラモーナイをまもろうとして，その前に立ちふさがりました。すると父王はアンモンに切りかかってきました。しかしアンモンははんたいに，父王のうでを強くうちました。（アルマ20：17，20）

ラモーナイの父は，アンモンにころされるかもしれないと思って言いました。「いのちをたすけてくれるなら，たとえ国の半分でもおまえにやろう。」（アルマ20：21，23）

そこでアンモンは父王に言いました。「アロンとそのどうりょうをろうやから出してあげたいのです。それから，ラモーナイ王が国をおさめるようにしてください。」（アルマ20：22，24）

父王は，アンモンが自分をころす気のないことを知り，またラモーナイ王をふかくあいしていることにおどろきました。そして，アンモンにふくいんを教えてくれるように言いました。（アルマ20：26−27）

そこでアンモンとラモーナイ王は，ミドーナイの地へむかいました。ラモーナイ王がミドーナイの王と話し合ったけっか，アロンたちはついにじゆうのみになりました。（アルマ20：28）

アンモンは，兄弟たちがひどいあつかいをうけたことを知って，とてもかなしく思いました。兄弟たちはたくさんのくるしい目にあいましたが，そのくるしみにたえたのです。（アルマ20：29）

ラモーナイ王の父にふくいんをのべつたえるアロン

だい25しょう

アロンとその兄弟たちは，王のみたまにみちびかれてニーファイの地へ行き，ラモーナイ王の父にふくいんをつたえました。父王はレーマン人の王でした。（アルマ22：1）

「わたしはアンモンの兄弟です。」アロンは言いました。王は，アンモンの親切なたいどやことばを，ずっと心にとどめていました。（アルマ22：2−3）

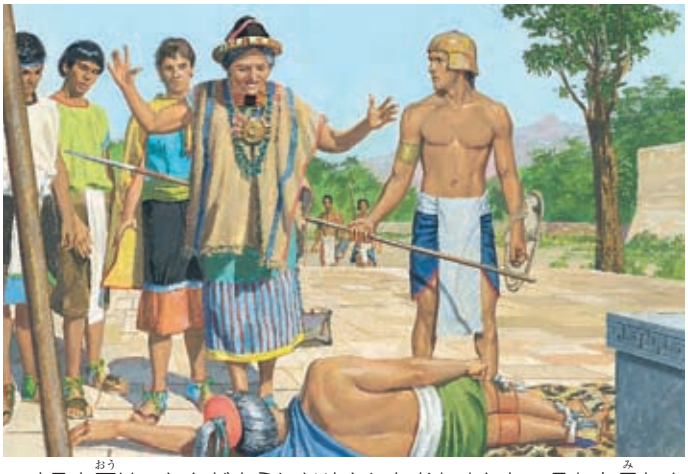
「神をしんじますか」ととわれて，王は，「分からないが，アロンが神がおられると言うならしんじよう」と答えました。アロンは，「たしかに神はいらっしゃいます」と言いました。（アルマ22：7−8）

アロンは，せいぶんを王に読んで聞かせ，ちきゅうのそうぞうや，アダムのだらく，イエス・キリストのしめいについて教えました。（アルマ22：12−14）

それを聞いて王は，「せいれいをうけて，神とともにくらすようにするためには，どうすればよいか。そのためなら，どんなことでもする。王のくらいをすててもよい」と言いました。（アルマ22：15）

そこでアロンは，王にひざまずき，しんこうをもって神にいのるように言いました。王は，つみをかんぜんにくいあらためるひつようもありました。（アルマ22：16）

王はひざまずいて，いのりました。「神がいらっしゃることを知らせてください。そうすればわたしは，つみをぜんぶすてます。」（アルマ22：17－18）



すると王は，しんだようにじめんにたおれました。それを見たきさきは，アロンたちが王をころしたのだと思いました。（アルマ22：19）

きさきはしもべたちに，アロンとその兄弟たちをころすようにめいじました。ところが，しもべたちがおそれたので，きさきはつかいをやって，ほかのものにころさせようとしました。（アルマ22：20－21）

たみがおおぜいおしよせて来て，さわぎがおこる前に，アロンが王の手をとって，「立ちなさい」と言うと，王は立ち上がりました。（アルマ22：22）

王は，おそれるきさきやしもべたちをおちつかせて，ふくいんを教えました。こうして，みながイエス・キリストをしんじるようになりました。（アルマ22：23）

アンモンのたみ

だい26しょう

モーサヤのむすこたちは，レーマン人にふくいんを教えました。それによってたくさんのレーマン人が，くいあらためて教会に入りました。（アルマ23：4−5）

教会に入ったこのレーマン人たちは，自分たちのことをアンタイ・ニーファイ・リーハイ人，またはアンモンのたみとよびました。このたみは，とてもぜんりょうできんべんなたみとなりました。（アルマ23：17−18；27：26）

心をあらためなかったレーマン人たちは，アンモンのたみをいかり，かれらとたたかうよういをしました。（アルマ24：1−2）

アンモンのたみは，わるいレーマン人たちがおそって来ることを知りましたが，はんげきしないことにしました。かれらは，人をころしたことをこうかいしていたのです。（アルマ24：5−6）

かれらは，ぶきを地中ふかくうめて，にどと人をころさないと神にやくそくしました。（アルマ24：17−18）

わるいレーマン人がせめて来て，アンモンのたみをころしはじめると，人びとは，ひざまずいていのりました。（アルマ24：21）

アンモンのたみがたたかわないのを見て，たくさんのわるいレーマン人はころすのをやめました。（アルマ24：23−24）

レーマン人はアンモンのたみをころしたことをこうかいしました。かれらは，ぶきをなげすてて，アンモンのたみにくわわり，ふたたびたたかおうとはしませんでした。（アルマ24：24−27）

その後も，さらに多くのわるいレーマン人が，アンモンのたみをほろぼしにやって来ました。それでもアンモンのたみは，たたかおうとせず，多くの人がころされました。（アルマ27：2−3）

アンモンは，あいする人びとがこれいじょうころされるのにたえられず，主にたすけをねがいもとめました。すると主は，たみをつれてこの地を出るように言われました。（アルマ27：4−5，10−12）

ゼラヘムラのニーファイ人は，アンモンとそのたみにジェルションの地をあたえました。そしてかれらをまもり，かれらの友となりました。（アルマ27：22−23）

コリホル

だい27しょう

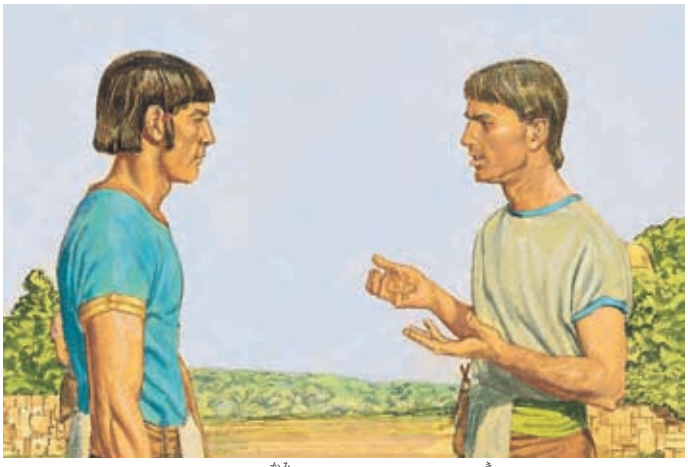
コリホルという人が，ゼラヘムラにやって来ました。コリホルは，イエス・キリストをしんじず，よげんしゃがすくいぬしについて話すことは，うそだと教えました。（アルマ30：6，12−14）

コリホルは，イエスがこの地上に来て，自分たちのつみのためにくるしまれるなどとしんじるのは，ばかげていると言いました。（アルマ30：16）

コリホルは言いました。「人はしんだらそれでおわりだ。だから，つみをおかしても，ばっせられることはない。」たくさんの人がコリホルの話をしんじ，わるい行いをするようになりました。（アルマ30：17−18）

コリホルは，アンモンのたみにも同じことを教えました。しかし，アンモンのたみは聞こうとはしません。コリホルをしばって，アンモンのところへつれて行きました。アンモンは，コリホルをジェルションの地からおい出しました。（アルマ30：19−21）

コリホルは，ギデオンの地へ行きましたが，そこの人びとも，コリホルの教えには耳をかしませんでした。大さばきつかさは，コリホルをアルマに引きわたしました。（アルマ30：21，29）



アルマがコリホルに，「神をしんじるか」と聞くと，コリホルはしんじないと答えました。そこでアルマはあかししました。「わたしは神がいらっしゃることも，キリストがおいでになることも知っている。」（アルマ30：37－39）

するとコリホルは言いました。「それなら神がいるしょうこに，きせきを行え。神に力があるしるしを見たなら，しんじよう。」（アルマ30：43）

アルマは言いました。「あなたはすでに数かずのしるしを見ているではないか。せいぶんも，すべてのよげんしゃのあかしもある。」（アルマ30：44）

「大地も，その上にあるすべてのものも，大地のうんどうも，みな神がいらっしゃるしるしではないか。」（アルマ30：44）

それでもコリホルは，神をしんじようとしません。アルマは，コリホルがかたくなのをかなしく思い，みもれいもほろびることになるぞとけいこくしました。（アルマ30：45－46）

それでもまだコリホルは，神がいるしるしを見せろと言いはりました。そこでアルマは言いました。「あなたはものが言えなくなる。それが神のしるしだ。」（アルマ30：48－49）

アルマがこのように言うと，コリホルは口がきけなくなってしまいました。（アルマ30：50）

コリホルは，文字に書いて言いました。「このしるしを下されたのは神だ。本当は前から神がおられることは知っていた。」そして，のろいがとりさられるようにいのってほしいと，アルマにたのみました。（アルマ30：52，54）

しかし，アルマは，コリホルがまた，人びとをまどわすことが分かっていたので，「もういちど話せるようになるかどうかは主がおきめになることだ」と言いました。（アルマ30：55）

主は，コリホルが口がきけるようにはされませんでした。コリホルは，しかたなく，家から家へと，食べものをもらって歩くようになりました。（アルマ30：56）

大さばきつかさは，ぜんこくにふれを出して，コリホルのみにおこったことを知らせました。そして，コリホルをしんじたものに，くいあらためるように言いました。人びとはくいあらためました。（アルマ30：57−58）

コリホルは，ゾーラム人のところへ行き，そこでものごいをしている時に，つきたおされて，ふみつけられてしんでしまいました。（アルマ30：59）

ゾーラム人とラミアンプトム

だい28しょう

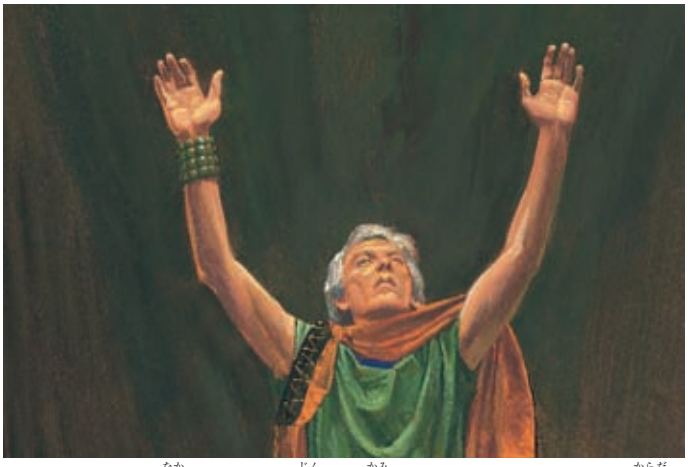
ゾーラム人は，かつては神の教会のいちいんでしたが，じゃあくになり，ぐうぞうをおがんでいました。（アルマ31：1，8−9）

ニーファイ人は，ゾーラム人がレーマン人と交わるのをおそれました。そこでアルマは，せんきょうしをつれて，ゾーラム人に神のことばを教えに行きました。（アルマ31：4，11）

せんきょうしたちは，ゾーラム人がかいどうというたてものでしているれいはいのほうほうに，とてもおどろきました。（アルマ31：12）

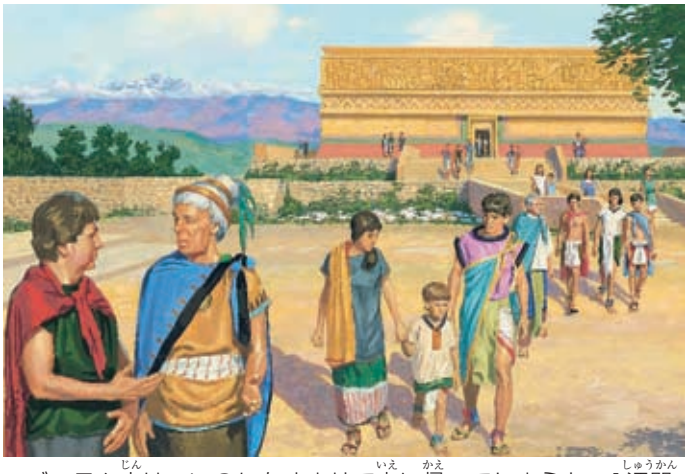
ゾーラム人は，かいどうのまん中に，ラミアンプトムという名前の高い台をたてていたのです。その台のてっぺんは，人が一人立てるだけの大きさでした。（アルマ31：13，21）

ゾーラム人は，じゅんばんにこの台の上に立ち，りょう手を天にのばして，大声で同じいのりをささげました。（アルマ31：14，20）



そのいのりの中でゾーラム人は，神はただのれいであって，体はない，キリストもいないと言いました。（アルマ31：15－16）

その上，自分たちだけは神からえらばれて，天の王国にすくわれるとしんじ，自分たちがとくべつなたみであることにかんしゃしていました。（アルマ31：17－18）



ゾーラム人は，いのりをすませて家に帰ってしまうと，1週間，神のことを話しもしなければ，おいのりもしませんでした。（アルマ31：12，23）

お金もちのゾーラム人たちは，金ぎんのことばかり考えていて，このよのとみをじまんしていました。そのようなありさまを見て，アルマはとてもかなしくなりました。（アルマ31：24－25）

アルマは，自分とせんきょうしたちに，力となぐさめとをあたえ，でんどうがせいこうするようにとおいのりしました。（アルマ31：26，32－33）

ゾーラム人をしんりの道につれもどすことができるようにねがいもとめると，アルマとせんきょうしたちはせいれいにみたされました。（アルマ31：34－36）

せんきょうしたちは，それぞれでんどうに出かけて行きました。神はかれらに，食べものやきるものをあたえ，でんどうする力をおあたえになりました。（アルマ31：37−38）

まずしいゾーラム人は，神をれいはいするためにかいどうへ入ることをゆるされていませんでした。この人たちは，せんきょうしの話を聞くようになりました。（アルマ32：2−3）

おおぜいの人びとがやって来て，どうしたらよいかと聞きました。そこでアルマは言いました。「かいどうの中でなくてもおいのりをし，神をれいはいすることはできます。」（アルマ32：5，10−11）

アルマは，神にしんこうをもつように教えました。その後アミュレクが，イエス・キリストと，すべての人のためにあたえられた神の計画について話しました。（アルマ32：17−21；34：8−9）

せんきょうしたちがさった後，せんきょうしの教えをしんじたゾーラム人たちは，町からおい出されてしまいました。かれらは，アンモンのたみといっしょにジェルションの地へうつりすみました。（アルマ35：1−2，6）

わるいゾーラム人たちは，ジェルションにすむアンモンのたみをおどしましたが，アンモンのたみは，正しいゾーラム人に食べものやきるものをあたえ，すむための土地をゆずりあたえました。（アルマ35：8−9）

しんこうと神のことばについて教えるアルマ

だい29しょう

アルマはゾーラム人に，しんこうについて教えました。「しんじるために天からのしるしをもとめるのは，しんこうではありません。」（アルマ32：17－18）

「しんこうとは，まだ見ていない本当のことをしんじることです」とアルマが言います。（アルマ32：21）

「本当にしんじたいとのぞんで，神のことばに耳をかたむけるなら，心の中にしんこうというたねがまかれ，ふくれはじめます。」（アルマ32：27－28）

「ふくいんをさらに学んでいくと，このたねは生長しつづけ，それがよいたねであると分かります。こうしてわたしたちのしんこうはますのです。」（アルマ32：30）

「よいたねがよいみをむすぶのと同じように，わたしたちがしんこうをもてば，神のことばは，しゅくふくというみをむすぶでしょう。」（アルマ32：31，41－43）

むすこたちを
いましめるアルマ

だい30しよう

アルマは，ニーファイ人のわるい行いを見て，かなしく思いました。そこでアルマは，むすこたち一人一人に，正しい生活をすることについて話しました。（アルマ35：15－16）

長男のヒラマンには，神にたよるように教えました。そして，自分がむかし教会をほろぼそうとした時，神がてんしをおくって，それをやめるようにおめいじになったことを話しました。（アルマ36：3，6）

3日間，アルマは自分のおかしたつみのためにくるしみました。その時アルマは，お父さんがイエスについて教えてくれことを思い出し，ゆるしがえられることを知りました。（アルマ36：16－17）

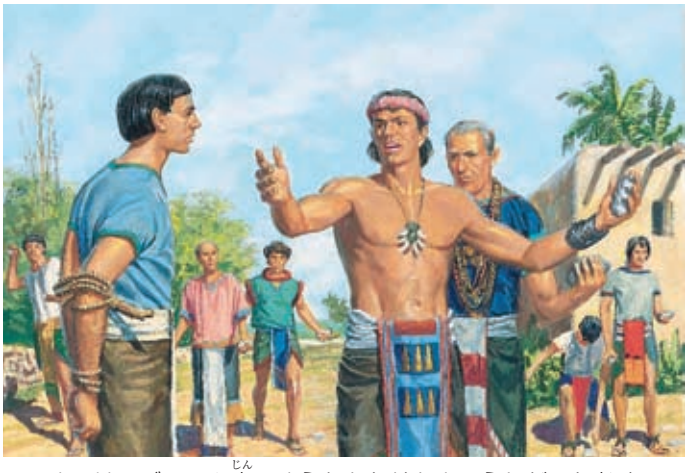
アルマがゆるしをもとめていのると，くるしみはよろこびにかわりました。イエス・キリストをしんじ，くいあらためることによって，アルマはゆるしをうけたのです。（アルマ36：18－20）

その時から，アルマは人びとが自分と同じよろこびをかんじられるように，ふくいんを教えてきました。アルマが神をしんじてたよったので，神はアルマをしゅくふくしてくださいました。（アルマ36：24，27）

それからアルマはヒラマンに，しんちゅうのはんに書かれたしんせいなきろくをわたして，たみのれきしを書きつづけるように言いました。（アルマ37：1－2）

「いましめをまもれば，神はあなたをしゅくふくし，あなたがきろくをまもるのをたすけてくださる。」（アルマ37：13，16）

またヒラマンは，朝も夜もおいのりをするように言われました。「すべてのことについて主のみ心をうかがいなさい。そうすれば主はあなたのためになるたすけをあたえてくださる。」（アルマ37：36－37）



アルマは，ゾーラム人のゆうかんなせんきょうしだったむすこのシブロンをうれしく思っていました。シブロンは，ゾーラム人に石でうたれた時でさえ，しんこうをかたくまもりました。（アルマ38：3－4）

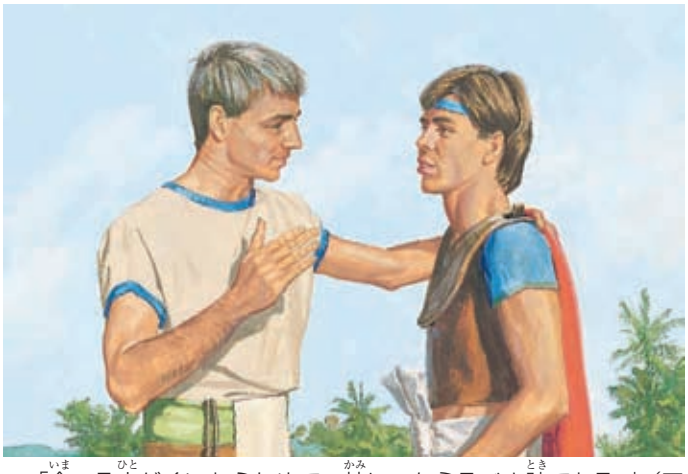
「イエス・キリストによらなければほかに人をすくう道はない。」アルマはそう言うと，シブロンにこれからもでんどうをつづけるようはげましました。（アルマ38：9－10）

もう一人のむすこコリアントンはいましめをまもらず，ゾーラム人にふくいんをつたえていた間，ちゅうじつなせんきょうしではありませんでした。（アルマ39：2－3）

ゾーラム人はコリアントンのわるい行いを見たために，アルマの教えをしんじようとしませんでした。（アルマ39：11）

アルマはコリアントンに言いました。「だれも自分のつみを神にかくすことはできないから，あなたはくいあらためなければいけない。」（アルマ39：8−9）

「すべての人はしからよみがえる。そして，正しい人だけが神とともにすむことができる。」（アルマ40：9−10，25−26）



「今こそ人がくいあらためて，神につかえるべき時である。」（アルマ42：4）

「コリアントンよ，あなたはせんきょうしにめされているのです。ゾーラム人のところにもどって，くいあらためについて教えなさい。」（アルマ42：31）

こうしてアルマとむすこたちは，人びとにふくいんを教えつづけました。かれらは，しんけんの力によってでんどうしました。（アルマ43：1−2）

しれいかんモロナイ，ゼラヘムナをうちまかす

だい31しょう

レーマン人のしきかんゼラヘムナは，レーマン人に引きつづきニーファイ人をにくませ，ニーファイ人をどれいにしたいと思いました。（アルマ43：5，8）

ニーファイ人のねがいは，自分たちの土地やかぞくのじゆうをまもり，思うままに神をれいはいすることでした。（アルマ43：9）

ニーファイ人のぐんをしきしたのは，しれいかんモロナイでした。レーマン人がせめて来た時，モロナイはぐんをひきいてジェルションの地でたたかいました。（アルマ43：15－16）

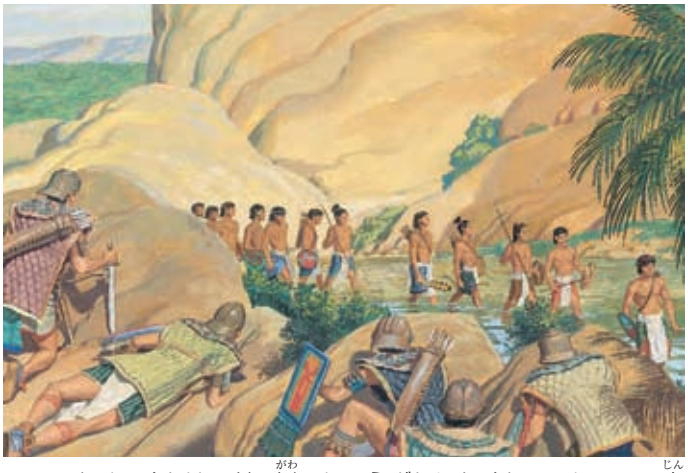
モロナイはたくさんのぶきをよういし，へいしたちにたてとかぶと，それにあついころもをつけさせました。（アルマ43：18－19）

一方，レーマン人のぐんはこしにかわをまとっただけでした。そのため，ニーファイ人のぐんよりもずっと多かったにもかかわらず，ニーファイ人のぶそうすがたを見て，おそれをなしました。（アルマ43：20－21）

レーマン人のぐんは，モロナイのぐんとたたかうゆうきをうしない，あれ野へにげました。そしてニーファイ人のほかの町をせめようとしました。（アルマ43：22）

モロナイは，ていさつへいをおくって，レーマン人たちのようすをさぐらせ，さらにアルマに，たすけていただけるように主にいのってほしいとたのみました。主は，レーマン人のぐんがせめようとしている地をしめされました。（アルマ43：23－24）

モロナイはアルマのでんごんを聞くと，へいしのいちぶをジェルションをまもるためにのこし，のこりのへいをひきいて，レーマン人とのたたかいにむかいました。（アルマ43：25）



モロナイのぐんはシドン川のりょうぎしにかくれて，レーマン人が川ぎしにやって来たら，はさみうちにしようとまちかまえていました。（アルマ43：27，31－35）

たたかいがはじまると，レーマン人は川をわたってにげようとしました。ところが，むこうぎしには，もっと多くのニーファイ人がまちかまえていたのです。（アルマ43：36，39－41）

ゼラヘムナのぐんがかつてないほどはげしくたたかったので，多くのニーファイ人がいのちをおとしました。ニーファイ人たちは，主のたすけをもとめました。（アルマ43：43－44，49）

主はニーファイ人のぐんに，たたかう力をおあたえになりました。モロナイは自分のぐんがレーマン人をとりかこんだのを見て，たたかいをやめよとめいじました。（アルマ43：50，52−54）

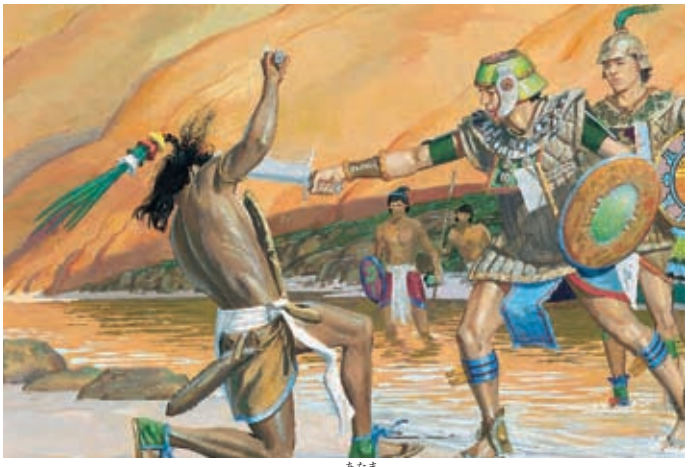
モロナイはゼラヘムナに言いました。「われらはおまえたちをころすのをこのまない。どれいにするつもりもない。主がわれらをたすけられたのだ。」（アルマ44：1−3）

「おまえたちは，われらのイエス・キリストへのしんこうをけしさることはできない。われらがちゅうじつである間は，神はわれらをたすけてくださる。」（アルマ44：4）

それからモロナイはゼラヘムナにぶきを引きわたすようめいじて，言いました。「もしおまえたちがにどとわれらとたたかわないとやくそくするなら，いのちはたすけてやろう。」（アルマ44：5−6）

ゼラヘムナはぶきを引きわたしたものの，ふたたびたたかわないとはやくそくしませんでした。そこでモロナイは，レーマン人たちが自分をまもれるようにぶきをかえしました。（アルマ44：8，10）

ゼラヘムナは，モロナイをころそうと切りかかって行きました。しかし，そのつるぎはニーファイ人の一人のへいしにたたきおとされ，おれてしまいました。（アルマ44：12）



さらにへいしは，ゼラヘムナの頭のかわをはぎました。そして，頭のかわをつるぎの先にひっかけて，かざしました。（アルマ44：12－13）

そして，ぶきを引きわたし，にどとたたかわないとやくそくをしなければ，この頭のかわが地におちたようにおまえたちも地にたおれることになるだろう，と言いました。（アルマ44：14）

これを聞いて，多くのレーマン人がモロナイの足元にぶきをなげ，にどとたたかわないとやくそくしました。そして，にがしてもらいました。（アルマ44：15）

しかし，ゼラヘムナははげしくおこって，のこりのへいしをたたかいにかり立てました。そして，その多くがモロナイのへいしのつるぎにたおれました。（アルマ44：16－18）

ゼラヘムナは，自分ものこりのへいしもみなころされようとするのを見て，モロナイにへいしのいのちごいをし，にどとニーファイ人にたたかいをいどまないとやくそくしました。（アルマ44：19）

そこでモロナイは，たたかいをやめさせ，レーマン人からぶきをとり上げました。へいわのちかいを立ててから，レーマン人はじゆうのみになりました。（アルマ44：20，23）

モロナイとじゆうのはた

だい32しょう

あくにんのアマリキヤは，ニーファイ人の王になりたがっていました。多くのニーファイ人がアマリキヤにしたがって，教会をさりました。（アルマ46：1，4−5，7）

もしアマリキヤが王になったら，きっと神の教会をほろぼし，人びとのじゆうをうばってしまうでしょう。（アルマ46：9−10）

ニーファイぐんのしれいかんモロナイは，アマリキヤの王になるというたくらみを聞いておこりました。（アルマ46：11）

それで自分のうわぎを引きさいて，はたを作りました。そのはたの上に，ことばを書いて，人びとが自分たちのしゅうきょうやじゆう，へいわをまもることを思いおこせるようにしました。（アルマ46：12）

モロナイはそれをぼうの先につけて，じゆうのはたとよびました。それからはたを手にもち，よろいをきて，ひざまずきいのりました。（アルマ46：13）

「イエス・キリストをしんじる人たちと，この地のじゆうをまもってください。」そして，その地を「じゆうの地」と名づけました。（アルマ46：16−18）

こうしてモロナイは，人びとのところに行き，じゆうのはたをふって，じゆうをまもるために出て来るよう，よびかけました。（アルマ46：19−20）

すると国中から人があつまって来て，神のいましめをまもり，じゆうのためにたたかうことをやくそくしました。（アルマ46：21−22，28）

アマリキヤは，たくさんのニーファイ人がじゆうをまもるためにあつまったのを見て，おそろしくなりました。そこで，自分について来る人びとをつれて，レーマン人のところへにげて行きました。（アルマ46：29−30）

モロナイはその行く手をはばもうと，ぐんをひきいて行きましたが，アマリキヤは，わずかの手下をつれてにげてしまいました。（アルマ46：31−33）

モロナイは，ニーファイ人の地にあるすべてのとうに，じゆうのはたを立てました。こうしてニーファイ人のじゆうはまもられ，へいわがもどりました。（アルマ46：36−37）

王せいとうとじゆうとう

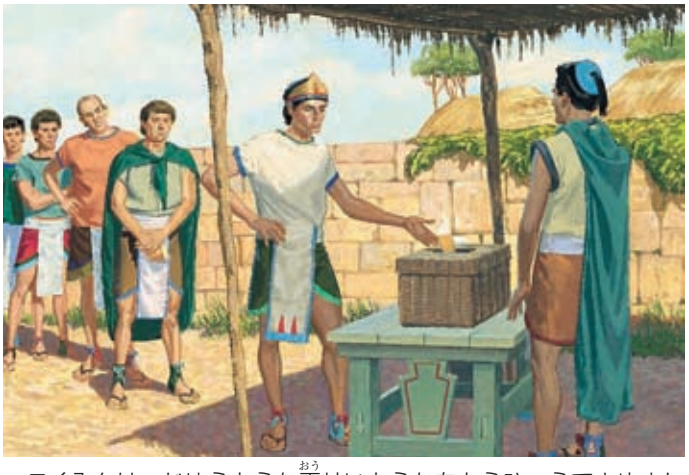
だい33しょう

いちぶのニーファイ人が大さばきつかさパホーランに，国のほうりつを少しばかりかえるように言いました。（アルマ51：2−3）

パホーランは，そのもとめを聞き入れませんでした。するとその人たちは，パホーランをおこって，大さばきつかさをやめさせようとしました。さばきつかさでなく，王をのぞんだからです。（アルマ51：3−5）

王せいとうとよばれたこの人たちののぞみは，なかまの中から王を立て，たみをおさめることでした。（アルマ51：5，8）

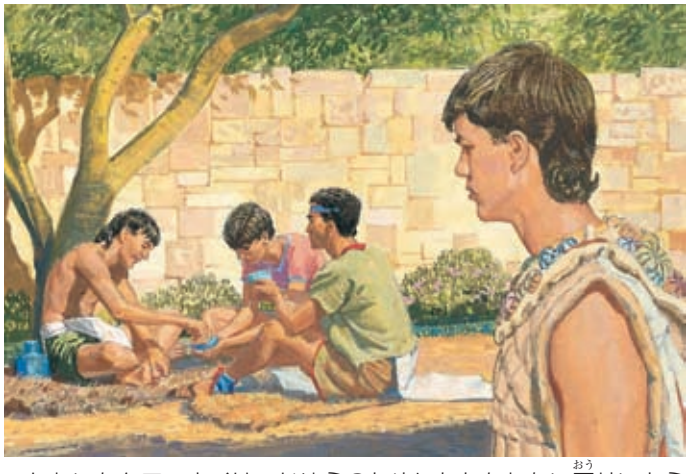
一方，パホーランに大さばきつかさでいてもらいたいと思ったニーファイ人たちは，じゆうとうとよばれました。かれらは何でも自分でえらんで生活し，れいはいしたいと思いました。（アルマ51：6）



こくみんは，じゆうとうか王せいとうかをとうひょうできめました。大半の人がじゆうとうにさんせいしました。（アルマ51：7）

同じころ，アマリキヤがレーマン人のたいぐんをあつめて，ニーファイ人をせめようとしていました。（アルマ51：9）

王せいとうの人びとは，レーマン人がせめて来ると聞いた時，心の中でよろこび，自分の国をまもることをこばみました。（アルマ51：13）



しれいかんモロナイは，じゆうのためにたたかわない王せいとうの人たちをおこりました。モロナイはこれまで，ニーファイ人のじゆうをまもるために一生けんめいがんばってきたのです。（アルマ51：14）

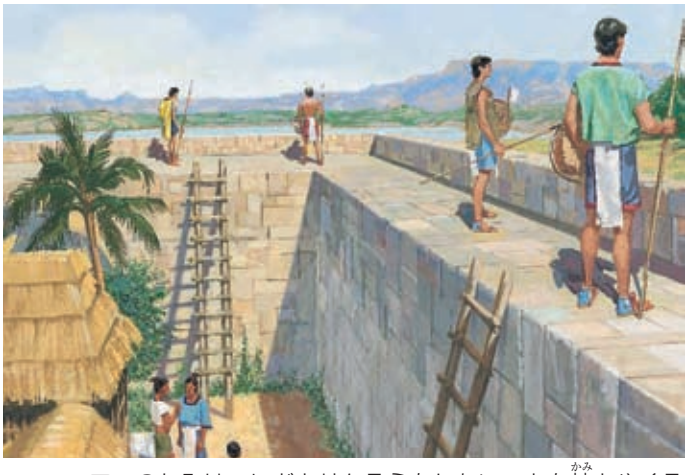
モロナイは国のそうとくに，王せいとうの人たちをきょうせいてきにレーマン人とたたかわせるか，しけいにする力を下さいとたのみました。（アルマ51：15）

国のそうとくであるパホーランからこの力をあたえられたモロナイは，自分のぐんをひきいて，王せいとうの人たちに立ちむかいました。（アルマ51：16−18）

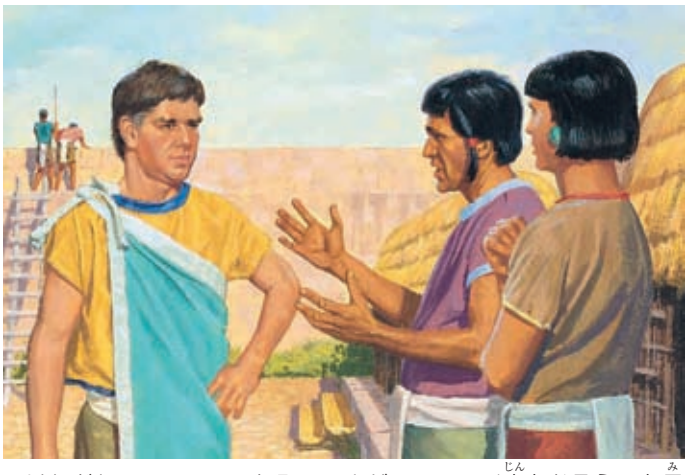
多くの王せいとうの人たちが，つるぎにたおれました。ろうやに入れられた人もいました。そのほかの人たちは，レーマン人から国をまもるためにたたかうことを聞き入れました。（アルマ51：19−20）

ヒラマンと2,000人のわかいへいしたち

だい34しょう



アンモンのたみは，にどとせんそうをしないことを神とやくそくしていました。アンモンのたみはニーファイ人の近くにすんで，ニーファイ人にまもってもらっていました。（アルマ53：10－12）



けれども，アンモンのたみのてきがニーファイ人をおそうのを見ると，アンモンのたみはやくそくをやぶっても，ニーファイ人といっしょにたたかいたいと思いました。（アルマ53：13）

ヒラマンやニーファイ人のしどうしゃたちは，アンモンのたみに神とのやくそくをやぶらせたくありませんでした。（アルマ53：14－15）

アンモンのたみのわかいむすこたちはこのやくそくをしていなかったので，じゆうのためにたたかっているニーファイ人のぐんたいをたすけたいと思いました。（アルマ53：16－17）

この2,000人のわかものたちは，国をまもるためにたたかうときめ，ヒラマンにしきかんになってくれるようにたのみました。（アルマ53：18－19）

このわかものたちは，ゆうかんで，強く，たくましいばかりでなく，正直で，しんらいできる，神のいましめをまもる青年でした。（アルマ53：20−21）

ヒラマンは，この2,000人のわかいへいしをひきいて，せんじょうに出て行きました。ヒラマンはへいしたちをむすことよび，へいしたちはヒラマンを父とよびました。（アルマ53：22；56：46）

ヒラマンのむすこたちは，まだいちどもたたかったことがありませんでしたが，おそれませんでした。お母さんたちから，神をしんじるならば，神がかならずたすけてくださると教えられていたからです。（アルマ56：47）

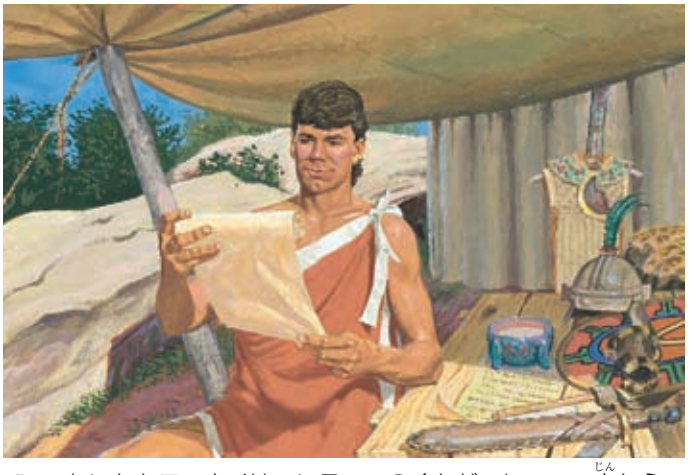
ヒラマンのぐんは，レーマン人となんどもたたかいましたが，このわかものたちは，ヒラマンのごうれいをぜんぶまもりました。（アルマ57：19−21）

ヒラマンのぐんは，ゆうかんにたたかって，てきをおいかえしました。ヒラマンが見ると，わかものたちは一人のこらずけがをしていましたが，しんだものは一人もいませんでした。（アルマ57：22，25）

これはきせきです。ヒラマンは，とてもよろこびました。わかものたちが，神への強いしんこうによってまもられたことを知ったからです。（アルマ57：26−27）

しれいかんモロナイとパホーラン

だい35しょう



しれいかんモロナイは，ヒラマンのぐんが，レーマン人からニーファイ人の土地をとりかえしたことを知って，大いによろこびました。（アルマ59：1）

しかし，ヒラマンのぐんは，こまっていました。多くの町をまもるためには，へいしの数が足りないのです。（アルマ58：32）

しれいかんモロナイは，大さばきつかさであり，国のそうとくであるパホーランに手紙を書いて，ヒラマンのぐんにもっとへいしをおくってほしいとたのみました。（アルマ59：3）

レーマン人のぐんは，ヒラマンがとりかえした町をせめました。そして，多くのニーファイ人をころし，生きのこった人たちを町からおい出しました。（アルマ59：5–8）

へいしをおくらなかったせいふにはらを立てたモロナイは，パホーランにもういちど，手紙を書きました。（アルマ59：13；60：1）

「えんぐんがおくられなかったおかげで，多くのものがつるぎにたおれました。」（アルマ60：5）

「すぐにもへいしとしょくもつをおくってくれないのであれば，わたしはわたしのぐんを出し，力づくでもたすけをえるとしよう。」（アルマ60：34−35）

すると，すぐにパホーランからへんじが来ました。「あなたがたがくろうしていることは，とてもかなしく思っている。」（アルマ61：1−2）

「しかし，わたしが大さばきつかさであることをのぞまない王せいとうのわるいニーファイ人がいて，わたしやじゆうとうの人びとをゼラヘムラから力ずくでおい出してしまったのです。」（アルマ61：3−5）

そして，ゼラヘムラをとりかえすために，ぐんをあつめているとも書いてありました。（アルマ61：6−7）

王せいとうの人たちは，王を立てて，レーマン人と手を組んでいました。（アルマ61：8）

パホーランは，モロナイの手紙にはらは立てませんでした。ニーファイ人のじゆうをのぞんだのです。（アルマ61：9）

パホーランはモロナイにたのみました。「少しばかりのへいをつれて来てほしい。とちゅう，さらに多くのへいをあつめて来てくれるなら，ゼラヘムラはとりかえすことができる。」（アルマ61：15−18）

モロナイはよろこびました。パホーランは今までとかわりなく，国にちゅうじつで，たみのじゆうをのぞんでいたからです。（アルマ62：1）

モロナイは少しのへいをつれて，パホーランに会いに行きました。じゆうのはたを立ててすすみました。とちゅう，何千人という人びとがくわわりました。（アルマ62：3−5）

モロナイとパホーランのぐんは，ゼラヘムラ目ざしてすすみました。そして，むほんをおこしたニーファイ人たちの王をころし，王のへいをとらえました。（アルマ62：7−8）

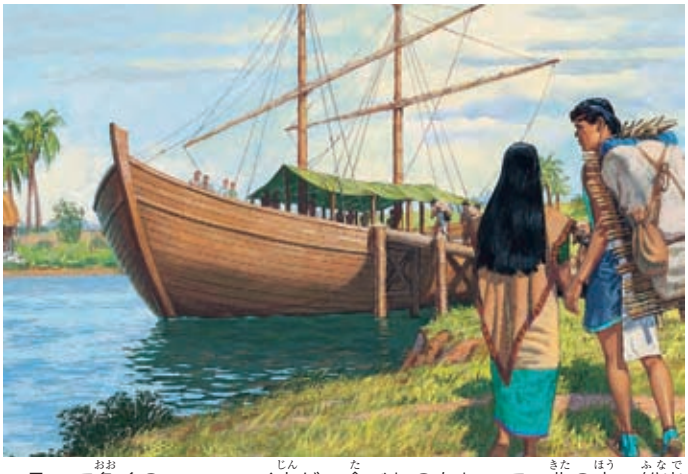
モロナイはニーファイ人のぐんに，食べものと12,000人のへいしをおくりました。たすけをうけたニーファイ人のぐんは，レーマン人をおいはらいました。こうして，また国はへいわになりました。（アルマ62：12−13，38−42）

ハゴス

だい36しょう

イエス・キリストがお生まれになるやく55年前，何千人ものニーファイ人の男と女，子どもたちが，ゼラヘムラをさって，北の地へうつりました。（アルマ63：4）

その中にハゴスという人がいて，大きな船をつくり，西の海にうかべました。（アルマ63：5）



そこで多くのニーファイ人が，食べものをもって，北の方へ船出しました。（アルマ63：6）

ハゴスは，人びとを北の方へはこぶためにさらに何せきかの船をつくりました。さいしょにつくった船が帰って来ると，また多くの人を船にのせ，またしゅっぱつしました。（アルマ63：7）

もう1せきもみなとを出ましたが，どの船も帰って来ませんでした。何がおこったのか，ニーファイ人たちには分かりませんでした。（アルマ63：8）

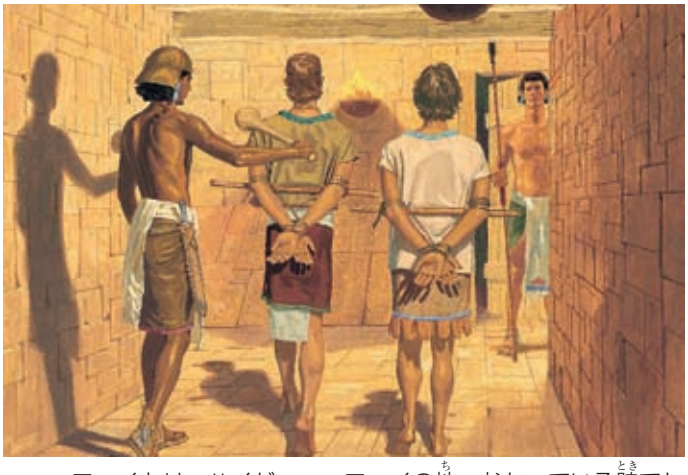
ろうやに入れられた ニーファイとリーハイ

だい37しょう

ニーファイとリーハイはヒラマンのむすこです。ヒラマンはエルサレムからやって来たリーハイとニーファイのように，正しい人になってほしいと思ったのです。（ヒラマン5：4－7）

ヒラマンはむすこたちに，イエス・キリストをしんじるように教えました。二人は，しんこうとくいあらためを通してつみがゆるされることを学びました。（ヒラマン5：9－12）

二人はニーファイ人とレーマン人に，神のことばを教えに出て行きました。そして何千人もの人がバプテスマをうけました。（ヒラマン5：14－19）



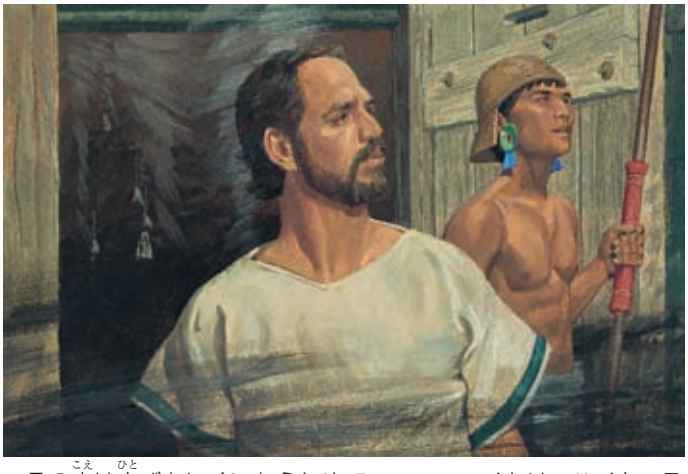
ニーファイとリーハイが，ニーファイの地へむかっている時でした。二人はレーマン人のぐんたいにとらえられ，ろうやに入れられ，何日も食べものをあたえられませんでした。（ヒラマン5：20－22）

レーマン人たちが二人をころそうとやって来たところ，二人は手を出そうとする人をやきほろぼしてしまいそうな火のようなものにつつまれていました。そのために，レーマン人たちは二人をころすことができませんでした。（ヒラマン5：22－23）

ところが，ニーファイとリーハイはやかれませんでした。二人はレーマン人たちに，自分たちが神の力によってまもられていることを話しました。（ヒラマン5：24−26）

すると，じめんがゆれ，ろうやのかべがゆれうごきました。ろうやの中にいたものたちは，あんこくの雲にかこまれたので，おそろしくなりました。（ヒラマン5：27−28）

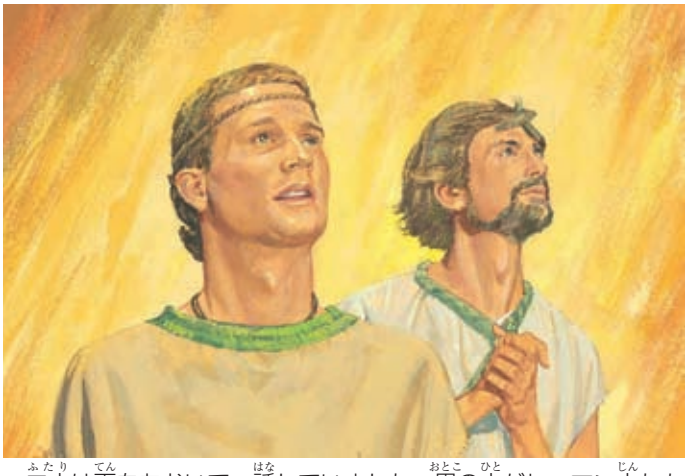
その時，あんこくの雲の上の方から声がしました。それはささやくような，しずかな声でしたが，すべての人はこの声を聞きました。（ヒラマン5：29−30）



その声は人びとにくいあらためて，ニーファイとリーハイをころさないように言いました。（ヒラマン5：29−30）

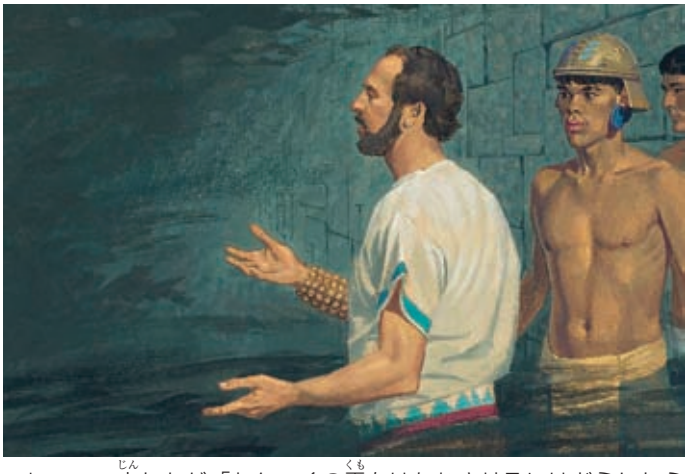
3ど目に声がした時，またじめんがゆれ，かべがゆれうごきました。レーマン人たちは，あまりのくらさとおそろしさで，にげることができませんでした。（ヒラマン5：33−34）

前に教会いんだったニーファイ人が，あんこくの雲を通して見ると，ニーファイとリーハイの顔がかがやいていました。（ヒラマン5：35−36）



二人は天をあおいで，話していました。男の人がレーマン人たちにそのようすを見るように言いました。レーマン人たちは，二人はだれと話しているのだろうと思いました。（ヒラマン5：36－38）

そこでアミナダブというその男は，「二人はてんしたちと話している」と言いました。（ヒラマン5：39）

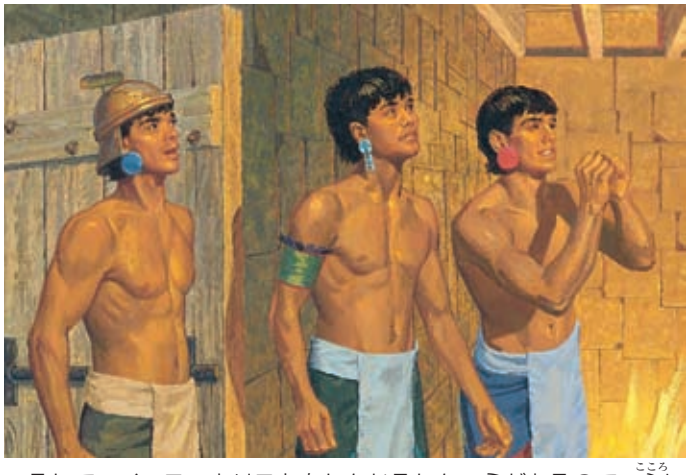


レーマン人たちが「あんこくの雲をはなれさせるにはどうしたらいいか」と聞くと，アミナダブは答えました。「くいあらためて，イエス・キリストをしんじるしんこうをもてるまで，神にいのらなくてはならない。」（ヒラマン5：40－41）

レーマン人たちは，あんこくの雲がきえさるまでいのりつづけました。（ヒラマン5：42）

あんこくの雲がきえると，こんどはみんなが火のはしらにとりまかれていました。火はかれらも，ろうやのかべもやきませんでした。（ヒラマン5：43－44）

レーマン人たちは，大きなよろこびをかんじました。かれらの心は，神のみたまにみたされました。（ヒラマン5：44－45）



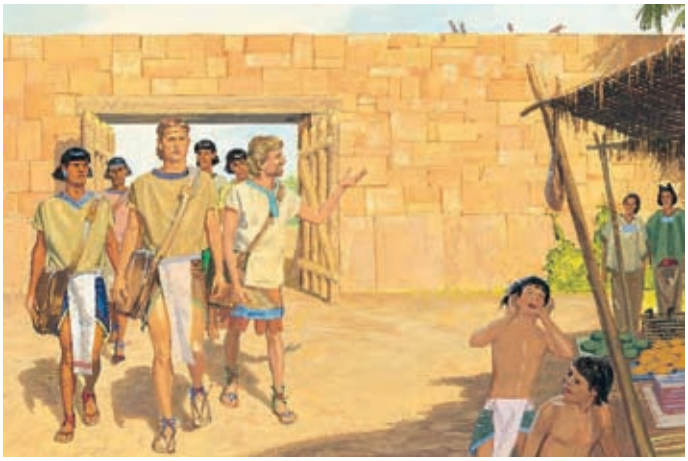
そして，イエス・キリストをしんじるしんこうがあるので，心にへいあんがあるでしょうと言うささやくような声が聞こえました。（ヒラマン5：46−47）

レーマン人たちは，その声のする方を見上げました。すると，てんしたちが天からくだって来ていました。（ヒラマン5：48）

これらのことを見聞きしたものは，およそ300人いました。かれらは，自分たちが見聞きしたことを人びとにつたえるために出て行きました。（ヒラマン5：49−50）

大半のレーマン人は，このことをしんじて，ぶきをなげすてました。（ヒラマン5：50−51）

そして，ニーファイ人へのにくしみをすてて，ニーファイ人からうばった土地をかえしました。こうしてレーマン人は，ニーファイ人にもまさって正しい人となりました。（ヒラマン5：50，52）



多くのレーマン人が，ニーファイやリーハイとともに，ニーファイ人に教えをときました。（ヒラマン6：1，6−7）

大さばきつかさ，ころされる

だい38しょう

わるい人たちがニーファイ人のさばきつかさになると，正しい人をいためつけて，あくにんをばっしませんでした。（ヒラマン7：4−5）

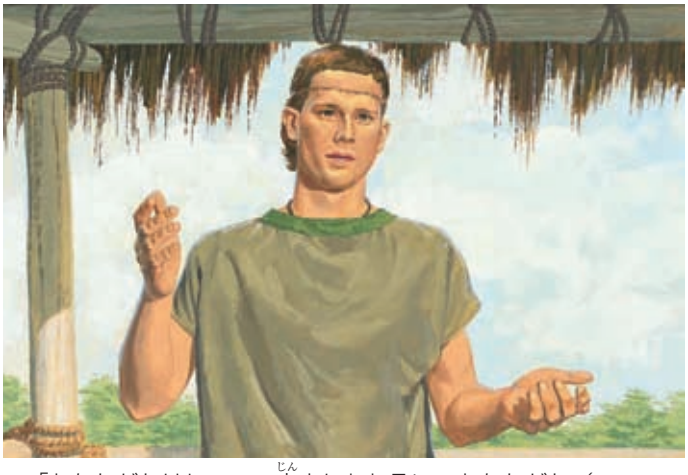
ニーファイは，そのようなたみのひどいあくじを見て，かなしみでむねがいっぱいになりました。（ヒラマン7：6−7）

ニーファイのにわは，ゼラヘムラで一番大きな市場へ通じている大通りのそばにありました。ある日，ニーファイはにわにあるとうに上って，いのりました。（ヒラマン7：10）

通りかかった人びとは，ニーファイのいのりを耳にしました。ニーファイがそんなにかなしんでいるわけを知ろうとして，おおぜいの人があつまって来ました。（ヒラマン7：11）

ニーファイはその人たちを見ると，言いました。「あなたがたのわるい行いのために，わたしはかなしんでいるのだ。くいあらためなさい。」（ヒラマン7：12−14，17）

「くいあらためなければ，家も町もなくなるであろう。主は，てきとたたかう力をあなたがたにあたえてはくださらない。」（ヒラマン7：22）



「あなたがたはレーマン人よりもわるい。あなたがた（ニーファイ人）はいましめを知りながら，それをまもろうとしないからである。」（ヒラマン7：24）

「あなたがたはくいあらためなければ，ほろぼされるであろう。」（ヒラマン7：28）

その場には，わるいさばきつかさもいました。この人たちは，自分たちやほうりつをひなんするニーファイを，たみにとらえてほしいと思いました。（ヒラマン8：1−4）

わるいさばきつかさたちにみかたする人もいましたが，ニーファイをしんじる人もいました。その人たちは，ニーファイがよげんしゃであり，本当のことを話していると分かっていました。（ヒラマン8：7−9）

ニーファイは言いました。「あなたがたは神にそむいてきた。くいあらためなければ，間もなくばっせられるであろう。」（ヒラマン8：25−26）

ニーファイは，さばきつかさをさがすように言いました。「あなたがたのさばきつかさは，ちにそまってたおれている。さばきつかさのちいをねらう兄弟にころされたのだ。」（ヒラマン8：27）

5人のものが，たしかめに走って行きました。5人は，ニーファイを神のよげんしゃとしんじていませんでした。(ヒラマン9：1−2)

大さばきつかさのセゾーラムが，ちにそまってたおれているのを見て，5人はこわくなり，じめんにたおれてしまいました。ニーファイがよげんしゃだと分かったのです。（ヒラマン9：3−5）

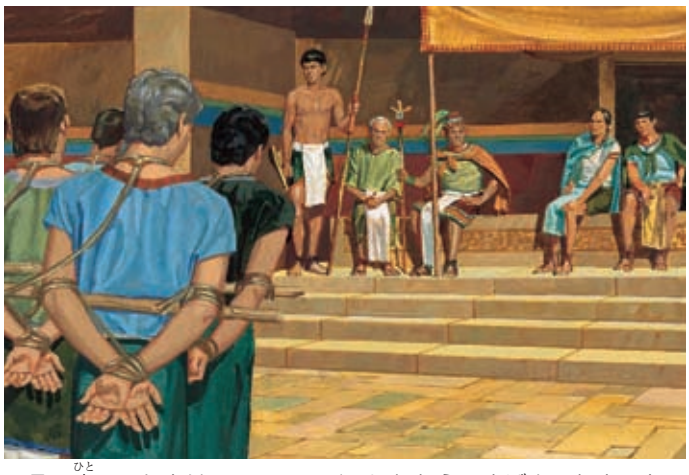
セゾーラムのじゅうしゃたちは，それよりも前に，セゾーラムがころされたことを知って，人びとに知らせに出ていました。じゅうしゃたちがもどってみると，5人がたおれていました。（ヒラマン9：6−7）

人びとは，この5人がセゾーラムをころしたものと思いました。（ヒラマン9：8）

そして，5人をろうやに入れると，大さばきつかさがころされ，人ごろしがろうやに入れられたという知らせを町中に出しました。（ヒラマン9：9）

つぎの日，人びとは，大さばきつかさのまいそうにあつまりました。ニーファイのにわにいたさばきつかさたちが，あの5人はどこにいるのだろうかとたずねました。（ヒラマン9：10－12）

そして，さばきつかさたちはとらわれている人ごろしに会わせてくれるようにもとめました。（ヒラマン9：13）



その人ごろしとは，ニーファイのにわから，さばきつかさのところへ走って行った5人でした。（ヒラマン9：13）

5人がニーファイの言ったとおりだったと話すと，さばきつかさたちは，ニーファイがだれかにセゾーラムをころさせたにちがいない，と言いました。（ヒラマン9：15－16）

5人は，ニーファイがよげんしゃであると分かっていたので，さばきつかさたちにはんたいしました。しかし，さばきつかさたちは耳をかさず，ニーファイをしばりました。（ヒラマン9：18－19）

そして，ニーファイに言いました。「もしおまえが大さばきつかさごろしのくわだてをみとめるなら，金をやる。いのちもゆるしてやろう。」（ヒラマン9：20－21）

ニーファイはさばきつかさたちに，わるい行いをくいあらためるように言いました。そして，セゾーラムの兄弟のセアンタムの家に行くように言いました。（ヒラマン9：22，26）

それから，こう言いました。「あなたはニーファイとたくらんで，セゾーラムをころしたのかとたずねなさい。セアンタムは，そうではないと言うであろう。」（ヒラマン9：27−28）

「それではあなたがころしたのかとたずねなさい。セアンタムはまたも，そうではないと言うであろう。しかし，セアンタムのうわぎにちがついているのを見るであろう。」（ヒラマン9：29−31）

「セアンタムは，青ざめてふるえ出し，つみをみとめるだろう。」（ヒラマン9：33−35）

さばきつかさたちはセアンタムの家に行きました。何もかもニーファイの言ったとおりでした。こうして，ニーファイと5人のものは，じゆうのみとなりました。（ヒラマン9：37−38）

あるものはニーファイはよげんしゃであると言い，あるものは神だと言いながら，さって行きました。ニーファイは，たみのわるい行いをなげきながら帰りました。（ヒラマン9：40−41；10：2−3）

ニーファイ，大きな力をさずかる

だい39しょう

ニーファイは，主が自分にしめしてくださったことと，ニーファイ人のわるい行いのことをふかく考えながら，ひどくしずんだきもちで家にむかっていました。（ヒラマン10：1－3）

すると主の声が聞こえて，ニーファイが主にしたがい，ふくいんをこんきよく教えてきたことを，おほめになりました。（ヒラマン10：4）

主はニーファイに，すべてを行う力をおさずけになりました。ニーファイがその力を正しくつかうことを，知っておられたからです。（ヒラマン10：5）

主はニーファイに，たみにこうつげなさいと言われました。「あなたがたは，くいあらためなければ，ほろびる」と。ニーファイは，すぐに行って，主のことばをたみにつげました。（ヒラマン10：11－12）

ところが，ニーファイ人は耳をかさず，ニーファイをろうやに入れようとしました。しかし，ニーファイは神の力のおかげで，まもられました。（ヒラマン10：15－16）

ニーファイはすべてのたみに，神のことばをつたえました。（ヒラマン10：17）

それでも，人びとはますますわるくなっていきました。そして国中にあらそいがおこりました。（ヒラマン11：1）

ニーファイは，ききんがおこるようにいのりました。食べものがなくなったら，たみもけんそんになって，くいあらためるだろうと思ったのです。（ヒラマン11：3−4）

すると，ききんがおこりました。雨がふらないので，じめんはすっかりかわいて，こくもつもそだちません。人びとは，たたかいをやめました。（ヒラマン11：5−6）

人びとはうえて，たくさんの人がしんでいきました。生きのこった人びとは，ようやく主とニーファイのことばを，思いおこすようになりました。（ヒラマン11：6−7）

人びとは，つみをくいあらため，大さばきつかさたちを通じてニーファイにたのみました。「ききんがおわるようにいのってください。」さばきつかさたちは，ニーファイのところへ行きました。（ヒラマン11：8−9）

ニーファイは，人びとがけんそんになり，くいあらためたのを見て，主に，ききんをおわらせてくださるように，いのりました。（ヒラマン11：9−12）

主は，ニーファイのいのりをお聞きになりました。そして，ふたたび，雨がふり，くだものやこくもつが，そだつようになりました。人びとは神をあがめ，ニーファイをいだいなよげんしゃとして，そんけいしました。（ヒラマン11：17−18）

ほとんどのニーファイ人が教会に入りました。人びとはゆたかになり，町まちはさかえました。国はへいわでした。（ヒラマン11：20−21）

さて，先にレーマン人にくわわったニーファイ人が，ニーファイ人にたたかいをいどんできました。（ヒラマン11：24）

ニーファイ人は，このてき，つまりガデアントンのごうとうだんをほろぼそうとしましたができませんでした。自分たちもまたわるくなっていたからです。（ヒラマン11：26，28−29）

ニーファイ人が正しくなると，主はたみをしゅくふくされました。また，ニーファイ人がこうまんになり主をわすれると，主は，ご自分を思いおこさせるために，わざわいをおあたえになりました。（ヒラマン12：1−3）

レーマン人サムエル，イエス・キリストについて話す

だい40しょう

レーマン人は，神のいましめをまもったので，ニーファイ人よりも正しいたみになりました。（ヒラマン13：1）

レーマン人のよげんしゃサムエルは，ゼラヘムラの地へ行って，あくじをつづけるニーファイ人に，くいあらためをのべつたえました。（ヒラマン13：2）

けれどもニーファイ人は，サムエルをゼラヘムラからおい出してしまいました。サムエルは，自分の国へかえろうとしました。（ヒラマン13：2）

しかし主は，サムエルに言われました。「ゼラヘムラにもどりなさい。そして，わたしがあなたの心の中にしめすことを，たみに話しなさい。」（ヒラマン13：3）

ニーファイ人は，サムエルを町の中へ入れようとしませんでした。そこでサムエルは，町のじょうへきにのぼって，大声でたみに話しました。（ヒラマン13：4）

「くいあらためて，イエス・キリストをしんじなければ，400年たたないうちに，ニーファイ人はほろびる。」（ヒラマン13：5−6）

「イエス・キリストは，もう5年たつと，お生まれになる。イエスをしんじるすべての人をすくうために来られる。」（ヒラマン14：2）

サムエルは，キリストがお生まれになる時のしるしについても話しました。新しい星があらわれ，イエスがお生まれになる前の夜はくらくならないとよげんしました。（ヒラマン14：3−5）

それからサムエルは，イエスのしのしるしについても話しました。「その時には3日の間，まったく光がない。たいようも，月も，星もかがやかない。」（ヒラマン14：20）

「また，かみなりと，いなずまと，じしんがある。山がくずれ，多くの町があれはてる。」（ヒラマン14：21−24）

サムエルのことばをしんじたニーファイ人は，つみをくいあらため，ニーファイをさがしに行きました。正しいニーファイ人であるかれからバプテスマをうけるためです。（ヒラマン16：1）

しかし，サムエルのことばをしんじない人もいました。その人たちは，サムエルに石をなげつけたり，矢をいかけたりしました。しかし，主がサムエルをまもられたので，石も矢も当たりませんでした。（ヒラマン16：2）

当てることができないのを見て，さらに多くの人がサムエルのことばをしんじました。そして，バプテスマをうけるために，ニーファイのもとへ行きました。（ヒラマン16：3）

ニーファイは，イエスについても教えました。それは，たみにイエスをしんじて，くいあらため，バプテスマをうけてほしかったからです。（ヒラマン16：4−5）

しかし，たみの大半は，サムエルのことばをしんじませんでした。そして，サムエルをとらえようとしました。（ヒラマン16：6）

サムエルは，じょうへきからとびおりて，自分の国へ帰って行きました。（ヒラマン16：7）

そして，自分のたみに教えはじめました。それいらい，サムエルがニーファイ人をおとずれたという話はいちどもありません。（ヒラマン16：7−8）

キリストのたんじょうのしるし

だい41しょう

ヒラマンのむすこニーファイは，しんせいなきろくとせいぶんを，むすこのニーファイにゆだねました。（3ニーファイ1：2）

ニーファイ人は，大きなしるしときせきを目にしました。それは，イエス・キリストがお生まれになる前におこると，よげんされていたことでした。（3ニーファイ1：4）

しかし，キリストが生まれる時はすぎさった，と言うニーファイ人もいました。その人たちは，レーマン人サムエルのよげんをしんじる人びとを，あざわらいました。（3ニーファイ1：5―6）

そこで，イエス・キリストやよげんしゃをしんじていた人びとは，何らかのりゆうで，よげんされたことがおきないのではないかと思い，がっかりしました。（3ニーファイ1：7）

それでも，人びとは，くらやみのない夜が来るのを，しんこう強くまちのぞみました。そのしるしは，イエス・キリストがお生まれになったことを，つげるものでした。（3ニーファイ1：8）

イエス・キリストをしんじないものたちは，日をきめて，しるしがその日までにあらわれなかったら，しんじているすべての人をころすことにしました。（3ニーファイ1：9）

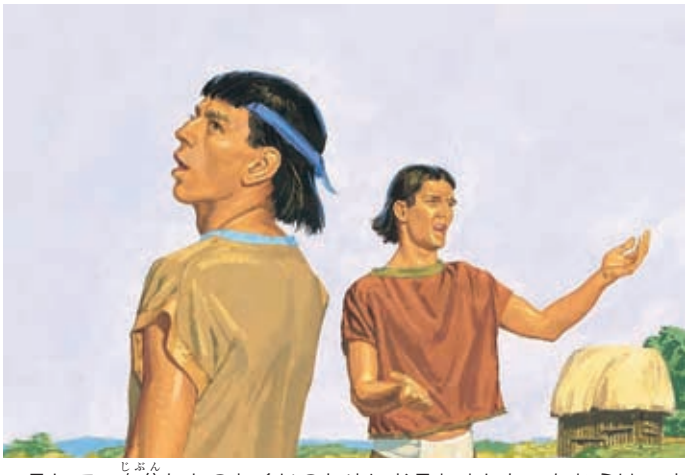
ニーファイは，すくいぬしをしんじない人びとのあくじを見て，とてもかなしくなりました。（3ニーファイ1：10）

ニーファイは，ころされようとしている人びとのために，一日中いのりました。（3ニーファイ1：11—12）

主はニーファイをおなぐさめになり，こう言われました。「今夜は，くらくならない。明日わたしは，ベツレヘムに生まれる。」（3ニーファイ1：13）

その夜は，たいようがしずんでも，少しもくらくなりませんでした。イエス・キリストのたんじょうのしるしがあらわれたのです。人びとは，おどろきました。（3ニーファイ1：15）

よげんをしんじる人びとをころそうと思っていたものたちは，地にたおれ，まるでしんだようになりました。（3ニーファイ1：16）



そして，自分たちのあくじのためにおそれました。かれらは，すくいぬしがお生まれになることと，よげんしゃたちのことばが，本当だったことを知りました。（3ニーファイ1：17―18）

その夜は，ひとばん中，くらくなりませんでした。つぎの朝，たいようがのぼると，人びとは，その日にイエス・キリストがお生まれになったことを知りました。よげんされたことが，本当におこったのです。（3ニーファイ1：19―20）

そして，よげんしゃの言ったとおりに，空には新しい星もあらわれました。（3ニーファイ1：21）

サタンは，見たしるしを人びとにしんじさせまいとしました。しかし，ほとんどのたみはしんじました。（3ニーファイ1：22）

ニーファイと，そのほかの教会のしどうしゃたちは，しんじて，くいあらためたすべての人に，バプテスマをさずけました。（3ニーファイ1：23）

このようにして，よげんしゃたちのことばのとおりに，イエス・キリストがお生まれになり，国中に，よろこびのおとずれが，もたらされました。（3ニーファイ1：26）

キリストのしるし

だい42しょう

イエス・キリストのたんじょうのしるしがあらわれてから，33年がすぎました。（3ニーファイ8：2）

人びとは，キリストのしるしである，3日間のくらやみがあらわれるのをまっていました。（3ニーファイ8：3）

しるしをしんじない人びとは，しんじる人びとと言いあらそいました。（3ニーファイ8：4）

ある日，大きなあらしがおこり，すさまじい風がふきあれました。（3ニーファイ8：5—6）

また，いなずまが光り，かみなりが全地をゆりうごかしました。（3ニーファイ8：6—7）

ゼラヘムラの町は火につつまれ，モロナイの町は海にしずみました。モロナイハの町は，地の中にうまってしまいました。（3ニーファイ8：8—10）

じしんが全地をゆりうごかしました。どうろやたてものもこわれました。多くの町がはかいされ，たくさんの人がしにました。（3ニーファイ8：13—15）

あらしと，じしんは，3時間ほどつづきました。（3ニーファイ8：19）

あらしと，じしんがやむと，ふかいくらやみが地をおおいました。まったく光がなく，人がふれると，かんじることができるほどでした。（3ニーファイ8：19—20）

まっくらやみは，3日間つづきました。人びとは，ろうそくをともすこともできず，たいようも，月も，星も見えませんでした。（3ニーファイ8：21—23）

そして，くらやみと，はかいと，しのために，人びとは声を上げてなきました。つみをくいあらためておけばよかったと，こうかいしました。（3ニーファイ8：23—25）

すると，人びとはイエス・キリストの声を聞きました。（3ニーファイ9：1，15）

イエスは，この地におこった，ひどいはかいについて，お話しになりました。そして，一番わるい人たちがほろぼされたと，言われました。（3ニーファイ9：12—13）

それから，生きのこった人びとに言われました。「くいあらためなさい。くいあらためて，わたしのもとに来るものはさいわいである。」（3ニーファイ9：13—14）

それを聞いて人びとは，びっくりして，なくのをやめました。そのために，全地は何時間もしずかでした。（3ニーファイ10：1—2）

イエスは，もういちどおっしゃいました。「わたしは，あなたがたをなんどもたすけようとしてきた。あなたがたがくいあらためるならば，まだわたしに立ちかえることができる。」（3ニーファイ10：3—6）

3日たって，くらやみはきえさりました。人びとは，なくのをやめてよろこび，すくいぬしにかんしゃしました。（3ニーファイ10：9—10）

ニーファイ人にみすがたをあらわされたイエス

だい43しょう

おぜいのニーファイ人が，バウンティフルのしんでんにあつまりました。人びとは，かくちにおこった大きなへんかにおどろいていました。（3ニーファイ11：1）

人びとは，イエスのことや，そのしるしについて語り合っていました。（3ニーファイ11：2）

その時，天から小さな声が聞こえました。その声を聞いて，人びとは，心がもえ上がるのをかんじ，みをふるわせました。（3ニーファイ11：3）

はじめは，その声が何を言っているのか，分かりませんでした。その声が3ど目に語った時，やっと分かりました。（3ニーファイ11：4—6）

天父の声でした。「わたしのあいする子を見なさい。わたしの心にかなうものである。……かれに聞きなさい。」（3ニーファイ11：7）

天からイエス・キリストが，くだって来られ，人びとの中にお立ちになりました。これから何がおこるのか分からなかったので，人びとは口をひらこうとはしませんでした。人びとはイエスをてんしだと思っていたのです。（3ニーファイ11：8）

そこで，そのお方は，こうおっしゃいました。「見よ，わたしはイエス・キリストであり，よに来るとよげんしゃたちがあかししたものである。」（3ニーファイ11：10）

「わたしのそばへ来て，わたしのわきに手をさし入れ，手足のくぎあとに，さわってごらんなさい。」（3ニーファイ11：14）

イエスは，ご自分がかれらの神であり，すべての人のつみのためにしんだことを，人びとに知らせたいと思われたのです。（3ニーファイ11：14）

人びとは，一人ずつ，イエスのわきに手をさし入れ，手足のくぎあとにさわりました。そして，イエスが，すくいぬしであられることを，知りました。（3ニーファイ11：15）

人びとは，イエスをほめたたえました。そして，イエスの足元にふして，イエスをれいはいしました。（3ニーファイ11：17）

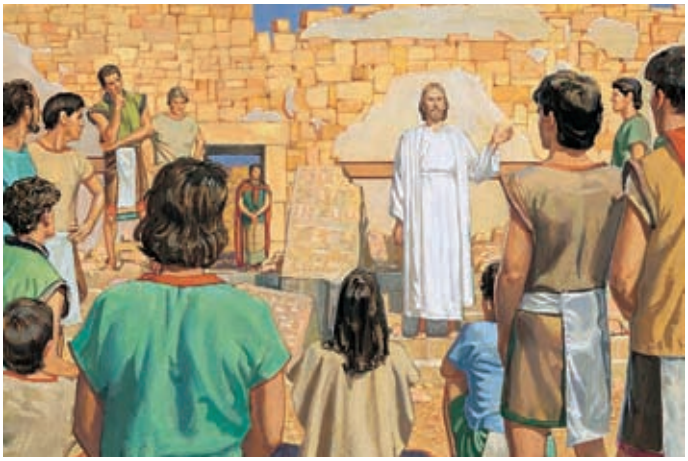
イエスは，ニーファイたち12人をめして，しんけんの力をさずけ，バプテスマの正しいほうほうをお教えになりました。（3ニーファイ11：18，21—26；12：1）

イエスは，ニーファイ人におっしゃいました。「わたしをしんじ，くいあらためて，いましめをまもりなさい。そうしなければ，天の王国には入れないであろう。」（3ニーファイ12：19—20）

それから，天父へのおいのりのしかたや，だんじきについて，お教えになりました。また，たがいにゆるし合うなら，天父からゆるしをうけられるともおっしゃいました。（3ニーファイ13：6—18）

ほかにもたくさんのことをお教えになってから，イエスは，おっしゃいました。「自分の家に帰って，わたしが話したことについてよく考え，いのりなさい。」（3ニーファイ17：1—3）

人びとの目から，なみだがこぼれました。イエスに，とどまっていてほしかったのです。（3ニーファイ17：5）



イエスは，ニーファイ人たちをあいしていたので，おっしゃいました。「びょうきの人，体のふじゆうな人をつれて来なさい。いやしてあげよう。」（3ニーファイ17：7）

イエスは，その人たちをおいやしになりました。そこで，人びとはみな，ぬかずいて，イエスをれいはいしました。（3ニーファイ17：9—10）

イエス・キリスト，子どもたちをしゅくふくされる

だい44しょう

イエス・キリストは，子どもたちを自分のところにつれて来るように言われました。子どもたちは，イエスをかこんで，じめんにすわりました。（3ニーファイ17：11—12）

すくいぬしは人びとに，じめんにひざまずくようにおっしゃいました。そして，ひざまずいて，天父にいのられました。（3ニーファイ17：13，15）

すくいぬしのおいのりは，とても書きあらわすことのできないほど，すばらしいものでした。イエスのおいのりを聞いていると，人びとの心はよろこびでいっぱいになりました。（3ニーファイ17：15—17）

イエスは，いのりおえると，おっしゃいました。「あなたがたはしんこうがあるので，さいわいです。」（3ニーファイ17：20）

イエスは，大きなあいとよろこびをかんじて，なみだをながされました。（3ニーファイ17：21）

それから，子どもたちを一人一人だいて，しゅくふくされました。そして，子どもたちのために天父にいのり，またなみだをながされました。（3ニーファイ17：21―22）

イエスは，ニーファイ人におっしゃいました。「あなたがたのおさない子どもたちを見なさい。」（3ニーファイ17：23）

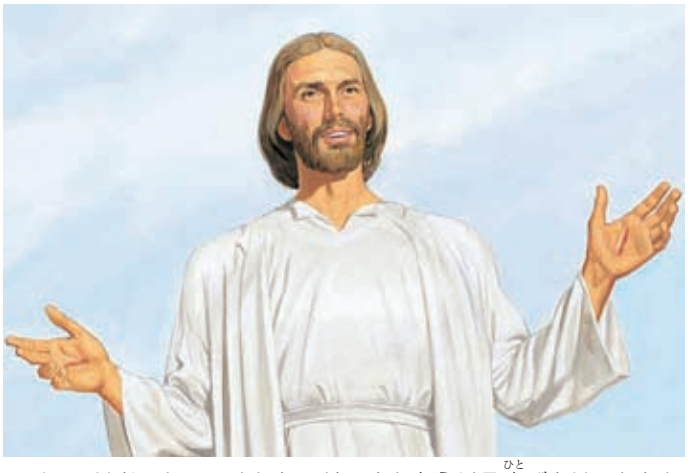
人びとが見ると，てんしたちがくだって来て，子どもたちをとりかこみました。子どもたちもてんしたちも，火につつまれていました。（3ニーファイ17：24）

イエス・キリスト，せいさんとおいのりについて教えられる

だい45しょう

イエス・キリストはでしたちに，パンとぶどうしゅをとりに行かせられました。そして，ニーファイ人たちにじめんにすわるように言われました。（3ニーファイ18：1―2）

でしたちがもどって来ると，すくいぬしはパンをさいて，しゅくふくし，でしたちにあたえられました。それからでしたちにめいじて，人びとにもおあたえになりました。（3ニーファイ18：3―4）



イエスはおっしゃいました。せいさんをうける人びとは，わたしとわたしのはらったぎせいをいつもおぼえるとやくそくします。そうすると，みたまをうけるでしょう（3ニーファイ18：7）

イエスはぶどうしゅをしゅくふくして，でしたちにあたえられました。でしたちは，人びとにもぶどうしゅをあたえました。（3ニーファイ18：8）

「せいさんをうける人びとは，わたしのいましめをまもることをやくそくするのです。」（3ニーファイ18：10）

イエスはふたたび，こうやくそくされました。「せいさんをうけ，いつもわたしをおぼえているならば，わたしのみたまをうけるでしょう。」（3ニーファイ18：11）

「わたしのいましめをまもるならば，あなたがたはさいわいです。」（3ニーファイ18：14）

「つねにいのりなさい。わたしがしたように，あなたがたもいのりなさい。」（3ニーファイ18：15—16）

それからすくいぬしは，ニーファイ人にむかって，言われました。「わたしの名によって天父にいのりなさい。かぞくとともにいのりなさい。」（3ニーファイ18：19，21）

「しばしばともにつどいなさい。来る人はよろこんでむかえなさい。その人たちのためにいのりなさい。よいもはんをしめしなさい。」（3ニーファイ18：22—24）

すくいぬしはでしたちに，せいれいをさずける力をおあたえになりました。その時雲が人びとをおおったので，でしたちだけが，イエス・キリストが天にのぼって行かれるのを見ました。（3ニーファイ18：36—39）

イエス・キリスト，ニーファイ人たちを教え，ともにいのられる

だい46しょう

イエスに会ったたみは，イエスがつぎの日もおいでになることを，友人たちに知らせました。おおぜいの人びとが，けんめいにはたらいて，イエスが来られるばしょにあつまれるようにしました。（3ニーファイ19：2—3）

よく朝，ニーファイと，そのほかのでしたちは，あつまっていたたみを教え，かれらにせいれいがさずけられるようにいのりました。（3ニーファイ19：6—9）

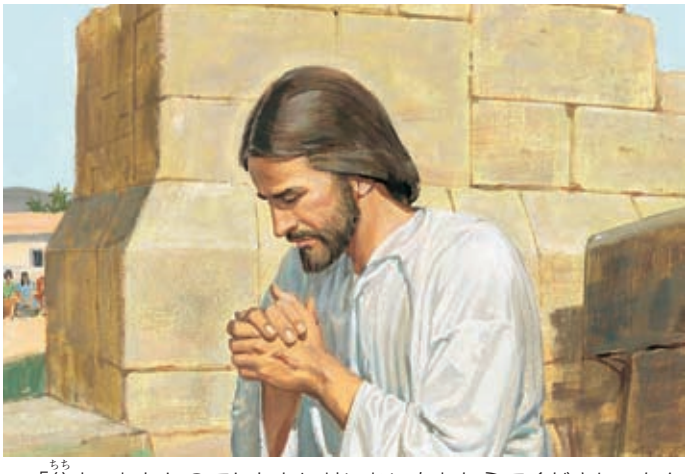
ニーファイは，水の中に入って行って，バプテスマをうけました。それから，ほかのでしたちにバプテスマをほどこしました。（3ニーファイ19：11—12）

バプテスマをうけると，でしたちはせいれいをうけました。そして，火のようなものにつつまれました。また，てんしたちが天からくだって来て，でしたちを教えみちびきました。（3ニーファイ19：13—14）

てんしたちがでしたちとともにいる時，イエスがおいでになり，でしたちの中にお立ちになりました。（3ニーファイ19：15）

キリストはニーファイのたみに，地にひざまずくように言われました。そして，でしたちに，いのるようにめいじられました。（3ニーファイ19：16—17）

でしたちがいのっている間，イエスは，少しはなれたところに行って，地にふし，天父にいのられました。（3ニーファイ18：19—20）

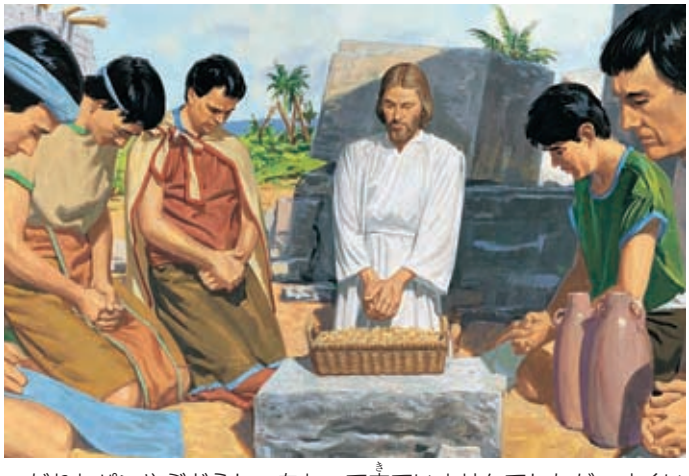


「父よ，わたしのでしたちにせいれいをあたえてくださり，かんしゃいたします。かれらのことばをしんじるものたちにも，せいれいをおあたえください。」（3ニーファイ19：20—21）

でしたちがいのっている間に，イエスはかれらをしゅくふくされました。また，でしたちにほほえみかけられました。でしたちは，イエスの顔ところものように白くなりました。（3ニーファイ19：25）

イエスはふたたび，でしたちのためにいのられました。そして，そのふかいしんこうをおよろこびになりました。（3ニーファイ19：29，35）

キリストは人びとに，いのるのをやめるように，しかし心の中でいのることはやめないようにとめいじられました。そして，ふたたび，せいさんをおあたえになりました。（3ニーファイ20：1—5）



だれもパンやぶどうしゅをもって来ていませんでしたが，すくいぬしはきせきによって，それらをおあたえになりました。（3ニーファイ20：6—7）

イエス・キリストはニーファイのたみに，「わたしのふくいんは，すえの日にかいふくされる」と，言われました。（3ニーファイ21：1，3，7，9）

そして，「せいぶんをしらべなさい」とめいじられました。イエスはニーファイに，レーマン人サムエルのよげんがじょうじゅしたことをきろくするように言われました。（3ニーファイ23：1，9—13）

イエスは，せいぶんからお教えになりました。そして，ご自分がお教えになったことを，たがいに教え合うようにめいじられました。（3ニーファイ23：14）

イエスが天にのぼって行かれた後，でしたちはたみを教えました。しんじるものたちは，バプテスマをうけ，せいれいをさずかりました。（3ニーファイ26：15，17）

こうしてニーファイ人たちは，イエスからめいじられたことを，すべてまもるようになりました。（3ニーファイ26：20）

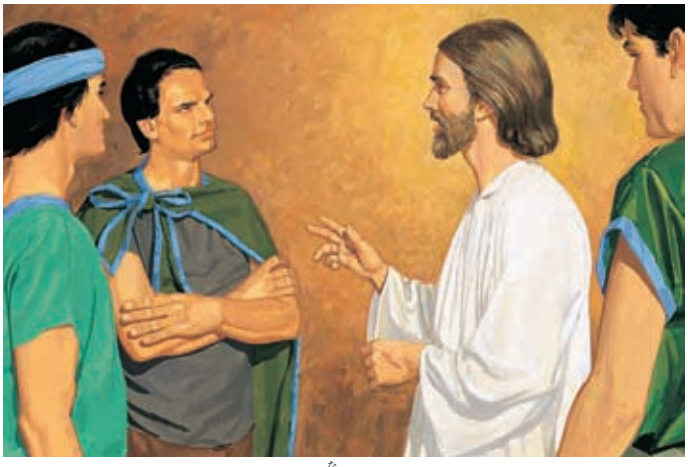
でしたちを しゅくふくされるイエス

だい47しょう

ある日，でしたちがあつまって，だんじきし，いのっていると，イエス・キリストがみすがたをあらわされました。（3ニーファイ27：1—2）

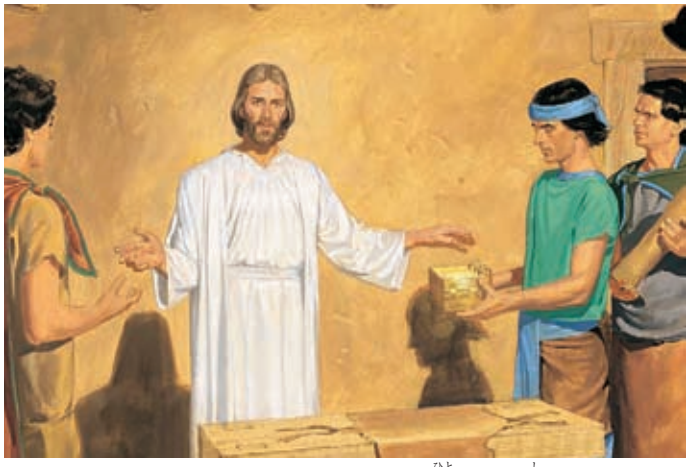
でしたちは，教会にどんな名前をつけたらよいか，たずねました。するとイエスは，「わたしの教会なのだから，わたしの名でよびなさい」とおっしゃいました。（3ニーファイ27：3，7）

そして，でしたちにこうお話しになりました。「天父は，すべての人にいのちをあたえるために，わたしをつかわされました。」（3ニーファイ27：14）



「くいあらためて，わたしの名によってバプテスマをうけ，いましめをまもる人はだれでも，天父の前でつみのないものとされます。」（3ニーファイ27：16）

「わたしがした行いを，あなたがたもしなさい。」すくいぬしはでしたちに，もはんをしめされたのです。（3ニーファイ27：21）



イエスは，こうもおっしゃいました。「人びとが知るように，あなたがたは見たこと，聞いたことを書きしるしなさい。」（3ニーファイ27：23―25）

それから一人一人に，「わたしに何をねがうか」とお聞きになりました。9人は一生をおえたら，イエスとともにいたいとねがいました。（3ニーファイ28：1―2）

そこで，イエスは9人に「あなたがたは72才になったら，天国のわたしのもとに来るでしょう」と言われました。（3ニーファイ28：3）

ほかの3人は，思い切って言えないでいましたが，イエスにはその思いが分かっておられました。3人はイエスのさいりんまで，生き長らえて，人びとにふくいんをつたえたいと思っていたのです。（3ニーファイ28：5―6，9）

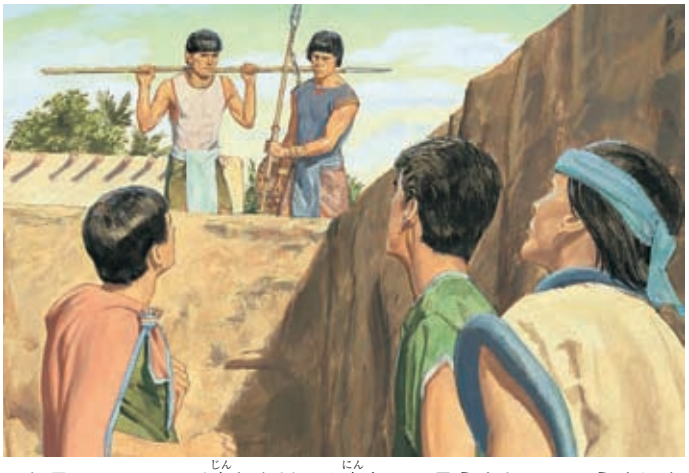
すくいぬしは，3人に言われました。「あなたがたはくるしみも，しをあじわうこともありません。わたしがもどって来るまで，ふくいんをつたえるでしょう。」（3ニーファイ28：7―9）

イエスは，とどまることになった3人をのぞいて，ほかのぜんいんにゆびでふれ，それからさって行かれました。（3ニーファイ28：12）

3人のでしたちは，天に引き上げられて，たくさんのすばらしいことを，見たり聞いたりしました。神についてのことをよくりかいできるようになりました。（3ニーファイ28：13，15）

3人の体は，しなないようにかえられました。（3ニーファイ28：15）

3人は地上にもどって来ると，教えをとき，バプテスマをほどこしはじめました。（3ニーファイ28：16，18）



わるいニーファイ人たちは，3人をころそうとして，ろうやにとじこめたり，ふかいあなの中になげこんだりしました。けれども，3人は，神の力によってすくわれました。（3ニーファイ28：19—20）

もえるろの中や，もうじゅうのあなの中になげこまれた時も，神の力によってまもられました。（3ニーファイ28：21—22）

3人はニーファイ人に，イエス・キリストのふくいんをときつづけました。今も，ほかの人びとにふくいんをのべつたえています。（3ニーファイ28：23，27—29）

キリスト，アメリカたいりくに みすがたをあらわされる

4 イエス・キリスト，アメリカたいりくの人びとに みすがたをあらわされる。

1 イエス・キリストのたんじょう。

2 イエス・キリストのし。

3 イエス・キリストのふっかつ。

へいわなアメリカ

だい48しょう

イエスが天にお帰りになってから，でしたちは，国中に教会をせつりつしました。（4ニーファイ1：1）

つみをくいあらためた人は，バプテスマをうけ，せいれいをうけました。（4ニーファイ1：1）

間もなく，すべてのニーファイ人とレーマン人が教会に入りました。人びとの中には，まったくあらそいがなく，みんなが正直でした。（4ニーファイ1：2）

とめるものも，まずしいものもいません。みんなのもとめるものが手に入るように，分け合ったのです。（4ニーファイ1：3）

でしたちは，イエス・キリストの名によって，たくさんのきせきを行いました。びょうきの人をいやし，ししゃをよみがえらせました。（4ニーファイ1：5）

人びとは，前にこわされた町のあったところに，新しい町をきずきました。（4ニーファイ1：7）

神のいましめにしたがい，だんじきと，いのりをささげました。また，神のことばを聞くために，しばしばあつまりました。（4ニーファイ1：12）

ごうとうも，うそつきも，人ごろしもいません。ニーファイ人やレーマン人に分かれることなく，みんな一つの，キリストの子どもでした。（4ニーファイ1：16―17）

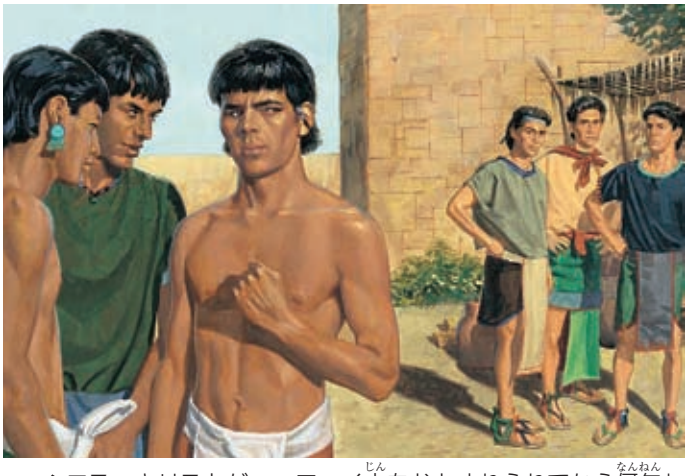
主は，人びとが行うすべてのことについて，かれらをしゅくふくされました。（4ニーファイ1：18）

200年間，国はへいわでした。人びとは，とてもゆたかになりました。（4ニーファイ1：22―23）

人びとはしあわせでした。（4ニーファイ1：16）

モルモンとその教え

だい49しょう



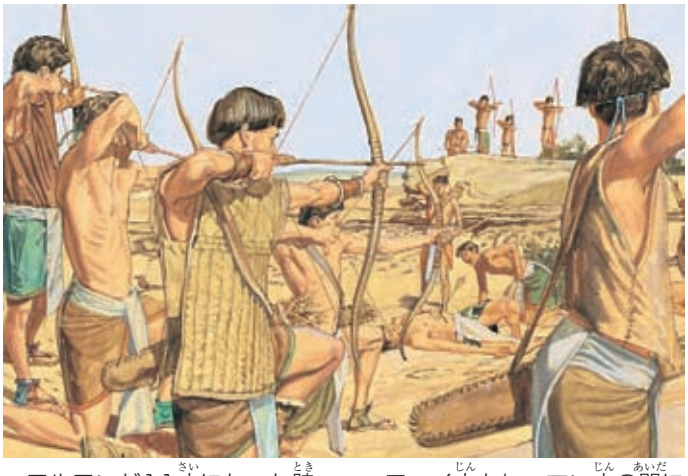
イエス・キリストがニーファイ人をおとずれられてから何年もたつと，教会をはなれ，みずからレーマン人と名のるものたちが出てきました。（4ニーファイ1：20）

そして，ついには，ニーファイ人もレーマン人も，ほとんどのたみが，ひじょうにわるくなりました。（4ニーファイ1：45）

正しい人アマロンは，しんせいなきろくをもっていました。せいれいはアマロンに，そのきろくをかくして，まもるようにとおつげになりました。（4ニーファイ1：48—49）

アマロンは，10才の少年であったモルモンがしんらいできる子だと知って，きろくをかくしてあるばしょを教えました。（モルモン1：2—3）

モルモンは24才になったら，ニーファイのはんをとり出して，それにたみのことを書くように言われました。（モルモン1：3—4）



モルモンが11才になった時，ニーファイ人とレーマン人の間にたたかいがおこりました。ニーファイ人はレーマン人をうちまかして，ふたたびへいわになりました。（モルモン1：6，8—12）

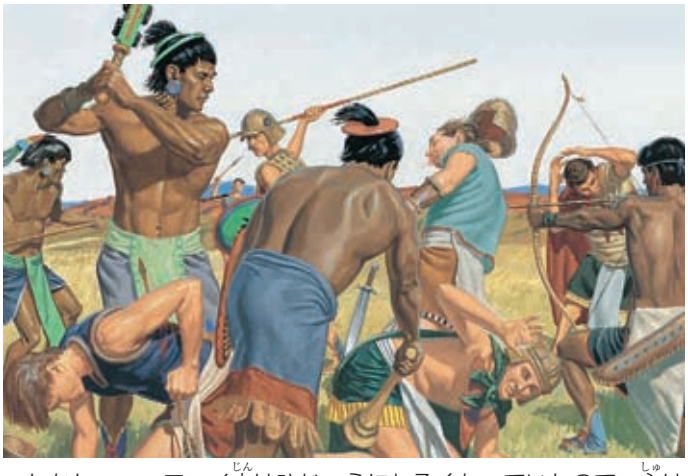
しかし，人びとがひじょうにわるくなったので，主は3人のでしをつれさってしまわれました。きせきといやしはやみ，せいれいはもう人びとをみちびかれませんでした。（モルモン1：13—14）

モルモンは15才の時，イエス・キリストのおとずれをうけました。そして，すくいぬしとそのいつくしみについて，さらに学びました。（モルモン1：15）

モルモンはたみに教えをとこうとしましたが，イエスからきんじられました。たみはあくじを行い，たみの心がふたたびかたくなったからです。（モルモン1：16—17）

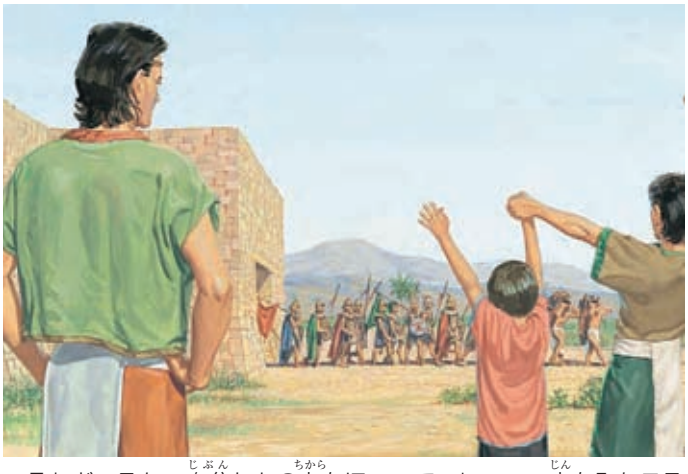
ふたたびせんそうがはじまりました。モルモンはせが高く，たくましかったので，ニーファイのたみは，モルモンをぐんのしきかんにえらびました。（モルモン2：1）

ニーファイ人とレーマン人のたたかいは，何十年もつづきました。そこでモルモンは，たみが自分たちのかぞくとかていをまもるためにたたかうように，力をつくしました。（モルモン2：23）



しかし，ニーファイ人はひじょうにわるくなっていたので，主はおたすけになりませんでした。(モルモン2：26)

モルモンは，ニーファイ人にむかって，くいあらためて，バプテスマをうけるならばすくわれる，と言いました。しかし，たみは聞き入れませんでした。(モルモン3：2−3)



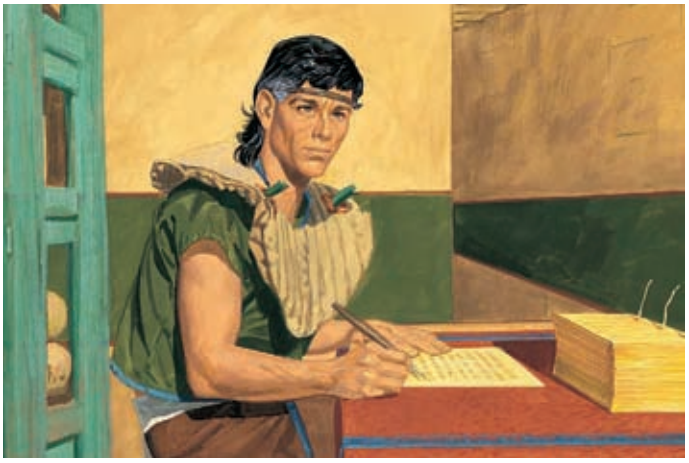
それどころか，自分たちの力をほこって，レーマン人をみなごろしにするとちかいました。そこでモルモンは，たみのあくじのために，しきかんとなることをことわりました。(モルモン3：9−11)

たたかうたびにニーファイ人は，レーマン人にうちまかされるようになりました。モルモンはふたたび，ニーファイ人のぐんたいをひきいることにしました。(モルモン4：18；5：1)

しかし，モルモンには，あくじを行うニーファイ人がたたかいにかてないことが分かっていました。たみがくいあらためず，たすけをねがうこともしなかったからです。(モルモン5：2)

モルモンは，アマロンがかくしておいたおかからすべてのきろくをとり出し，いつかこのきろくを読む人びとのために書きしるしました。(モルモン4：23；5：9，12)

モルモンのねがいは，ユダヤ人をはじめとしてすべての人が，イエス・キリストについて知り，くいあらためてバプテスマをうけ，ふくいんにしたがって生活し，しゅくふくをうけることでした。(モルモン5：14；7：8，10)



みたまにうながされてモルモンは，キリストのらいりんのよげんがのっているニーファイのしょうはんを，モルモンのはんといっしょにしました。(モルモンのことば1：3−7)

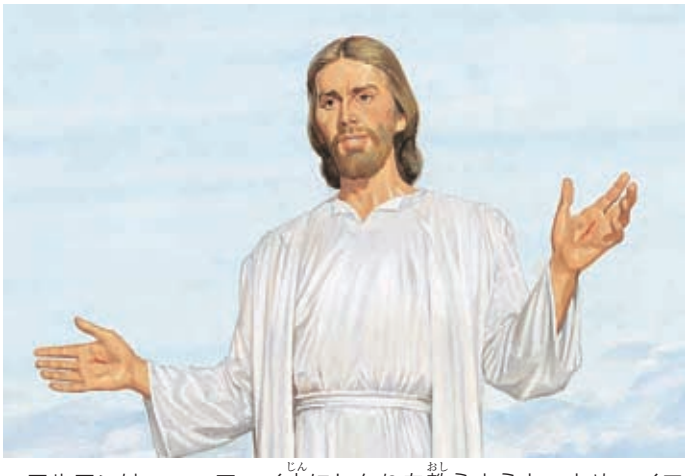
モルモンは，たみをクモラの地にあつめました。たみはここで，ふたたびレーマン人とたたかうよういをしました。(モルモン6：4)

モルモンは，年をとりました。これがさいごのたたかいになることを知っていました。しんせいなきろくがレーマン人に見つかって，台なしにされてはこまります。(モルモン6：6)

モルモンは，モルモンのはんをむすこのモロナイにわたし，のこりのはんをクモラのおかにかくしました。(モルモン6：6)

レーマン人は，ニーファイ人をおそいました。そして，24人をのぞいて，みなごろしにしました。モルモンは，けがをしました。(モルモン6：8−11)

モルモンは，さけびました。「あなたがたはりょううでを広げて立ってあなたがたをうけ入れようとしておられた，あのイエスをどうしてこばんだのか。見よ，あなたがたはそのようにしなければ，たおれなかったであろうに。」(モルモン6：16－18)



モルモンは，ニーファイ人にしんりを教えようとつとめ，イエス・キリストをしんじることがどれほど大切かつたえました。(モロナイ7：1，33，38)

モルモンは，イエス・キリストのあがないによって，きぼうをもつように教えました。また，じあい，つまりキリストのじゅんすいなあいをもたなければいけないとも教えました。(モロナイ7：40－41，47)

モルモンは，同じようにニーファイ人にふくいんを教えた，むすこのモロナイにあてて手紙を書きました。(モロナイ8：1－2)

モルモンは，ニーファイ人のひどくわるい行いについて書きました。モロナイには，イエス・キリストにちゅうじつでありなさいと書いています。(モロナイ9：1，20，25)

レーマン人は，モルモンたちニーファイ人ぜんいんをころしました。一人だけ生きのこったモロナイは，きろくを書きおえました。(モルモン8：2－3)

バベルをはなれる
ヤレドのたみ

だい50しょう

ヤレドとヤレドの兄弟は，正しい人で，バベルというところにすんでいました。ニーファイのたみのじだいよりも，何百年もむかしのことです。（エテル1：33；そうせい11：9）

バベルの人びとは，ほとんどがわるい人たちでした。人びとはとうをたてて，天にとどかせようとしたのです。主はおいかりになって，人びとのことばをかえられました。（そうせい11：4，7）

そこで，ヤレドはヤレドの兄弟に，「自分たちのかぞくと友だちのことばをかえないよう，主にいのってくれ」と言いました。（エテル1：34）

ヤレドの兄弟がいのると，主はそのいのりを聞きとどけてくださいました。それでヤレドとヤレドの兄弟と，そのかぞくと友だちはおたがいのことをりかいすることができました。（エテル1：35－37）

主はヤレドの兄弟に，かぞくと友だちをあつめて，バベルをはなれるようにとおっしゃいました。かちくとあらゆるしゅるいのたねも，もって行くように言われました。（エテル1：41－42）

主は，ヤレドのたみをやくそくの地にみちびくと言われました。（エテル1：42）

ヤレドのたみは，いっしょにつれて行く鳥と魚をつかまえました。（エテル2：2）

みつばちのむれも，つれて行きました。（エテル2：3）

ヤレドのたみは，あれ野の中へすすんで行きました。主が雲の中からお話しになり，行き先をしめしてくださいました。（エテル2：5）

主は「やくそくの地にすむものは，神につかえなければ，ほろぼされる」と言われました。（エテル2：7−8）

ヤレドのたみは，海べにやって来ると，てんまくをはりました。そして，海べで4年の間くらしました。（エテル2：13）

やくそくの地へむかう ヤレドのたみ

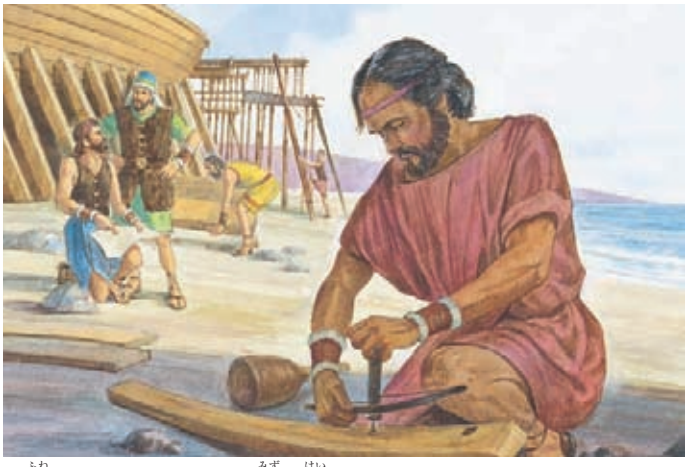
だい51しょう

ヤレドのたみが海べでくらしている時，ヤレドの兄弟はおいのりをわすれていました。主は雲の中にあらわれ，ヤレドの兄弟にくいあらためるよう言われました。（エテル2：14）

そこでヤレドの兄弟がくいあらためていのると，主はおっしゃいました。「あなたのつみをゆるそう。しかし，もうにどとつみをおかしてはならない。」（エテル2：15）

そして主はヤレドの兄弟に，やくそくの地へみんなをはこぶ船をつくるようにと言われました。（エテル2：16）

主はまた，船のつくり方も教えられました。（エテル2：16－17）



船にはすきまがなく，水が入らないようになっていました。（エテル2：17）

「さて，いきをするためにどうやって船の中に空気を入れるのだろう。」ヤレドの兄弟は，どうしたらよいか主においのりしました。（エテル2：19）

すると主は，教えてくださいました。「船の上にも下にもあなをあけなさい。そうすれば，空気が入ってきます。水が入ってくる時は，あなをふさぎなさい。」（エテル2：20）

ヤレドの兄弟はまた，「船の中はくらいです」と主に言いました。すると主は，自分で明かりをえるほうほうを考えるようにと言われました。（エテル2：22—23）

まどはこわれるのでつくることはできません。また火をもって入るわけにもいきません。（エテル2：23）

ヤレドの兄弟は山へ行って，岩から16この小さな石をとかし出しました。その石は，すき通ったガラスのようです。ヤレドの兄弟は，8せきの船のために，2こずつ石をよういしました。（エテル3：1）

ヤレドの兄弟はこの16この石をもって，山のちょうじょうにのぼり，また主においのりしました。（エテル3：1）

「どうぞこの石にさわって，船の中で光るようにしてください」とヤレドの兄弟は，主におねがいしました。（エテル3：4）

すると主はゆびで一つ一つの石をさわってくださいました。（エテル3：6）

ヤレドの兄弟は，とてもしんこうぶかかったので，主のゆびを見ました。そのゆびは，人間のゆびのようでした。（エテル3：6，9）

主はヤレドの兄弟に，みすがたをお見せになりました。（エテル3：13）

イエスは，ご自分をしんじるものはえいえんのいのちをうけるとおっしゃいました。（エテル3：14）

イエスは，ヤレドの兄弟にたくさんのことをお教えになりました。そして，見聞きしたことを書きとめるように言われました。（エテル3：25−27）

ヤレドの兄弟は，石をもって山を下り，船の前と後に一つずつおきました。すると，石は船の中をてらしました。（エテル6：2－3）

ヤレドのたみは，かちくをつれて，しょくもつをもって，船にのりこみました。主はやくそくの地の方へふく，強い風をおこされました。（エテル6：4－5）

主は，あら海を行くヤレドのたみをおまもりになりました。ヤレドのたみは主にかんしゃをし，主をたたえて歌を歌いました。（エテル6：6－10）

こうして344日の間，海のたびをつづけて，ヤレドのたみはとうとうやくそくの地につきました。（エテル6：11－12）

みんなはじょうりくすると，主の前にひざまずき，よろこびのなみだをながしました。（エテル6：12）

それからヤレドのたみは，やくそくの地に家をたて，さくもつをうえました。そして，子どもたちに，主のことばに耳をかたむけ，したがうように教えました。（エテル6：13，16－18）

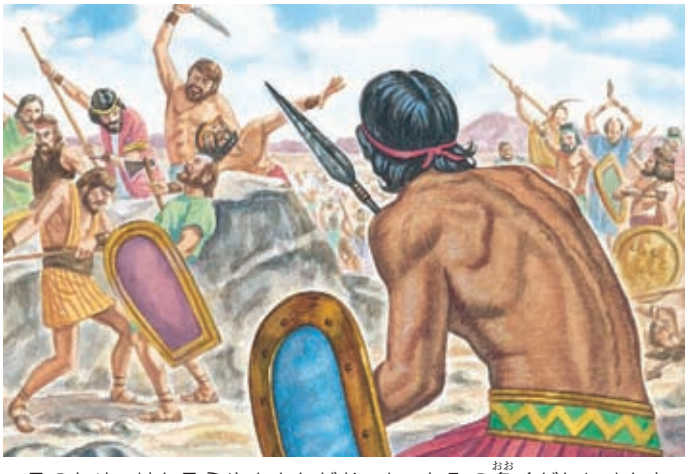
ヤレドのたみのめつぼう

だい52しょう

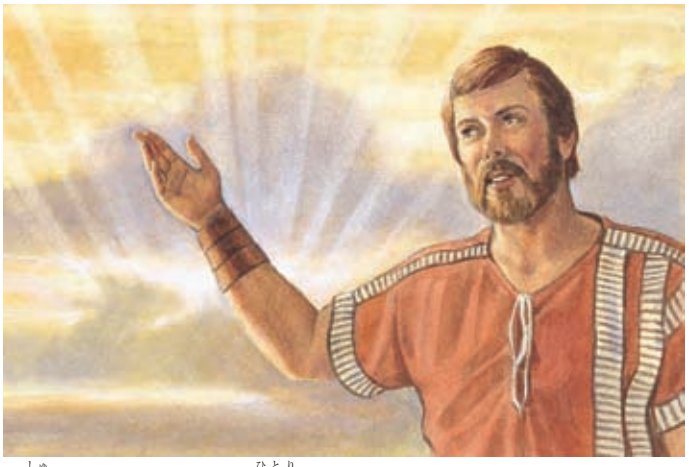
数がふえ，ゆたかになったヤレドのたみは，王をえらんでしどうしゃにしました。（エテル6：18，22，27−28）

多くの年がすぎ，ヤレドのたみはわるいことをするようになりました。そこで主はよげんしゃをつかわし，くいあらためなければたみはほろびると言われました。（エテル11：1）

しかし，人びとはよげんしゃの言うことを聞かず，よげんしゃをころそうとしました。（エテル11：2）

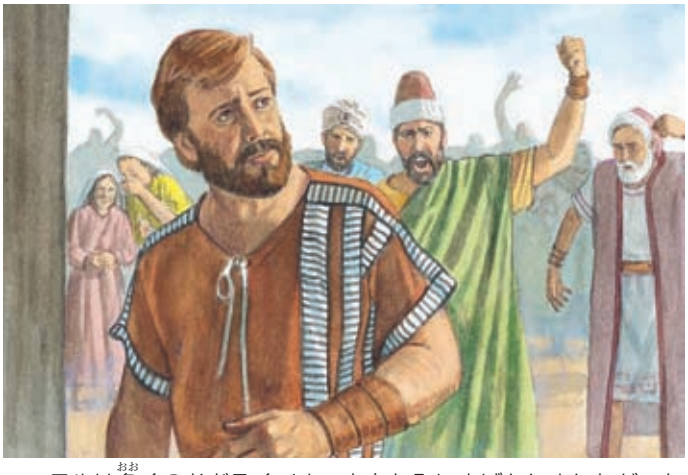


そのため，せんそうやききんがおこり，たみの多くがしにました。（エテル11：7）



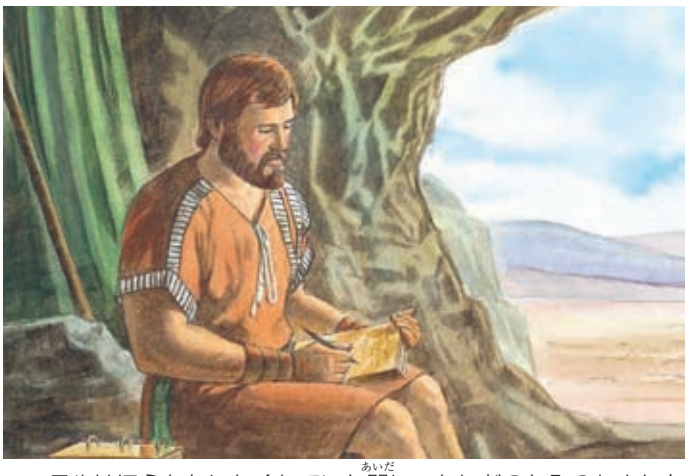
主はエテルというもう一人のよげんしゃをおくられました。エテルは朝からばんまで声を上げて，神をしんじて，くいあらためるようにとたみにつげました。（エテル12：2−3）

エテルはまた，ヤレドのたみに神をしんじるなら，もっといいせかいでいつか天父とともにすむことができると話しました。（エテル12：4）



エテルは多くのおどろくべきことをたみによげんしましたが，たみはそれをしんじませんでした。そしてエテルを町からおい出してしまいました。（エテル12：5；13：13）

そこでエテルは，ころされないようにほらあなにかくれました。夜になると出て行って，たみに下るわざわいを目にしました。（エテル13：13−14）



エテルはほらあなにかくれていた間に，ヤレドのたみのれきしを書きおえました。（エテル13：14）

主はヤレドのたみのわるい王であるコリアンタマーのところにエテルをつかわして，こう言われました。「くいあらためないと，たみはみなほろびてしまう。」（エテル13：16−17，20−21）

しかし，コリアンタマーもたみもくいあらためませんでした。コリアンタマーはエテルをころそうとしましたが，エテルはにげて，またほらあなにみをかくしました。（エテル13：22）

たみのあくがひどくなったため，国中にのろいが下りました。どうぐや，つるぎをおいておくと，つぎの日にはなくなってしまうほどでした。（エテル14：1）

ヤレドのたみはみんな，女の人や子どもまでたたかいました。コリアンタマーとシズは，それぞれ自分のぐんをひきいていました。（エテル14：19−20；15：15）

コリアンタマーもシズもわるい人でした。たみのあくがひどかったので，せいれいはヤレドのたみをはなれられ，サタンがたみをすっかりしはいしていました。（エテル15：19）

ヤレドのたみはたたかいつづけ，コリアンタマーとシズの二人だけがのこりました。シズはちをたくさんながしてきぜつしているところを，コリアンタマーにころされました。（エテル15：29−30）

こうしてのよげんはじじつとなったのです。ヤレドのたみでさいごまで生きのこったコリアンタマーは，後にゼラヘムラのたみに見つけられました。（オムナイ1：21）

エテルは，あくのためにほろびたヤレドのたみのれきしを書きおえました。そのきろくは，後にニーファイ人によってはっけんされました。（エテル15：33）

ヤレドのたみのたび

2 ヤレドのたみ，船をつくる。

1 バベルの人びとがとうをたてる。

3 ヤレドのたみ，海をわたる。

4 ヤレドのたみ，アメリカたいりくにつく。

モロナイとその教え

だい53しょう

モルモンもしんで，モロナイは一人ぼっちになりました。モロナイは，父モルモンから引きついだきろくを書きおえました。（モルモン8：1，3）

モロナイは，このきんばんがいつか地から出されることを知っていました。（モルモン8：16）

きんばんのことばは，イエス・キリストについて教えています。また，あかしをし，正しい生き方を教えています。（モルモン9：11－12，27）

わるいレーマン人たちは，キリストをひていしないニーファイ人をすべてころしました。（モロナイ1：2）

モロナイはイエス・キリストをひていしなかったので，あちこちをさまよって，レーマン人からかくれました。（モロナイ1：3）

モロナイは，とくべつにまつじつのレーマン人にあてて，きんばんに書きくわえました。（モロナイ1：4）

モロナイは，大切なことをたくさん書いています。せいさんをしゅくふくするほうほうや，せいさんのおいのりのことばを書きのこしました。（モロナイ4；5しょう）

モロナイが書いているように，進んでつみをくいあらため，イエス・キリストにつかえる人だけがバプテスマをうけられます。（モロナイ6：1−3）

モロナイののぞみは，人びとがイエス・キリストをしんじることでした。モロナイは，あらゆるよいものは，キリストから来ると教えました。（モロナイ10：18，30）

モロナイはまた，神をあいして，したがう人は，かんぜんなものとなると書いています。（モロナイ10：32）

モロナイは，自分がしんだら，よみがえって，天父と，イエス・キリストとともにすむことを知っていました。（モロナイ10：34）

モルモン書のやくそく

だい54しょう

モロナイは，さいごにきんばんをうめる前に，レーマン人と，このきろくを読むすべての人に，一つのやくそくをしました。（モロナイ10：1－2）

モロナイは言っています。「このきろくを読んで，よく考えてほしい。そして，これがしんじつかどうか天父にたずねなさい。」（モロナイ10：3－4）

そして，こうやくそくしました。「キリストをしんじて，心からたずねるならば，せいれいの力によって，これがしんじつであることが分かるでしょう。」（モロナイ10：4－5）

「くいあらためて，イエス・キリストにしたがい，天父をあいするならば，かんぜんになることができます。」（モロナイ10：32）

モロナイは，きんばんにきろくを書きおえると，それをクモラのおかに作った石のはこにかくしました。そして，大きな石できろくをおおいました。こうして，モロナイのこのよでのつとめはおわりました。（モルモン8：4；ジョセフ・スミス－れきし1：52）

ことばのせつめい

あ

あかし　ふくいんが正しいと考えること，またはそれを人びとの前で話すこと。

あれ野　としがなく，人びとがすんでいないところ。

い

いさましい　正しいことを知って，それをどうどうとまもること。

石なげき

石なげき　石をなげるためのぶき。

石をなげつける　しぬまで人に石をなげつけること。

いのちの木　リーハイのゆめにあらわられれた神のあいをあらわす木。

いのる　神と話すこと。かんしゃをのべ，しゅくふくをおねがいする。

いましめ　人びとがしあわせになるために，神から行うように言われたこと。

いやす　びょうきの人やきずついた人をよいじょうたい，または元どおりにすること。

う

ウリムとトンミム　よげんしゃがほんやくし，けいじをうけるためのたすけとして，神がおあたえになったとくべつなどうぐ。

え

えいえんのいのち　えいえんに神とともにすむこと。

お

王　人びとをおさめるしどうしゃ。

か

かいいん　教会またはグループに入っている人。

かいどう　人びとがあつまって神をれいはいするたてものの一つ。

き

ぎ　神のみ心にしたがうこと。ぎにかなう人びととは神のいましめにしたがう人びとのこと。

ききん　雨がふらなくて，さくもつがそだたないために，食べものがなくなること。

ぎしき　バプテスマやせいさんなど，れいてきないみがあるしんせいなぎしき，または行い。

ぎせい　神にしたがうために大切なものを何かあきらめること。

きせき　神の力をしめすふつうにおこらないようなできごと。

きんばん

きんばん　うすい金のはんに書かれたきろく。モロナイはきんばんをクモラのおかにかくした。後にジョセフ・スミスはきんばんをとり出した。

く

ぐうぞう　人びとがおがむ神でないもの。

くいあらためる　正しくない行いや考えをかなしんで，それをくりかえさないとやくそくすること。

くわわる　グループに入ること。
ぐんぜい　たたかうためのくんれんをうけたへいしたち。

こ

ころも　長く，ゆったりとしたふく。

こんぼう

こんぼう　どうぶつや人をたたくためにつかうぶき。

さ

さいだん

さいだん　どろや石をつみ上げて作ったしんせいなところ。神にいのりやいけにえをささげるためにつかわれた。
さけによう　アルコールののみものをのみすぎたために体や心をじゆうにできなくなること。
さばきつかさ　ほうりつやいましめがどのようないみかを考えてそれをきめたり，人びとがどのようにほうりつやいましめをまもったらよいかをきめるしどうしゃ。
さばきつかさのしょく　ニーファイ人のせいふでさばきつかさがしめているたちば。

し

じげん　けいじがあたえられる一つのほうほう。
したがう　たのまれたことやめいじられたことを行うこと。
しどうしゃ　人びとをみちびく人。
しもべ　王などのえらい人のためにほうししたり，はたらいたりする人びと。
じゆう　自分でえらびができること。

じゆうのはた

じゆうのはた　しれいかんモロナイが人びとにじゆうをまもるようはげますためのことばをころもに書いて作ったもの。
じゃあく　神がきらうこと。あくにんはサタンをあいし，神のいましめをまもらない。わるいこと。
しゅくふくする　その人にとってよいものをあたえること。せいさんをしゅくふくすることは，イエス・キリストのしょうちょうであるパンと水をうけ入れてくださるよう神におねがいすること。
しれいかん　ぐんたいのしどうしゃ。
しんけん　神のみ名によって行う力。
しんこう　イエス・キリストをしんじること。
しんじつ　じっさいにおきたことがら，または正しいことがら。

しんちゅうのはん

しんじる　何かが正しいことをかんじる，または知ること。
しんちゅうのはん　リーハイのせんぞに神があたえられたいましめと人びとのきろく。

しんでん

しんでん　神の家。

せ

せいさん　しんけんをもつだんせいが人びとのためにパンと水をしゅくふくするぎしき。せいさんは人びとにイエス・キリストを思いおこさせる。

せいにんする

せいにんする　しんけんの力とけんのうをあたえること。
せいやく　神と人の間でむすぶやくそく。
せいれいにみたされる　せいれいが人の考えや心に正しいことをつげてくださること。
せんきょうし　人びとにイエス・キリストのふくいんを教える人。

た

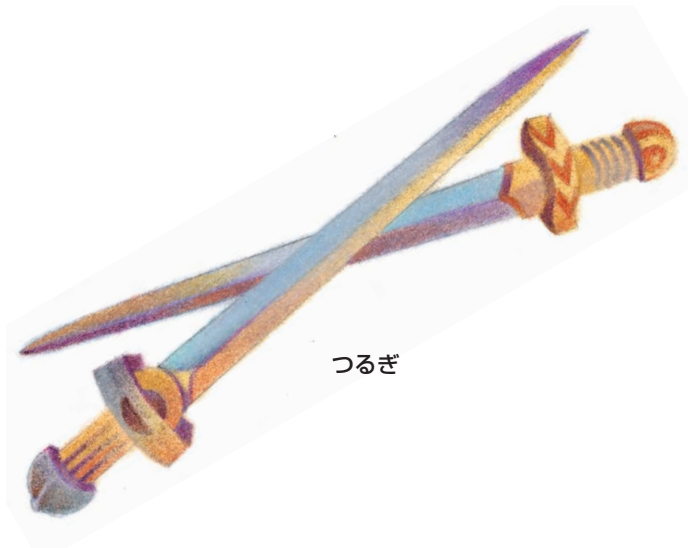
たいれい　レーマン人が神につけた名前。
たたかい　てきやあいてのぐんたいとあらそうこと。
たて　つるぎやそのほかのぶきからへいしのじょうはんしんをまもるためのよろい。
たてる　何かを作る，またはくみたてる。
だんじきする　みたまのたすけをえるために食べものや水をとらないこと。

ち

力　ぜんの力，またはあくの力。神からあたえられるとくべつなたすけや強さのことを言うことがしばしばある。
ちゅうじつ　いつもいましめにしたがうこと。

つ

つみ　いましめをやぶること。


つるぎ

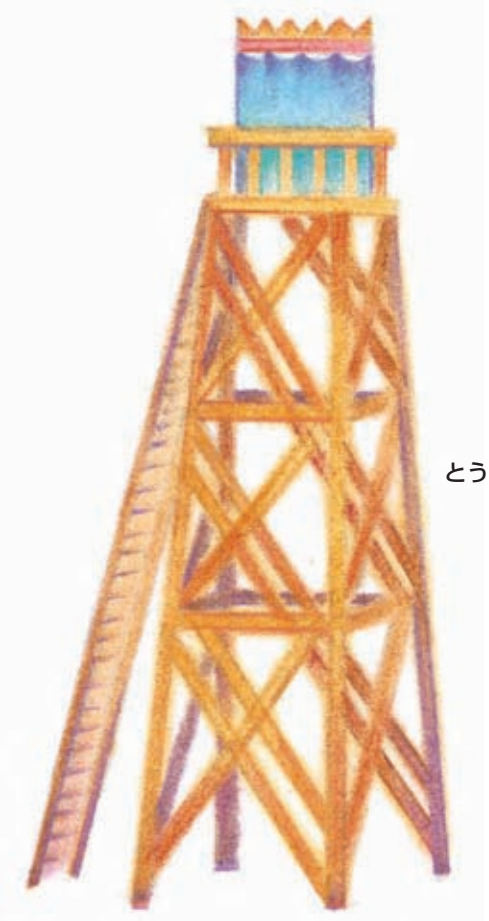
つるぎ　たたかいでてきを切ったり，さしたりするためにつかう長いきんぞくのはもの。

て

でし　イエスにしたがい，イエスのようになろうとどりょくする人。
てつのぼう　リーハイがゆめで見た神のことばをあらわすしょうちょう。
天国　天父とイエス・キリストがすんでおられるところ。
てんし　神からのつかい。

と

とう　人びとが立つことができる高いたてもの，または台。
頭のかわをはぎとる　人の頭のかわのぶぶんを切りとること。
どれい　人びとのためにむりやりはたらかされる人びと。
どれいのじょうたい　じゆうにできないじょうたいで，だれかのために一日中はたらくこと。



とう

バプテスマ

ぬ

ぬすむ　ほかの人のものをとること。

の

のがれる　人からはなれること。

は

はかりごと　だれかをふこうにするためにわるいけいかくを立てること。

はくがいする　だれかをためしたり，きずつけたりするためにうそを言うこと。

ばつをあたえる　人によくないことをもたらすこと。神にしたがわない人びとにはばつをあたえられることがよくある。

バプテスマ　神からけんのうをあたえられた人が，バプテスマをうける人をかんぜんに水の中にしずめてからふたたびおき上がらせるぎしき。イエス・キリストの教会のかいいんになるためにはバプテスマをうけなければならない。

はかいする　町やいのちなどがかんぜんになくなること，またはあれはてること。

はりつけにする　人をじゅうじかにくぎでうちつけてころすこと。

はん

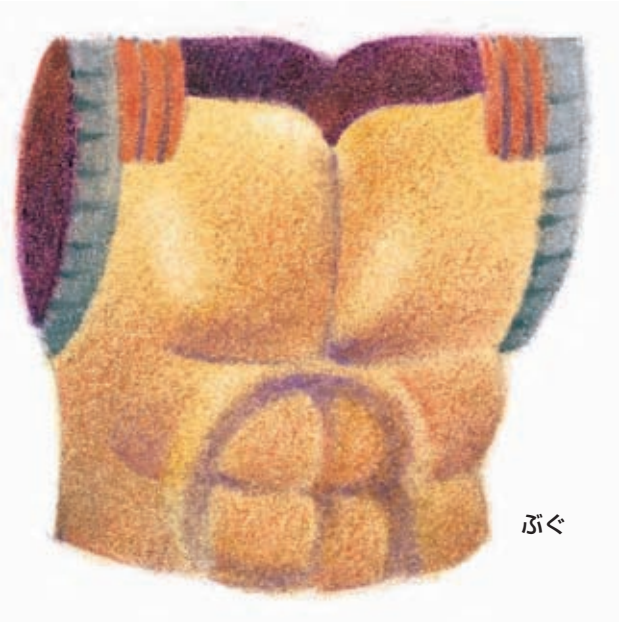
はん　神の教えと人びとのれきしが書かれているうすいきんぞくのいた。

はんこうする　いましめやめいじられたことにしたがわないこと。

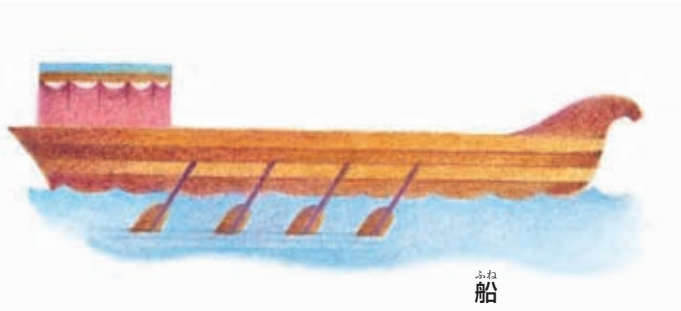
ふ

ぶき　つるぎややりのように，ほかの人びとをきずつけたり，ころしたりするためにつかわれるもの。

ふっかつする　生きているじょうたいにもどること。



ぶぐ　へいしがたたかいで体をまもるためにきるもの。
ふくいん　イエス・キリストの教え。



船　海にうかぶのりもの。人びとやにもつをはこぶためにつかう。

へ

へいし　ぐんたいでたたかう人。
へいわ　おだやかなきもち，またはせんそうがないじょうたい。
へりくだる　神のみ心を聞いて，それを行おうとすること。

ほ

ほんやくする　一つの国のことばをほかの国のことばにかえること。

み

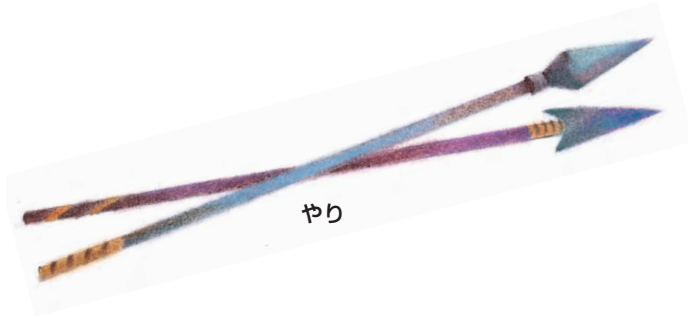
耳の聞こえないもの　聞くことができない人。

も

もうじん　目が見えない人。

や

矢　どうぶつをとったり，たたかったりするためにつかうぶき。するどいほさきがついている。
やくそく　何かを行う，または何かのじょうたいをなしとげることをやくそくすること，またはけっしんすること。



やり　つきさすためにつかう，するどいほさきがついたぼう。

ゆ

弓　長いぼうのりょうはしにつるをはって，矢をとばすためにつかう。
ゆめ　人がねむっている間に心の中でけいけんするものがたり。
ゆるす　人からいやなことをされてもそれをわすれて，その人をあいすること。

よ

よげん　できごとがおきる前にそれについて話すこと。

よげんしゃ　神のみ心を人びとに話すよう神からめされた人。

よろこびのおとずれ　きぼうとやすらかなきもちがあたえられる，神のことば。

り

リアホナ

リアホナ　あれ野にいた時にどのほうこうへ行くべきかをしめすために神がリーハイのかぞくにおあたえになったしんちゅうのたま。リアホナはリーハイのかぞくが正しいことを行う時だけうごいた。

りかいする　考えを知る，または分かること。

れ

れいはいする　人やものをおがむ，またはしたがう。

ろ

ろうや　つみをおかした人びとをとらえておくためのばしょ。

人のせつめい

アダム　ちきゅうにすんださいしょのだんせい。

アマリキヤ　ニーファイ人の王になろうとしたが，人びとのじゆうをうばおうとしたあくにん。王になれなかったため，レーマン人のもとへ行ってくらした。

アマロン　あんぜんにかくしておくことができるようにモルモンにきろくをわたした正しい人。

アミュレク　むすこアルマのどうりょうせんきょうし。二人はろうやに入れられたが，神の力によってろうやのかべをこわした。

アミュロン　ノア王のわるいさいし。アルマのたみをしはいした。アミュロンはアルマのたみをむりやりはたらかせて，いのるものはだれでもころすとアルマのたみをおどした。

アムリサイ　ニーファイ人の王になろうとしたあくにん。アムリサイは王になれなかったためになかまといっしょにニーファイ人からはなれて，ニーファイ人をこうげきした。後に，レーマン人といっしょに生活した。

アムリサイ人　アムリサイにしたがった人びと。アムリサイ人は自分のひたいに赤いしるしをつけて，レーマン人といっしょにくらした。

アビナダイ　ノア王に教えるためにつかわされたよげんしゃ。ノア王はアビナダイをやきころした。

アルマ（父）　アビナダイの教えをしんじたノア王のさいし。後に教会のしどうしゃになった。

アルマ（むすこ）　アルマのむすこ。はんこうして教会をほろぼそうとしたが，心を入れかえて，ふくいんを教えるようになった。かれは教会のしどうしゃとなり，さいしょの大さばきつかさになった。

アロン　モーサヤ王のむすこたちの一人。レーマン人にでんどうした。

アンタイ・ニーファイ・リーハイ人（「アンモンのたみ」の項を見ましょう。）

アンモン1　ゼラヘムラからニーファイの地へ行って，ニーファイ人をつれ出したニーファイ人のしどうしゃ。

アンモン2　モーサヤのむすこたちの一人。ラモーナイ王のかちくのむれをとうぞくからまもった。アンモンはでんどうちゅう，多くのレーマン人に教え，しんじさせた。

アンモンのたみ　モーサヤのむすこたちによって神をしんじたレーマン人。かれらはぶきをじめんの中にうめて，けっしてたたかわないことをせいやくした。

イシマエル　エルサレムにすんでいた人で，リーハイのかぞくといっしょにやくそくの地へ行った。イシマエルのむすめたちはリーハイのむすことたちとけっこんした。

エテル　ヤレドのたみにくいあらためるように言い，人びとがほろびることについてきろくしたよげんしゃ。

エノス　ヤコブのむすこ。一日中，ニーファイ人とレーマン人のためにいのった。

エバ　ちきゅうにすんださいしょのじょせい。

王せいとうの人びと　さばきつかさではなく，王によっておさめられることをのぞんだニーファイ人。かれらは王をもつことができなかったため，レーマン人といっしょになってニーファイ人にたたかいをしかけた。

オムナー　モーサヤ王のむすこでレーマン人にでんどうした。

ギデオン　ニーホルが人びとにまちがった教えをのべはじめた時に，教会をまもった正しいニーファイ人。ギデオンはニーホルによってころされた。

コリアンタマー　ヤレドのたみの中で生きのこった人の一人。わるい王だった。

コリアントン　むすこアルマの子ども。せんきょうしとして正しいことを行わなかった。また神の教えにちゅうじつではなかった。

コリホル　神が生きておられるしるしをもとめたわるい人。神はコリホルにものが言えなくなるしるしをあたえられた。

サム　リーハイとサライアの正しいむすこ。

サムエル，レーマン人　イエス・キリストがお生まれになることとなくなられることについてニーファイ人によげんしたよげんしゃ。

サライア　リーハイのつま。

シズ　わるいヤレド人。シズはぐんたいをひきいてコリアンタマーとたたかった。さいごまで生きのこったヤレド人の一人だった。

じゆうとうの人びと　じゆうに生活し，自分でえらんだとおりにれいはいすることをのぞんだニーファイ人。かれらは王ではなく，さばきつかさによっておさめられていた。

ジョセフ・スミス・ジュニア　きんばんからモルモン書をほんやくしたまつじつのよげんしゃ。

シーレム　しるしを見せてくれたらイエス・キリストをしんじると言ったわるいニーファイ人。

セアンタム　セゾーラムの兄弟。セアンタムはセゾーラムをころした。

ゼーズロム　神が生きていないと言うならお金をあげるとアミュレクに言ったほうりつのせんもんか。ゼーズロムはむすこアルマからふくいんを聞いて，くいあらためた。

セゾーラム　兄弟からころされた大さばきつかさ。

ゼニフ　ニーファイ人をゼラヘムラからニーファイの地までつれて行った正しいしどうしゃ。ニーファイ人はそこでレーマン人のわるい王のどれいになった。

ゼラヘムナ　ニーファイ人とたたかい，ニーファイ人をどれいにしたいと思ったレーマン人のしどうしゃ。ゼラヘムナはしれいかんモ

ロナイのぐんたいとたたかった時に頭のかわをはぎとられた。

ゾーラム　ラバンのしもべ。リーハイのかぞくといっしょにやくそくの地へ行った。

ゾーラム人　むかしは神の教会に入っていたが，わるい人になった。ゾーラム人はおいのりをするために，かいどうの中にラミアンプトムとよばれたばしょをつくった。

2,000人の青年へいし　ヒラマンといっしょにたたかいに行ったアンモン人の青年たち。かれらは，たたかわないことをせいやくしたりょうしんがころされないようにするためにたたかった。

ニーファイ1　リーハイとサライアの正しいむすこ。ニーファイはラバンからしんちゅうのはんを手に入れ，船をつくって，かぞくをやくそくの地へつれて行った。

ニーファイ2　ヒラマンのむすこ。ニーファイは弟のリーハイとともにろうやになげ入れられた時に，火のはしらにつつまれた。ニーファイは人びとをくいあらためさせるためにききんをおこした。

ニーファイ3　キリストによってでしにえらばれ，教会のしどうしゃにえらばれた正しい人。

ニーファイ人　ニーファイにしたがった人びと，またはふくいんをうけ入れた人びと。

ニーホル　神の教会にはんたいしてだいたんに言いあらそったわるい人。ニーホルはギデオンをころして，しけいになった。

ノア王　お金やたからものをたいせつにし，人びとにわるいことを教えたわるいニーファイ人の王。ノア王は自分の国の人びとからやきころされた。

ハゴス　何せきもの大きな船をつくったニーファイ人。多くのニーファイ人を北の方へつれて行った。

パホーラン　ニーファイ人の大さばきつかさ。パホーランはしれいかんモロナイがわるいことを行うニーファイ人をまかすのをたすけた。

ヒラマン　むすこアルマの長男。ヒラマンはアルマからはんをわたされて，人びとのれきしを書くように言われた。ヒラマンはたたかいに行った2,000人の青年たちのしどうしゃでもあった。

ヒムナイ　モーサヤ王のむすこでレーマン人にでんどうした。

ベニヤミン王　正しい王。とうに立って，人びとにイエス・キリストについて教えた。

マリヤ　イエスの母。

モーサヤ王　ニーファイ人のさいごの王。モーサヤ王には4人のむすこがいた。

モーサヤのむすこたち　モーサヤ王のむすこたち。アロン，アンモン，ヒムナイ，オムナーはレーマン人の間でゆうかんにでんどうした。

モルモン　ニーファイ人のぐんたいのしどうしゃであり，ニーファイ人のさいごのよげんしゃの一人だった。モルモンはモルモン書をまとめた。

モロナイ　モルモンのむすこで，ニーファイ人のさいごのよげんしゃ。モロナイはきんばんをうめて，後にてんしとしてジョセフ・スミスにあらわれた。

モロナイ，しれいかん　ニーファイ人のぐんたいの正しいしどうしゃ。しれいかんモロナイはじゆうのはたを作って，じゆうをまもるためにたたかうようぐんたいを力づけた。

ヤコブ　リーハイとサライアのむすこ。ヤコブは，キリストなどというものはいるはずがないと教えるシーレムとどちらの方が正しいかを話し合った。

ヤレドの兄弟　ヤレドのたみがやくそくの地にむかう船の中で明かりをもつことができるように，ゆびで16この石にふれてくださるようイエスにおねがいしたよげんしゃ。

ヤレドの民　バベルのとうをさって，船でやくそくの地まで行ったヤレドとヤレドの兄弟にしたがった人びと。

ヨセフ　あれ野で生まれたリーハイとサライアの正しいむすこ。

ラバン　エルサレムにすんだわるい人。ラバンはリーハイのむすこたちにしんちゅうのはんをわたそうとしなかった。

ラモーナイ王　ふくいんを聞いてしんじたレーマン人の王。アンモン2はラモーナイ王のかちくのむれをどろぼうからまもった。

ラモーナイ王の父　ふくいんを聞いてしんじたレーマン人の王。ラモーナイ王の父は神を知るためにつみをおかさないと言った。

リーハイ1　エルサレムがほろぼされることをけいこくしたよげんしゃ。リーハイはかぞくをつれてあれ野へ行くようにと言われた神のことばにしたがった。

リーハイ2　ヒラマンのむすこ。リーハイは兄のニーファイとともにろうやになげ入れられた時に，火のはしらにつつまれた。

リムハイ王　わるい王ノアから生まれたよいむすこ。リムハイ王は人びととともにレーマン人のどれいとなったが，かいほうされた。

レーマン　リーハイとサライアの長男。レーマンはわるい人で，神にしたがわなかった。

レーマン王　レーマン人のわるい王。レーマン王はゼニフとニーファイ人に二つの町をあたえたが，後になってこうげきした。

レーマン人　レーマンとレムエルのしそんとかれらにしたがった人びと，またはふくいんをうけ入れなかった人びと。

レムエル　リーハイとサライアのわるいむすこ。

ばしょのせつめい

アメリカたいりく　リーハイのかぞく，ヤレドのたみに，神が行くように言われたやくそくの地。

アモナイハ　むすこのアルマとアミュレクのことばを聞こうとしなかったわるい人びとがすんだ町。

エルサレム　リーハイがわるい人びとによげんしたとし。イエス・キリストが教えをのべつたえられたところ，また，はりつけにされたところ。

クモラのおか　モロナイがきんばんをうめて，後にジョセフ・スミスがきんばんをとり出したばしょ。

ジェルション　ニーファイ人がアンモンのたみにあたえた土地。

シドム　むすこアルマが教会をつくったところ。アモナイハをさった正しい人びとはシドムに新しい家を作った。

ゼラヘムラ　ニーファイ人の大とし。ここを中心にしてせいじが行われた。教会の中心地でもあった。モーサヤ王とベニヤミン王はここにすんだ。ゼラヘムラ市はイエスがなくなられた時にもえてなくなった。

バベル　天までとどくように高いとうをたてたわるい人びとがすんだ町。

バウンティフル1　8年間あれ野をたびした後で，リーハイのかぞくがてんまくをはったばしょ。リーハイたちはここからやくそくの地にむかった。

バウンティフル2　イエス・キリストがニーファイ人をおとずれられたばしょ。

ベツレヘム　イエス・キリストがお生まれになったエルサレムに近い町。

ニーファイ　ニーファイとそのたみが，レーマン，レムエル，そのほかかれらにしたがう人びととわかれてから，つくったとし。

モルモンのいずみ　ノア王からはなれて，神の教えをしんじたニーファイ人にアルマがバプテスマをほどこしたばしょ。

やくそくの地　えらばれた人びとを神がみちびいて行かれるばしょ。神はリーハイのかぞくとジェレドのたみをやくそくの地にみちびかれた。

モルモン書のとうじょうじんぶつ

ヤレドの兄弟（だい51しょう）

ベニヤミン王（だい12しょう）

アビナダイとノア王（だい14しょう）

むすこアルマ（だい18しょう）

きげんぜん2200年	きげんぜん600年	きげんぜん500年	きげんぜん400年	きげんぜん300年	きげんぜん200年	きげんぜん150年
ヤレドの兄弟	リーハイ サライア	レーマン レムエル サム ニーファイ	ヤコブ エノス	エテル	アビナダイ ノア ゼニフ	ベニヤミン アルマ リムハイ	モーサヤ

リーハイ（だい6しょう）

ニーファイ，サム，レーマン，レムエル（だい4しょう）

アルマ（だい15しょう）

しれいかんモロナイ（だい32しょう）

イエス・キリスト（だい43しょう）

ジョセフ・スミス（だい1しょう）

きげんぜん100年 | きげん100年 | きげん400年 | きげん1800年

むすこアルマ
アンモン
ラモーナイ
ヒラマン
しれいかんモロナイ
ニーファイ
レーマン人
サムエル
イエス・キリスト
3人のニーファイ人
モルモン
ジョセフ・スミス

アンモンとラモーナイ王（だい23しょう）

モルモン（だい49しょう）

モロナイ（だい54しょう）

レーマン人サムエル（だい40しょう）

さくいん

あ

アダム，についてつげるしんちゅうのはん　12
アビナダイ　39−41
アビナダブ　101
アマリキヤ　89−90，92
アマレカイ　56
アマレカイ人　56−57
アマロン　138
アミュレク　58−63
アムロン　48
アモナイハ　58
アルマ
　アビナダイの教えをしんじる　41
　教会のしどうしゃとなる　49
　ノア王からのがれる　41，44
　モルモンのいずみでバプテスマをほどこす　43
アルマ，のたみ　44
あれ野，あれ野のたび　6−7，13−15，144
アロン　53，69−72
アンタイ・ニーファイ・リーハイ人（「アンモンのたみ」の項を見ましょう。）
アンモン　145
アンモン　253，64−70
アンモン，のたみ　73−74，80，93−94
イエス・キリスト
　子どもたちをしゅくふくする　124−125
　しのしるし　112，117−119
　すがたをあらわす　2−3，7，121，128，131，139，147
　すくいぬしであるイエス・キリスト　33，122
　たんじょうのしるし　112，115−116
　でしたちをせいにんする　122
　ニーファイのたみを教える　122−123，126−127，130−131
　のいのり　124−125，129
　のいやし　123
　のおとずれのよげん　5，33，40，111−113
　のもはん　131
イエス・キリストのゆび　147
イシマエル，の地　64
イシマエルとそのかぞく　13，15
石，イエス・キリストが石にふれる　146−148
いのちの木　18−20
いのり
　せいれいをうけられるようにいのる　128−129
　たすけをもとめていのる　18，53，74，79，86
　力をもとめていのる　37，57，62
　ちしきをもとめていのる　2−3，7，21−22，53
　ほかの人のためにいのる　5，30−31，49，51，129
　まもられるようにいのる　89−90
　ゆるしをもとめていのる　3，30，34，68，145
うで，どろぼうのうでを切りおとすアンモン　66
ウリムとトンミム　4
エテル　149−151
エノス　30−31
エバ，についてしるされたしんちゅうのはん　12
エルサレム　5−6，8，13
王　44，91
王せいとう　91−92，96
大さばきつかさ
　アルマ，大さばきつかさのせきにんをやめる　58
　アルマ，さいしょの大さばきつかさとなる　54
　王せいとう，大さばきつかさをこばむ　91，96
　がころされる　105−107
オムナー　53

か

かいどう　78
神のみたま（「せいれい」の項を見ましょう。）
ガデアントンのごうとうだん　110
ききん　109−110
きさき
　ラモーナイ王のきさき　68
　ラモーナイ王の父のきさき　72
教会
　どの教会に入るべきか　2−3
　の名前　131
きろく（「はん」の項を見ましょう。）
きんばん　3−4
ギデオン　54
くいあらため
　むすこアルマのくいあらため　52
　ラモーナイ王のくいあらため　68
　ラモーナイ王の父のくいあらため　72
クモラ（「クモラのおか」の項を見ましょう。）
クモラのおか　3，141，156
くらやみ　18−20，100−101，112，118−119
くらやみのない夜　112，115−116
ぐうぞう　78
声　100，102，119−120
子どもたち，をしゅくふくするキリスト　124−125
コリアンタマー　150−151
コリアントン　83−84
コリホル　75−77

さ

さいしょのじげん　2−3
さいだん　6
さばきつかさ（「大さばきつかさ」の項を見ましょう。）
サム　6−8，10
サライア　6，15，23
シェレム　27−29
シズ　151

したがう，じゅうじゅん　11−12，130
シドム　63
シドン，川　86
シブロン　83
しるし
　イエス・キリストたんじょうのしるし　112，115−116
　イエス・キリストのしのしるし　112，117−119
　コリホル，しるしをもとめる　76
　シーレム，しるしをもとめる　28−29
白いみ　18−20
しんけん　122
しんこう
　アルマとアミュレクのしんこうのゆえに，ろうやのかべがくずれる　62
　エノス，しんこうによってゆるされる　30
　ニーファイ，しんちゅうのはんを手に入れるためにしんこうをしめす　8−10
　2,000人のわかいへいしのしんこう　94
　むすこアルマ，しんこうについて教える　81
　ヤレドの兄弟，しんこうによって主のゆびを見る　147
　リアホナ，しんこうにおうじてうごく　14，23−24
しんちゅうのはん　8−12
ジェルション　74，85−86
じげん　2−3，5−6，18−20
じゆう　44，85，89−92，97
じゆうとう　91
じゆうのはた　89−90，97
ジョセフ・スミス・ジュニア　2−4
セアンタム　107
せいさん　126，129−130，155
せいやく　35，73，93
せいれい
　にみたされる　28，34，40，68，79，101
　のみちびきがなくなる　139，151
　に耳をかたむける　11
　をうける　34−35，126−130，136
セゾーラム　105−106
せんきょうし　53，78
ゼーズロム　60−61，63
ゼニフ　36−38
ゼラヘムナ　85−88
ゼラヘムナ，頭のかわをはがれる　88
ゼラヘムラ　75，96，103，111，118
ゾーラム　11−12
ゾーラム人　78−80，83−84

た

たね，神のことばをたねにたとえる　81
てつのぼう　19−20
てんし
　アモナイハにもどるようアルマにつたえる　58
　イエスのでしたちを教えみちびく　128
　がニーファイと兄たちにあらわれる　10
　ニーファイの子どもたちをとりかこむ　125
　むすこアルマとモーサヤのむすこたちをしかる　50
　モロナイ，ジョセフ・スミスに教える　3−4
　レーマン人の心をやわらげる　102
天父　2
でし　122，126−133，136
とう
　バベルのとう　143
　ベニヤミン王のとう　32
　ラメアンプトン　78
とみ　39，55，79
どろぼう　64−66，110

な

ニーファイ[1]
　兄たちにしばられる　23−24
　イエス・キリスト，ニーファイにすがたをあらわす　7
　兄弟のしどうしゃとなる　7，10
　しんちゅうのはんを手に入れるため，エルサレムにもどる　8−12
　ニーファイのたみをみちびく　26
　船をつくる　21−22
　弓をおる　14
　ラバンをころす　11
　リーハイとサライアのむすこ　6
ニーファイ[2]　99−110，112−114
ニーファイ[3]　114−116，122
ニーファイ，ニーファイの町とニーファイの地　26，36−37，71，99
ニーファイハ　58
ニーファイ人
　いちぶのニーファイ人が，レーマン人にくわわる　56，90，96
　くいあらためる　34，77
　じゃあくなニーファイ人　38−39，55，58，82，103−104，138−140
　正しいニーファイ人　26，55，136−137
　の一行とともにたびをするゼニフ　36
　ほかのニーファイ人をこうげきする　42，57，92，97，110
　レーマン人から分かれる　26
　レーマン人のどれいとなる　42，45，47−48
　レーマン人をこうげきする　97，139−141
ニーホル　54−55
2,000人のわかいへいし　93−94
2,000人のわかいへいしの母親　94
ノア，王　38−42
のろい　26，151

は

バウンティフル，の地　15
ハゴス　98
バプテスマ（「アルマ」「ラモーナイ」「王」「ニーファイ[2]」「ニーフ

ァイ3」「ゼーズロム」の項も見ましょう。）
キリストのでしたち，バプテスマをほどこす　130，133，136
モロナイ，どのような人がバプテスマをうけられるかせつめいする　155
バベル，のとう　143
パホーラン　91，95−97
はりつけ　33
はん
きんばん　3−4，154−156
しんちゅう　8−12
ニーファイのはん　25，27，30−31，83，138，141
モルモンのはん　140−142
ヤレドのたみのはん　151
はんキリストしゃ（「シーレム」「ニーホル」「コリホル」の項を見ましょう。）
ヒムナイ　53
ヒラマン　82−83，93−94，99
船　21−24，98，145−146，148
ぶき
アンモンのたみ，ぶきをうめる　73
レーマン人，ぶきをしれいかんモロナイにわたす　87−88
ぶきをうめる，アンモンのたみ　73
ぶぐ
ニーファイ，ラバンのぶぐをまとう　11
ニーファイ人のぶぐ　85
ベニヤミン，王　32−35
星　112，116
ほんやくする　3−4

ま

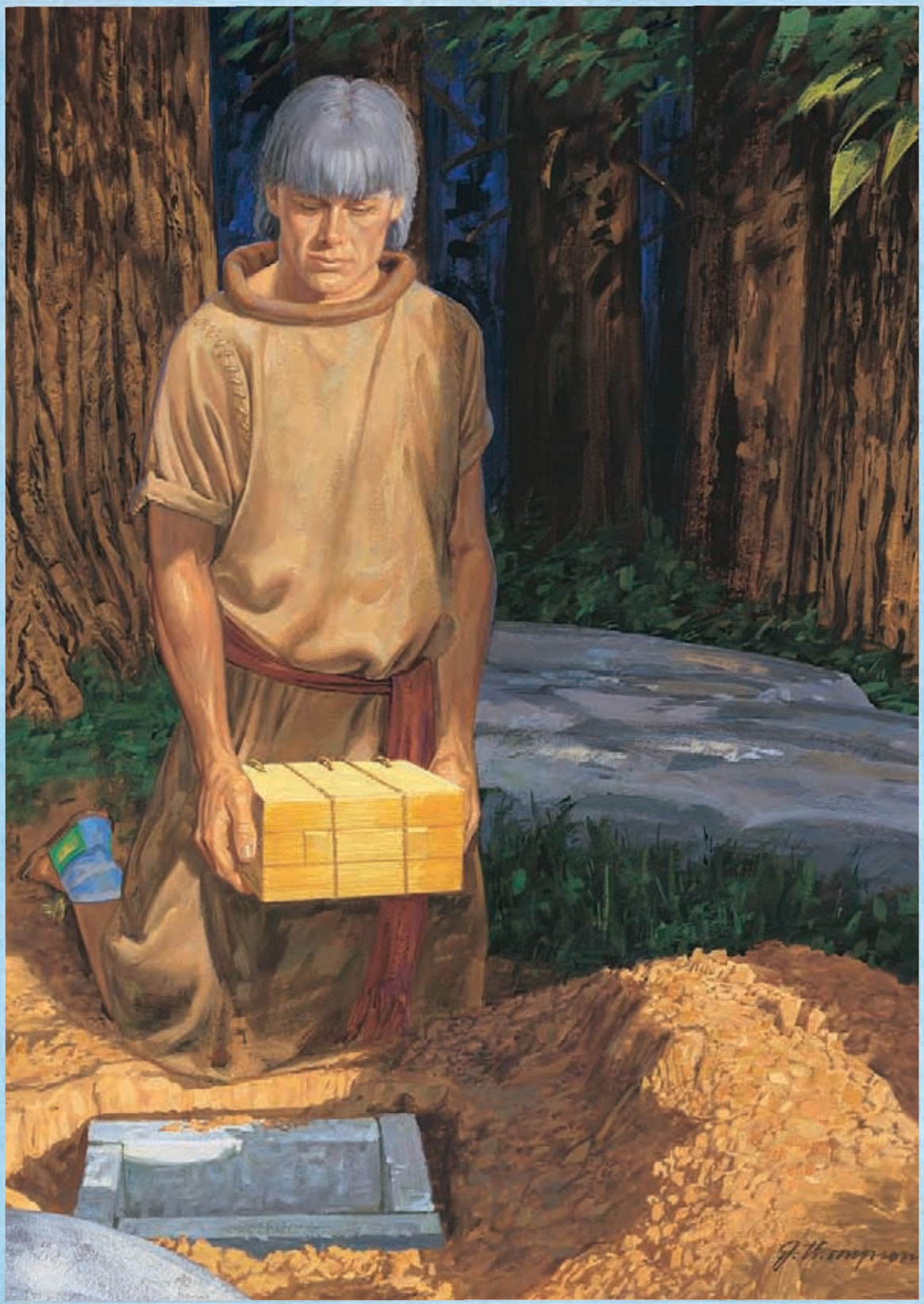
マリヤ，よげんの中で名前をけいじされる　33
むすこアルマ
アミュレクとともにろうやに入れられる　62
大さばきつかさとなる　54
教会にさからう　49−50
教会のしどうしゃとなる　54
くいあらためる　51−52
しんこうについて教える　81
にてんしがあらわれる　50
ふくいんをとく　52，58−60，78−81
むすこたちに教える　82−84
モーサヤ，王　32，35，49，53
モーサヤのむすこたち　49−53，64，73
モルモン　138−142
モルモンのいずみ　43
モロナイ　3−4，141−142，154−156
モロナイ，しれいかん　85−90，92，95−97

や

やきころされる
アビナダイ　41
じょせいと子どもたち　61
ノア王　42
やくそくの地　25，144，148
ヤコブ　15，27−29
ヤレド　143
ヤレド人の船のための光　147−148
ヤレドの兄弟　143，145−148
ヤレドのたみ　143−144，148−151
弓，ニーファイの弓　14
ゆめ　5−6，18−20（「じげん」の項もを見ましょう。）
ヨセフ，ニーファイの弟　15

ら

ラバン　8−11
ラバンのつるぎ　11
ラミアンプトム　78
ラモーナイ，ラモーナイの父　69−72
ラモーナイ，王　64，66−70
ラモーナイ王のかちくのむれ　64−65
リーハイ1
あれ野をたびする　6−7，15
エルサレムの人びとにくいあらためるようけいこくする　5
エルサレムをさるようにつげる　6
のゆめ　5−6，18−20
リアホナを見つける　14
リーハイ2　99−102
リーハイのゆめにあらわれたたてもの　19−20
リアホナ　14，23−24
リムハイ，王　45−46
レーマン　6−10，15，21−24，26
レーマン，王　36−37
レーマン人
アンモンのたみをこうげきする　74，94−95
教会にくわわる　73
くいあらためる　73，102
じゃあくなレーマン人　138−139，154
正しいレーマン人　102，111，136−137
ニーファイのたみから分かれる　26，138
ニーファイのたみをこうげきする　36−37，42，57，86，139−141
のうけたのろい　26
レーマン人サムエル　111−113
レムエル　6−8，10，15，21−24，26
ろうや
ニーファイとアミュレクのためにろうやのかべがくずれる　62
ろうやでまもられたニーファイとリーハイ　99−102



2 902356 663008
35666 300